取扱書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。

このたびはHARRIERをお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は**ハリアー**の取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
・メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の取扱書も併せてお読みください。
・トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

●保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
●トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
●取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートと共に車に大切に保管してください。
●車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートを車に付けておいてください。

車の仕様などの変更により、本書の内容が車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただく方のために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、オーディオ、室内装備品（サンバイザー、カップホルダーなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

ＳＲＳエアバッグ、ＡＢＳなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境に配慮した経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること

その他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています

 知 識

知っておくと便利なこと
知っておいていただきたいこと

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。

してはならない行為

操作説明（3～8章）の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル
階層により区別してあります。

★
グレード等により装備の有無が異なることをお知らせします。

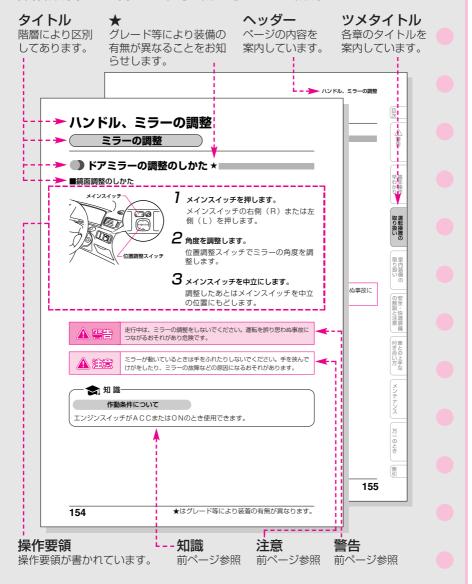
ヘッダー
ページの内容を案内しています。

ツメタイトル
各章のタイトルを案内しています。

操作要領
操作要領が書かれています。

知識
前ページ参照

注意
前ページ参照

警告
前ページ参照

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称ＳＩ単位）を基本に記載し、従来単位を｛　｝内に記載してあります。

＊このページはサンプルですので記載内容は実際の車とは異なります。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。

タイトルからさがす

6

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」

取り付け位置からさがす

8

- 「イラスト目次」

名称からさがす

474

- 「五十音さくいん」

警告灯からさがす

484

- 「警告灯さくいん」

症状からさがす

474

- 「五十音さくいん」
  （色つき文字の項目）

目　次

イラスト目次　8

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと　13
- 安全・快適ドライブのために　14
- 安全装備について　41

2 基本操作早わかり（はじめてこの車にお乗りになる方へ）　91
- 各部の開閉　92
- シートの調整　94
- シートベルトの着用　96

3 運転装置の取り扱い　108
- ドア、ドアガラスなどの開閉　110
- シートの調整　152
- シートアレンジ　164
- シートベルトの着用　172
- 子供専用シート　178

4 室内装備の取り扱い　255
- エアコンの取り扱い　256

5 安全・快適装備の解説と注意　339
- ＳＲＳエアバッグ　340
- シートベルト関係　354
- ディスチャージヘッドランプ　356
- レインクリアリングミラー　357

6 車との上手な付き合い方　371
- 雨の日の運転について　372
- 寒冷時の取り扱い　373

7 メンテナンス　387
- 車の手入れ　388
- 日常点検　414

8 万一のとき　439
- 工具、スペアタイヤ、発炎筒　440
- 故障したときは　450
- パンクしたときは　452

さくいん　473
- 五十音さくいん　474

・運転装置について 62
・メンテナンスについて 68
・オーバーヒート・万一の事故 80
・その他の注意 83

・運転するときは 98
・警告灯 102
・スイッチ類の取り扱い 104
・エアコン・オーディオ 106

・チャイルドシートの固定 186
・ハンドル、ミラーの調整 193
・エンジンのかけ方 200
・シフトレバーの使い方 203
・オートマチック車の運転のしかた 210
・パーキングブレーキペダルの使い方 216
・メーター、表示灯、警告灯の見方 218
・スイッチの使い方
（ランプ、ワイパーなど） 238

・オーディオの取り扱い 266
・室内装備品の使い方
（サンバイザー、カップホルダーなど） 306

・撥水機能付ガラス 359
・盗難防止システム 360
・ＡＢＳ、ブレーキアシスト 363
・フルタイム4WD 367
・トランスミッション 368
・インテリジェントＡＦＳ 369

・経済的な運転 382
・環境保護のために 385

・メンテナンスデータ 428
・ユーザーカスタマイズ 436
・初期設定が必要な機能 438

・バッテリーがあがったときは 461
・オーバーヒートしたときは 464
・けん引について 467
・事故が起きたときは 471
・車両を緊急停止するには 472

・警告灯さくいん 484

イラスト目次

インストルメントパネル

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

室　内

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

イラスト目次

車 両 外 観

＊装備のちがい、注文装備も含んでいます。

1 安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので必ずお読みください。

安全・快適ドライブのために …… 14

1. 点検整備実施のお願い 14
2. お出かけ前の注意 15
3. 燃料補給時の注意 20
4. 走行前の注意 22
5. 走行するときの注意 23
6. 走行中、異常に気付いたら 30
7. 駐停車するときの注意 33
8. 排気ガスに対する注意 36
9. お子さまを乗せるときの注意 38

安全装備について …… 41

1. シートについての注意 41
2. 子供専用シートについての注意 45
3. シートベルトについての注意 48
4. ＳＲＳエアバッグについての注意 54
5. ＡＢＳ・ブレーキアシストについての注意 61

運転装置について …… 62

1. オートマチック車についての注意 62
2. 4WD車についての注意 65

メンテナンスについて …… 68

1. 点検・手入れ時の注意 68
2. タイヤについての注意 70
3. バッテリーについての注意 75
4. ジャッキアップについての注意 77

オーバーヒート・万一の事故 …… 80

1. オーバーヒートについての注意 80
2. 万一の事故のときの注意 81

その他の注意 …… 83

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

①点検整備を必ず実施してください。

●日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検（P.414参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
・定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、定期的に実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。

●点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、末永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。

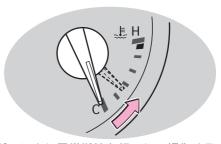
●点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼き付きなどを起こすおそれがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）をこえての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。

●日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。

お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②水温計の指針が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

●暖機不足の状態では、触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
●暖機は水温計の指針が動き出す程度で十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

●ドアが確実に閉まっていないと走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときは半ドア警告灯（P.236参照）が点灯します。

④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などが付いているときは、取り除いてください。

●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。（マニュアルチルトステアリング装着車）

●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。

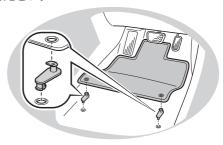
●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。

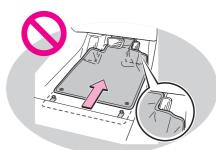
・運転席専用のフロアマットを使用してください。

・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。

・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。

・エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

⑧助手席や後席に荷物を積み重ねたり、トノカバーの上に荷物を置かないでください。

●急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●荷物はラゲージルームに安定した状態（例えば、ラゲージルーム前方に均等に）で置いてください。

⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。

●万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

●ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●いつもと違う音や臭いや振動がするとき
●ハンドル操作に異常を感じたとき
●ブレーキ液が不足しているとき
●地面に油のもれたあとが残っているとき
●メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき

⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

●飲酒運転は法律で禁止されています。
●飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいないことを確認してください。

●エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。

3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

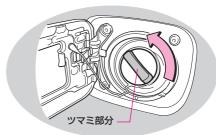
①指定以外の燃料を使用しないでください。

●指定燃料は、無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
●指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用するとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

②燃料補給時には次のことを必ずお守りください。

●エンジンは必ず停止してください。
●車のドア、窓は閉めてください。
●タバコなど火気を近付けないでください。

●フューエルリッド・フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。

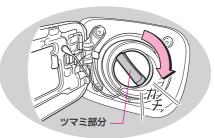
●フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。
気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。
その音が止まってからゆっくり開けてください。

●給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。（再帯電することがあります）

●給油口には静電気除去を行った方以外を近付けないでください。

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。

●車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。

●その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

③給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください。

●燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

この車は構造上、通常の乗用車に比べ車両の直前、ななめ前方および後方が確認しにくいので、発進時は、車両のまわりの状況をより十分に注意してください。

①発進前に車のまわりの安全を十分確認してください。

●駐車後発進するときは、車のまわりの安全を十分確認してから発進してください。

●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車のまわりの安全を十分確認してから、車から降りて後方を確認してください。

●信号待ちなどで停車したときは、いつもまわりの状況に目を配り、安全を十分確認してから発進してください。

5. 走行するときの注意

**走行するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①走行中はエンジンを停止しないでください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

②走行中はハンドル位置やミラー、運転席シートの調整はしないでください。

●調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

●ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ブレーキペダルに足を乗せたり、パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。

●ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤下り坂ではエンジンブレーキを併用してください。

●ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑥車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

●エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●オイルの温度が上がりすぎたり潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

⑧ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。

●ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
●電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

⑨ぬれた路面や積雪路、凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。

●すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑩冠水した道路は走行しないでください。

●冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
・ブレーキの効き具合
・エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

⑪湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。

●外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑫洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。

●ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

⑬スタック※したときは

●スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
●タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤ等）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスミッションやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
・シフトレバーをⒹまたはⓇに確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
・過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
・過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなってからブレーキ操作をしてください。
・数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
●スタック脱出には、次の方法が有効です。
・タイヤ前後の土や雪を取り除く
・タイヤの下に木や石などをあてがう
●けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。

※ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

⑭走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑮窓やムーンルーフから手や顔などを出さないでください。

●走行中、手や顔などを出していると、車外のものなどにあたったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ムーンルーフの開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(マルチパネルムーンルーフ装着車)

⑯ドアガラスやムーンルーフを閉めるときは、他の人の手や頭などを挟まないように注意してください。

●ドアガラスやムーンルーフ(マルチパネルムーンルーフ装着車)に挟まれると、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑰グローブボックスや小物入れなどのフタを開けたまま走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑱フロントウインドゥの撥水機能付ガラスは、ワイパーにかわるものではありません。

●降雨時などは、一般の車と同様、ワイパーを作動させ、ガラスの水滴を取り除くようにしてください。
とくに、以下のようなときは、ガラスに水滴が付いたまま走行すると、水滴が乱反射を起こして、視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・逆光時
・トンネルなどの暗い場所から出たとき
・夜間、街路灯の下やトンネルなどの明るい場所に入ったとき

⑲ウインドゥガラスにアクセサリーを取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。

●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳走行中はドアレバーを引かないでください。

●ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに運転席は、ロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため注意してください。

走行中、異常に気付いたら、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①警告灯が点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。

●点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。（P.226参照）

②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。

ブレーキ警告灯

●警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
- ・エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
  この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
- ・ブレーキ警告灯がＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき
  この場合、ＡＢＳ ＆ ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

●エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングの油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。

●ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
●次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
・ハンドルが取られるとき
・異常な振動があるとき
・車両が異常に傾いたとき
●パンクしたまま走行しないでください。
パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。

●ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品・タイヤ・ディスクホイール・駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音は、ブレーキパッドウェアインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近付いたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーは絶対に抜かないでください。キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

7. 駐停車するときの注意

駐停車するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

●車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務付けられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
●車から離れるときは、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・シフトレバーをⓅにする
・パーキングブレーキをかける
・エンジンを停止する
・ドアを施錠する

②可燃物付近に車を止めないでください。

●車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
●木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を十分離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
●枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。(P.380参照)

●輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④停車中に空ぶかしをしないでください。

●排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤炎天下で駐車するときは、メガネ、ライター、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。

●車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
●炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
●車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの変形、ひび割れを起こすことがあります。

⑥仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。

- エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
  また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

8. 排気ガスに対する注意

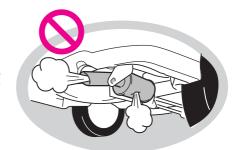
排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（ＣＯ）が含まれています。
誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。

●車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（ＣＯ）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

●エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③排気管はときどき点検してください。

●排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は十分に排気管が冷めてからにしてください。

④バックドアを開けたまま走行しないでください。

●開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。

●すべての窓を全開にして新鮮な外気を車内に入れてください。
●すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

9. お子さまを乗せるときの注意

お子さまを乗せるときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①お子さまはリヤシートに座らせてください。

●助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。
チャイルドプロテクターの使用方法は、P.120をお読みください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。

●ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。（P.172参照）

●シートベルトの肩部ベルトが首やあごにあたったり、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。
子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。

●お子さまがシートベルトで遊んで、万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

④ドア、ドアガラス、ムーンルーフ（マルチパネルムーンルーフ装着車）などはお子さまに操作させないでください。

●お子さまが操作すると、閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●チャイルドプロテクター（P.120参照）やウインドゥロックスイッチ（P.137参照）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。

- 炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
- エンジン スイッチにキーを付けたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウインドゥのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対にキーを付けたままお子さまを車内に残さないでください。

1. シートについての注意

シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①シートは正しい運転姿勢がとれるように位置を調整してください。

●正しい運転姿勢をとらないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・ＳＲＳエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、P.152をお読みください。

②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。（マニュアルシート装着車）

●固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③走行中はシートの操作をしないでください。

●ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

●必要以上に背もたれを倒していると、衝突または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。

●正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。フロントシートのヘッドレストは、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。リヤシートのヘッドレストは、ヘッドレストを必ず上げた状態で使用してください。

⑦シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では、操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑧倒した背もたれの上やラゲージスペース、またシートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。

●急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨フラットシートにしたときは、次のことをお守りください。

●シートをフラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑩リヤシートの背もたれを前倒しするとき、またはもどしたときは、次のことをお守りください。

●シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれやシートクッションに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、確実に固定されたことを確認してください。確実に固定されていないとシートが固定されず、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●背もたれをもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品の間に指や腕などを入れないように注意してください。指や腕などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●トノカバーを取り付けるときは、“カチッ”と音がして確実に固定されたことを確認してください。トノカバーが確実に固定されていないと、走行中トノカバーがはずれ、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑪ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。

●ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑫シートヒーターを使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。

●次に相当する方が使用される場合は、ヒーター使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので、十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
●毛布や座ぶとんなど保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあり危険です。
●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

⑬シートの下にものを置かないでください。

●ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。

**子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまは、体に合った子供専用シートに座らせてください。

●乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していなくて、また頭は他の部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
●幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかってしまいます。衝突した場合、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートをご使用になるときは、必ず商品に付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってご使用ください。

●使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
●子供専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。

③子供専用シートは確実に固定できるように取り付けてください。

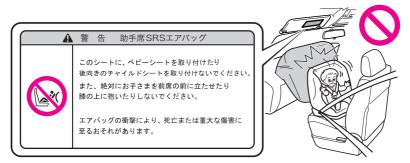
●子供専用シートは、取り付け位置や取り付け方向に注意をして確実に取り付けてください。取り付けが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●シートベルトで子供専用シートを取り付けるときは、シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
●取り付け後はチャイルドシートを左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。

■子供専用シートはリヤシートに取り付けてください。

●リヤシートには子供専用シートの取り付け装置が装備されています。（P.188参照）
●運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取り付けられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取り付けず、助手席側リヤシートに取り付けてください。

●テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。

●うしろ向きに取り付けた場合、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

●やむを得ず、助手席に前向きに子供専用シートを取り付ける場合には、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取り付けてください。
お守りいただかないと、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。

■チャイルドシート固定専用バーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取り付けるときは、専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

●異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず危険です。

④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

シートベルトについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトの着用は法律で義務付けられています。運転者は乗員全員が次の使用方法に従って、シートベルトを正しく着用しているかを確認してから走行してください。

●背もたれを調整し、上体を起こし深く腰かけて座ること

肩部ベルト
●肩に十分かけること
（首にかかったり、肩からはずれないこと）

腰部ベルト
●必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること

●ねじれていないこと

〈正しい着用のしかた〉

■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

●正しい姿勢については、P.152をお読みください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

●シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。
●ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■アジャスタブルシートベルトアンカー（P.176参照）を確実に調整してください。

●シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるよう、できるだけ高い位置に調整してください。
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

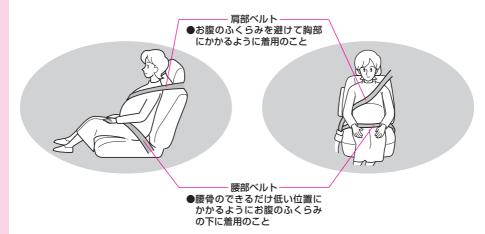
●シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。

■シートベルトは必ず１人で１本のベルトを着用してください。

●2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどして危険です。

②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

- ●妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
  また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ●ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

③疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。

正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。

●ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。
ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■**洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみを付けて使用しないでください。**

●肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、頭をハンドルにぶつけたり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

■**プレートをバックルに挿し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。**

●異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。

⑤シートベルトを損傷させたり、損傷したシートベルトは使用しないでください。

損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷が付くおそれがあり、そのまま使用すると危険です。

■ほつれ、すり切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷付いたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

●このまま使用すると、衝突のときなどの衝撃によりベルトが切れる可能性があります。また、正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

●シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。

■シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。

●衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。
シートベルトの取り付け・取りはずし・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■プリテンショナー付シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどはしないでください。

●プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがありますので、修理は必ずトヨタ販売店で行ってください。

■プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は再使用しないでください。

●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

●シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。
●清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

ＳＲＳエアバッグについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

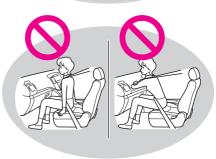
①ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
シートベルトの正しい着用については、Ｐ.172をお読みください。

■シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。

●ＳＲＳエアバッグの展開部におおいかぶさったり、近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

《運転者の方は》
運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

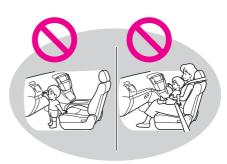
《助手席乗員の方は》
助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。
シートの調整、正しい姿勢については、Ｐ.152をお読みください。

■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔にあたったり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

■ドアにもたれかかったり、フロント・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。（ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車）

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。
とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。

■お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。
不適切な作業を行うと、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントシートの表皮の張りかえやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントピラー、ルーフサイド部の取りはずし・取り付けなどＳＲＳエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

●サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグが誤作動し危険です。

●車両前部または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

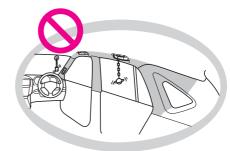
●ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。

●インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。

●キーに重いもの・とがったもの・硬いものを付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。
●インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

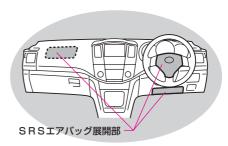
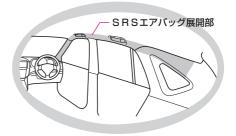
●ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、フロントウインドゥ、フロントドアガラス、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

●無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●車両前部にグリルガードやウインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが誤作動するなどして危険です。

④ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

●ステアリングパッド（運転席ＳＲＳエアバッグ）、インストルメントパネル上部（助手席ＳＲＳエアバッグ）および下部（運転席ＳＲＳニーエアバッグ）、フロントピラー、ルーフサイド部（前後席ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ）、フロントシート側面（前席ＳＲＳサイドエアバッグ）など、ＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑤ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品にふれないでください

●構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＡＢＳ・ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

①ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
ＡＢＳ、ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分にとって安全運転に心がけてください。
・ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※が起こった場合は、効果を発揮できません。

※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分に取ってください。
・砂利道、新雪路を走行しているとき
・タイヤチェーンを装着しているとき
・道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
・凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

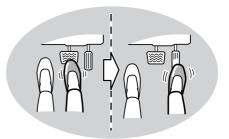
①オートマチック車の特性

■クリープ現象

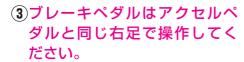
エンジンがかかっているとき、シフトレバーがⓅ、Ⓝ以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。

■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切りかわり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。
これをキックダウンといいます。

②運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。

●アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●後退するときは、体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
●車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。

●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、エンジンをかけてください。

●安全のためシフトレバーはⓅにして、ブレーキペダルをしっかり踏みエンジンをかけてください。

⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はシフトレバーをⓃにしないでください。

●Ⓝにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●Ⓝにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。

⑦走行中はシフトレバーをⓅにしないでください。

●オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをⓇにしないでください。

●車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。

⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

●シフトレバーがⓅ・Ⓝ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをⓅにしてください。

●Ⓟ以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪坂道などでは、シフトレバーをⒹまたはⓈにしたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

●同様にⓇにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫その他にも以下の点に注意してください。

●少し後退したあとなどは、シフトレバーがⓇにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐⓃにもどすよう習慣付けましょう。
●切り返しなどでシフトレバーをⒹからⓇ、ⓇからⒹと何度もレバー操作をするときは、そのつど、ブレーキペダルをしっかり踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①無理な運転は禁物です。

●この車の4WDは、オンロード専用です。
オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした4WDですので無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

●4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

●前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。

④渡河などの水中走行はしないでください。

●渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
●万一、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目を点検してください。
・ブレーキの効き具合
・エンジン・トランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です）
・プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

⑤タイヤはすべて必ず指定サイズで、同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

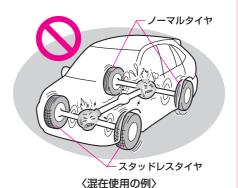
〈混在使用の例〉

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
- ・4輪の空気圧の差が著しいとき
- ・空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.396参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.434参照）

1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
点検整備の詳細については「メンテナンスノート」をお読みください。

①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近付けないでください

●エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近付けないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

②エンジン停止直後はエンジン、排気管、ラジエーターなど高温部にはふれないでください。

●やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

③エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。

●オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

●ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、さびてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

●配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

●ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

●点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨ブレーキフルードの量を点検してください。

●ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

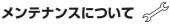
タイヤについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

●タイヤの点検は、法律で義務付けられています。
●タイヤは以下の点について点検してください。
・タイヤの空気圧
・タイヤの亀裂・損傷の有無
・タイヤの溝の深さ
・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）
タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

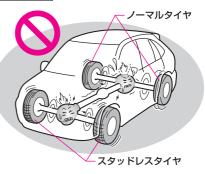
②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。

●指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.434で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
●タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

ＦＦ車

4WD車

〈混在使用の例〉

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
・4輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき
●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.396参照）
●ディスクホイールを交換するときも、指定外のディスクホイールを装着しないでください。（P.434参照）

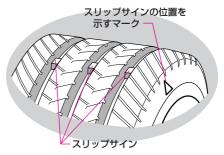
●指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
・ＡＢＳ
・ブレーキアシスト
・インテリジェント ＡＦＳ
・ＧＰＳボイスナビゲーション
・バックガイドモニター
・フロント ＆ サイドモニター

また、フルタイム4WDシステムは性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

●タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※1により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※1 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

※2 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※2

〈例：スリップサインが出ている状態〉※2

⑤タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

●指定サイズのタイヤを使用してください。
●指定空気圧に調整してください。
●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤを交換したときは、ホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。

●確実に締まっていないと、ホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締め付けトルク：約103N・m {1030kgf・cm}
●タイヤを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧歩道の縁石などにタイヤがあたらないように注意してください。

●タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑨タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑩ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。

●つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑪段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

●段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。

⑫応急用タイヤについては、以下の点に注意してください。

●応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
●応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa {4.2kg/cm^2}
●車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑬走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

●走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

●バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。（P.461参照）

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや充電中は、バッテリーに近付かないでください。

●充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近付けないでください。

●バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取り付け、ナットを確実に締め付けてください。

●確実に取り付けたり、締め付けたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。

- 車が動きジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

②ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。

- 万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
●ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.453参照）にかかっていることを必ず確認してください。
●車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

●他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

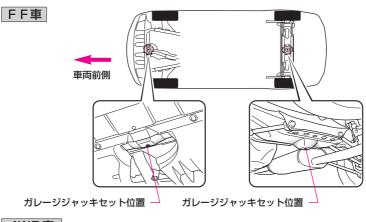
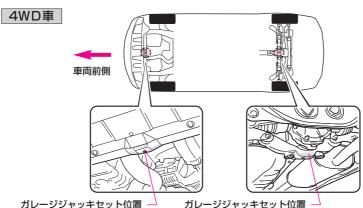
●室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置にあててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ガレージジャッキ

ＦＦ車

4WD車

●ガレージジャッキは、受け皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受け皿タイプを使用してください。

1. オーバーヒートについての注意

オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

①オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。

●エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分もありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

②ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ、エア抜きバルブを開けないでください。

●蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●キャップ、バルブを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ、バルブを包み、ゆっくりと開けてください。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。
けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中にエンジン スイッチからキーを抜いたり、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしないでください。

●キーが抜けていると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”だとキーが抜けるおそれがあります。

**④発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。
また、発炎筒を使用中は、顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。**

●可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①違法改造は絶対にしないでください。

●トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
●車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
・タイヤ、ディスクホイール、ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
●フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

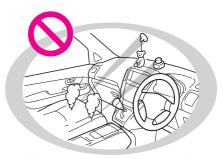
②灰皿を使用したあとは、マッチ、タバコの火を確実に消し、必ずフタを閉めておいてください。

●開けたまま放置すると車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

! その他の注意

③メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

●室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすおそれがあります。
●室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
●ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

④ウインドゥガラスなどには、吸盤を付けないでください。

●ウインドゥガラスにアクセサリーの吸盤を取り付けたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑤シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドゥを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドゥを開けたまま放置すると、直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

⑥走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

●走行中はバックドアを閉じてください。開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せているときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

・ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
　誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

・お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
　不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

・バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。

・バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

・強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

・半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

! その他の注意

・バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
・バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります

・バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⑦バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。(パワーバックドア装着車)

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●イージークローザーはパワーバックドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

⑧パワーバックドアについては以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
・周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
・人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
・自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチをOFFにすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
・自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
・傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジン スイッチを“ON”にしたり、エンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。

●タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをOFFにしてください。OFFにしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機構作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
・挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
・挟み込み防止機構は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
・挟み込み防止機構は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⑨ワイヤレスドアロックリモコンの電池交換時に、取りはずした電池や部品をとくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑩ミラーヒーターの作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。（ミラーヒーター装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑪車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないように注意してください。

●インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑫エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、排気管にふれないように注意してください。

●エンジンがかかっているときや､エンジン停止直後の排気管は高温になっています。荷物の積み降ろし時などに手や足がふれると、やけどをするおそれがあります。

⑬フロントワイパーデアイサー作動中は、フロントウインドゥガラス下部、および運転席側フロントピラー周辺部の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。（フロントワイパーデアイサー装着車）

●やけどをするおそれがあり危険です。

⑭樹脂バンパーやアルミ部分には、磁石で固定するアクセサリーを取り付けることができません。

●磁石は樹脂やアルミに付かないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取り付けることができません。

⑮カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック、移動式灰皿(P.314参照)以外のものを入れないでください。

(P.314参照)

●急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

⑯トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまを乗せたりしないでください。

●トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑰電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。

●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

⑱ディスチャージヘッドランプを交換するとき(電球交換を含む)は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑲寒冷時は、ウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。

●ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑳雪壁などのある道では、インテリジェントＡＦＳを使用しないでください。(インテリジェントＡＦＳ装着車)

●雪の斜面などにヘッドランプが反射して運転のさまたげになり、思わぬ事故につながる可能性があります。

㉑内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

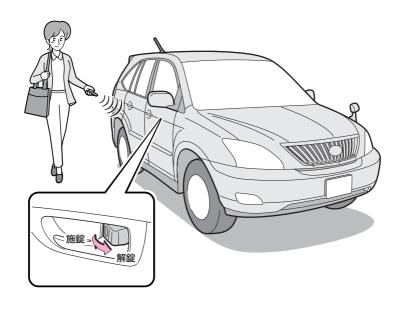
●インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

2

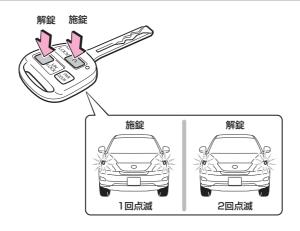
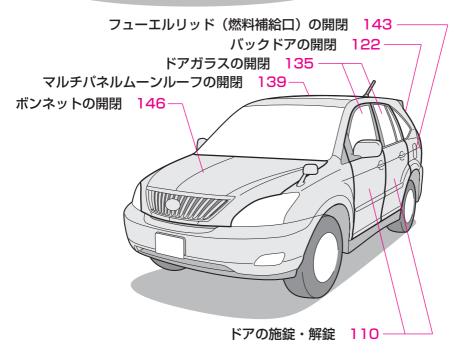
基本操作早わかり

（はじめてこの車にお乗りになる方へ）

この章では、はじめて車を購入された方やトヨタ車にはじめてお乗りになる方のために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。
詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりお読みください。

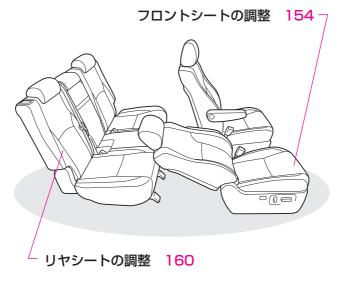
各部の開閉……………………………… 92
シートの調整…………………………… 94
シートベルトの着用…………………… 96
運転するときは………………………… 98
警告灯………………………………… 102
スイッチ類の取り扱い……………… 104
エアコン・オーディオ……………… 106

ドアの施錠と解錠

各部の開閉に関する詳しい紹介は

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉　143
バックドアの開閉　122
ドアガラスの開閉　135
マルチパネルムーンルーフの開閉　139
ボンネットの開閉　146
ドアの施錠・解錠　110

ドアガラスの開閉

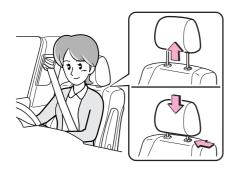
フューエルリッド（燃料補給口）の開け方

運転席の調整機能（その1）

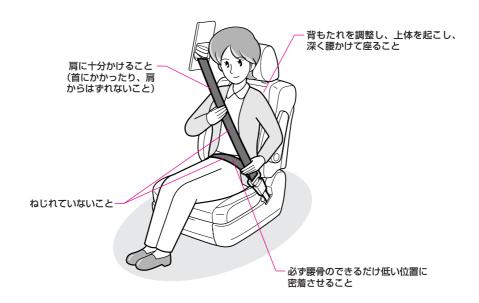
前後位置	背もたれの角度	クッション前端の上げ下げ	シート全体の上げ下げ
パワーシート			
マニュアルシート			

シートに関する詳しい紹介は

●シートアレンジについてはP.164を参照してください。

運転席の調整機能（その2）

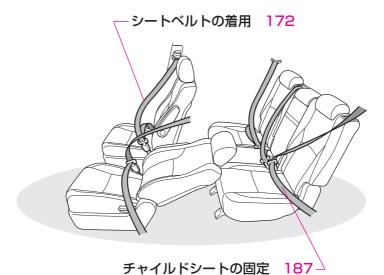
ヘッドレスト

運転席の調整機能（その3）

アームレスト

付け方

1 ベルトを引き出します。

2 プレートをバックルに挿し込みます。

❶“カチッ”という音がするまで挿し込みます。
❷アンカーの高さを調整します。

シートベルトに関する詳しい紹介は

はずし方

❶バックルのボタンを押します。
❷ベルトを巻き取らせます。

"LOCK"（ロック）

キーを抜き挿しできる位置
キーを抜くとハンドルがロックされます。

"ACC"（アクセサリー）

エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置
オーディオ、シガレットライター、ドアミラーなど

"ON"（オン）

エンジン回転中の位置
すべての電装品が使用できます。

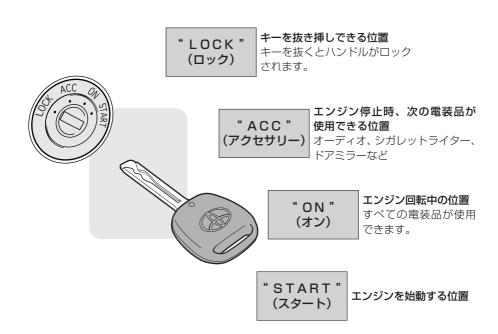
"START"（スタート）

エンジンを始動する位置

エンジンのかけ方

1 ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

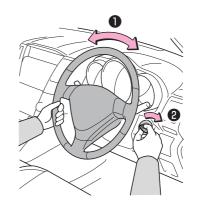
パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

2 シフトレバーの位置を確認します。

3 "START"までキーをまわします。

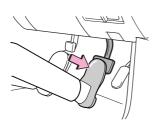
キーの抜き方

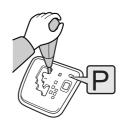
シフトレバーを🅟にして、行います。

❶“ACC”からキーを押し込んで
❷“LOCK”にまわし引き抜きます。

ハンドルロックの解除

❶ハンドルを動かしながら、
❷キーをまわします。

シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

1 右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。

パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

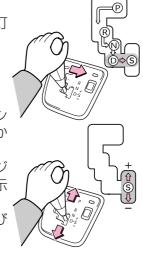
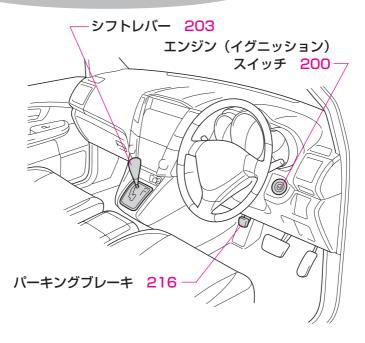
2 シフトレバーを🅟から操作します。

シーケンシャルシフトモードの使い方

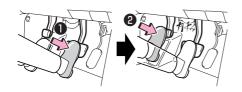
1 シフトレバーを**S**にします。

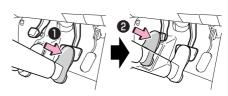
●シーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。

2 シフトアップするときはシフトレバーを＋側、シフトダウンするときはシフトレバーを－側に動かします。

●選択されているシフトレンジがシフトレンジ表示に表示されます。**P**、**R**、**N**、**D**は表示されません。

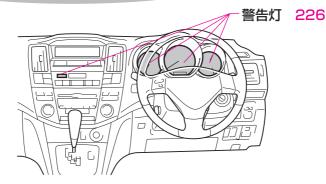
●選択されたシフトレンジで、スピードおよび走行条件に応じて自動で変速します。

運転装置に関する詳しい紹介は

パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら
❷左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

かけ方

❶右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら
❷左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

警告灯が点灯または点滅したままのときは

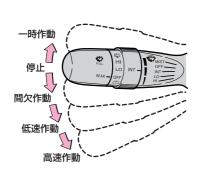
警告灯		警告理由
(ABS)	ABS & ブレーキアシスト警告灯	ＡＢＳまたはブレーキアシストシステムの異常です。
	ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯	ＳＲＳエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
	エンジン警告灯	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	ディスチャージヘッドランプオートレベリングシステムの異常です。
(!)	ブレーキ警告灯	●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
− +	充電警告灯	充電系統の異常です。

警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯が点灯または点滅したままのときは

警告灯		警告理由
	油圧警告灯	エンジン内のオイルの圧力の異常です。
A/T OIL TEMP	オートマチックトランスミッション油温警告灯	トランスミッション内のフルード温度の異常です。
警告灯	燃料残量警告灯	燃料切れが近付いています。（約11L以下で点灯）
	半ドア警告灯	いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていません。
	運転席シートベルト非着用警告灯	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。

＊この他にも、表示灯の点灯または点滅により異常を知らせる場合もあります。詳しくはP.221を参照してください。

夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

ランプのつけ方

スイッチに関する詳しい紹介は

非常点滅灯スイッチ　250

ワイパー ＆ ウォッシャースイッチ　244

ランプスイッチ　238

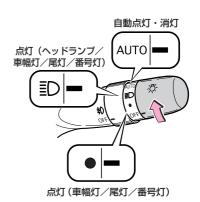
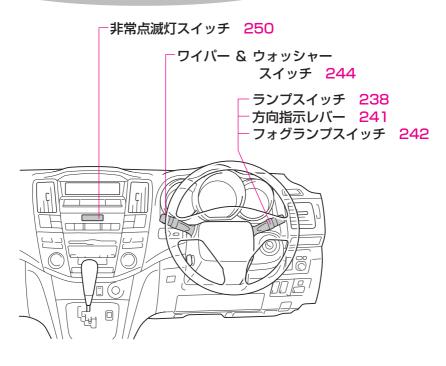
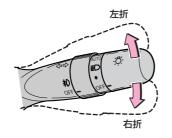
方向指示レバー　241

フォグランプスイッチ　242

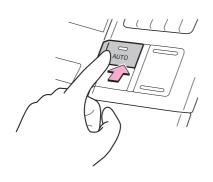
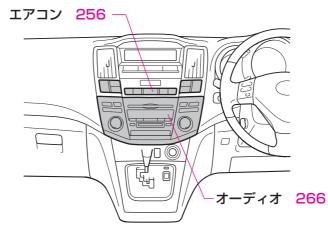
他車への合図

方向指示

非常点滅灯

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エアコンの使い方

1 ＡＵＴＯスイッチを押します。

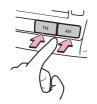
2 希望温度に合わせます。

エアコン・オーディオに関する詳しい紹介は

オーディオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

電源入・切　　**音量**
ＣＤ・ＭＤを聞くには

ＣＤ、ＭＤが挿入されているときは、ＤＩＳＣ、ＭＤボタンを押します。

ラジオを聞くには
ＡＭ・ＦＭ放送の切りかえ

放送局の設定

ＡＵＴＯ･Ｐボタンを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動でプリセットボタンに放送局を記憶させることができます。

3 運転装置の取り扱い

ドア、ドアガラスなどの開閉 …… **110**
ドアの施錠・解錠 110
バックドアの開閉 122
ドアガラスの開閉 135
マルチパネルムーンルーフの開閉 139
フューエルリッド（燃料補給口）の開閉 143
ボンネットの開閉 146
オートアラーム（盗難警報システム）の使い方 148

シートの調整 …… **152**
正しい運転姿勢 152
フロントシート 154
リヤシート 160

シートアレンジ …… **164**
インデックス 164
フラットシートのつくり方 166
リヤシート全席の前倒しのしかた 168
リヤ中央席のみの前倒しのしかた 170

シートベルトの着用 …… **172**
シートベルトの正しい着用 172
シートベルトの着用のしかた 175

子供専用シート …… **178**
子供専用シートについて 178

チャイルドシートの固定 … **186**
チャイルドシートの取り付け 186
シートベルトでの固定 187
専用バーでの固定 188
トップテザーアンカーでの固定 189

ハンドル、ミラーの調整 … **193**
ハンドルの調整 193
インナーミラーの調整 195
ドアミラーの調整 196
補助確認装置の使い方 199

エンジンのかけ方 …… **200**
エンジン（イグニッション）スイッチの使い方 200
エンジン始動の手順 201

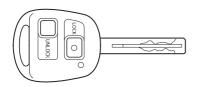
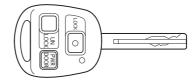
シフトレバーの使い方 …… 203
シーケンシャルシフトマチック付
オートマチック
トランスミッション 203
オートマチック車の
運転のしかた …………… 210
発進のしかた 210
走行のしかた 212
停車・駐車のしかた 214
パーキングブレーキペダルの
使い方 ……………………… 216
パーキングブレーキペダルの
取り扱い 216
メーター、表示灯、
警告灯の見方 …………… 218
メーター 218
表示灯 221
警告灯 226
スイッチの使い方 ………… 238
ランプの使い方 238
方向指示レバーの
使い方 241
フォグランプの使い方 242
ワイパー ＆ ウォッシャーの
使い方 244
リヤウインドゥデフォッガー
（曇り取り）の使い方 248
フロントワイパーデアイサーの
使い方 249
非常点滅灯の使い方 250
メーター照度調整
ダイヤルの使い方 251
ホーンの使い方 252
ＡＦＳ ＯＦＦスイッチの
使い方 253

ドア、ドアガラスなどの開閉

ドアの施錠・解錠

ワイヤレスドアロックリモコン（キー）について

パワーバックドア非装着車

パワーバックドア装着車

ワイヤレスドアロック機能を備えています。
このキーを使って、ドアの施錠・解錠や、エンジンの始動・停止などの操作を行います。

リモコンスイッチは電子部品です。強い衝撃などを与えないでください。

リモコンスイッチは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。

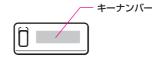
●ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
●分解しないでください。
●落としたり、強い衝撃を与えないでください。
●水にぬらさないでください。

知識

キーについて

キーは3枚あります。
●プロテクターが黒色のキーがマスターキー、灰色のキーがサブキーです。
●パワーバックドア装着車のキーには、パワーバックドアリモコンスイッチが付きます。
●ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはP.113を、パワーバックドアリモコンスイッチの操作についてはP.131を参照してください。
●この車にはオートアラーム（盗難警報システム）が装備されています。詳しくは、P.148を参照してください。
●マスターキーを紛失しないよう十分注意してください。マスターキーを紛失すると、キーの作製にコンピューターの交換が必要となります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
●キーを作製するときは、トヨタ販売店にご相談ください。トヨタ純正品以外のキーを使用すると、キーがスムーズにまわらなくなるおそれがあります。
●万一、キーを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
＊キーの組み合わせは、車の仕様により異なる場合があります。

キーナンバープレートについて

●お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。
●キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
●万一、キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーからトヨタ純正品のキーを作製することができます。

電池交換について

●リモコンスイッチを押しても作動しない場合や著しく作動可能距離が短くなった場合またはＬＥＤ（パワーバックドアリモコンを除く）が暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。とくに、ワイヤレスドアロックリモコンを使ってドアを施錠できないと、オートアラーム（盗難警報システム）をセットすることができません。すみやかに電池を交換してください。
●電池交換は、市販の精密ドライバーを使用すればお客様自身で交換することができます（P.397参照）が、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

知識

航空機内へのキーの持ち込みについて

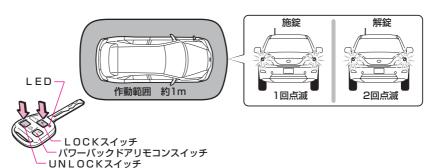
航空機にワイヤレスドアロックリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスドアロックリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

紛失について

ワイヤレスドアロックリモコンを紛失したときは、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

使用枚数について

ワイヤレスドアロックリモコンは、同じ車両で最大4枚まで使用することができます。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

ワイヤレスドアロックリモコンを使ってのドアの施錠・解錠のしかた

ＬＯＣＫスイッチを1回押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が施錠、ＵＮＬＯＣＫスイッチを1回押すと、すべてのドア（バックドアを含む）が解錠されます。※

●施錠したときはブザーが1回鳴り、非常点滅灯が1回点滅します。※
　解錠したときはブザーが2回鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。※
●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。
●スイッチを押すと、ＬＥＤが点灯します。
●ＬＯＣＫスイッチを押して施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。
●ＵＮＬＯＣＫスイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは自動的に施錠されます。※

ワイヤレスドアロックリモコンを使ってドアを施錠しないと、オートアラーム（盗難警報システム）は作動可能状態になりません（P.148参照）。
ドアの施錠は、ワイヤレスドアロックリモコンで行うことをおすすめします。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

知 識

オートアラーム（盗難警報システム）について

ワイヤレスドアロックリモコンを使ってドアを施錠すると、オートアラーム（盗難警報システム）が作動可能状態になります。システムが作動可能状態のときに、ドアのキーシリンダーにキーを挿し込んでドアを解錠する（P.116参照）と、オートアラームが作動します。オートアラームについての詳しい説明は、P.148を参照してください。

作動条件について

●リモコンスイッチは周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近付いて操作してください。
●ワイヤレスドアロックリモコンは微弱な電波を使用しています。次のような場合は、リモコンと車両間の通信をさまたげ、正常に作動しない場合があります。その場合は、オートアラームの状態に注意してキーで操作してください。（P.116参照）
・近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
・無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
・リモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
・複数のリモコンが近くにあるとき
・リモコンをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
・近くでワイヤレスドアロックリモコンを使用しているとき
●ウインドゥガラス部に次のものを貼り付けると、車両後方からリモコンスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
・金属を含有するウインドゥフィルム
・その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）
●リモコンスイッチは、エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは作動しません。
●ＬＯＣＫスイッチは、いずれかのドアが開いているときは作動しません。
●ＬＯＣＫスイッチ、ＵＮＬＯＣＫスイッチを押し続けてもドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
●パワーバックドアリモコンスイッチは、グローブボックス横にあるメインスイッチがＯＦＦになっているときは作動しません。
●パワーバックドアリモコンスイッチを押して、うまく開閉作動しなかったとき、スイッチを約1秒以上押し続けても開閉操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。

知識

便利機能について

半ドア警告ブザー※

半ドアの状態でＬＯＣＫスイッチを押したときは、“ピー”と約10秒間ブザーが鳴ります。ドアを閉めるか、ＵＮＬＯＣＫスイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

イルミネーテッドエントリーシステム（P.336参照）

ドアの開閉、施錠・解錠などと連動して、室内の各照明が点灯・消灯します。

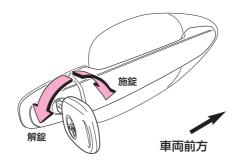
ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ連動開閉機構※

ＬＯＣＫスイッチを約3秒以上押し続けると、すべてのドアガラスが閉まり、ＵＮＬＯＣＫスイッチを約3秒以上押し続けると、すべてのドアガラスが開きます。

●スイッチから手を離すと停止します。
●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。
●エンジン スイッチにキーが挿し込まれていると作動しません。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

キーでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

前にまわすと施錠、うしろにまわすと解錠されます。

●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠、解錠ができます。

ドアのキーシリンダーにキーを挿し込んでドアを施錠した場合、オートアラーム（盗難警報システム）は、作動可能状態になりません（P.148参照）。ドアの施錠は、ワイヤレスドアロックリモコンで行うことをおすすめします。

注意	ワイヤレスドアロックリモコンのスイッチでドアを施錠して、オートアラームが作動可能状態になっている場合、ドアのキーシリンダーにキーを挿し込んでドアを解錠すると、オートアラームの警報が作動します。オートアラームについての詳しい説明は、P.148を参照してください。

知 識

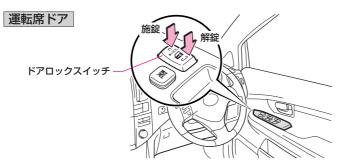
便利機能について

ドアキー連動開閉機構

キーを解錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間すべてのドアガラスが開き、施錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間すべてのドアガラスが閉まります。

●エンジン スイッチにキーが挿し込まれていると作動しません。

ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア

スイッチの前側を押すと施錠、うしろ側を押すと解錠されます。
●すべてのドア（バックドアを含む）の施錠・解錠が同時にできます。

知 識

作動条件について

●エンジン スイッチに関係なく使用できます。
●スイッチを押し続けると作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

便利機能について

衝撃感知ドアロック解除システム
車両が前後左右から強い衝撃を受けると、数秒後に全ドアが自動的に解錠されます。
●ＳＲＳエアバッグが作動しないような弱い衝撃のときや、事故の形態によっては作動しないことがあります。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
（窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します）
以下の方法で施錠したとき自動的に機能します。
●ワイヤレスドアロックリモコンスイッチを使っての施錠（P.113参照）
●ワイヤレスドアロックリモコンスイッチを使っての解錠操作後、ドアを開けなかったときの再施錠（P.113参照）
●ドアのキーシリンダーにキーを挿し込んでの施錠（前ページ参照）
●ロックレバーを使っての施錠（P.119参照）

知 識

オートドアロック機能の設定変更について

オートドアロックに関する各種設定は、必要に応じてお客さま自身で変更することができます（トヨタ販売店でも変更できます）。

●安全のため、パーキングブレーキが確実にかかっている状態で、すべてのドアを閉め、エンジン スイッチを“ LOCK ”から“ ON ”にして、約10秒以内に下表の設定変更のしかたに従ってシフトレバーとドアロックスイッチを操作してください。

●下表の設定変更のしかたに従って操作するたびに、各機能の設定が有効・無効に切りかわります。（現状の各機能の設定が有効のときは無効に、無効のときは有効に切りかわります）

●設定変更操作の終了後、自動でドアの施錠・解錠作動が行われ、設定変更の完了をお知らせします。

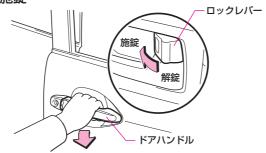
機能	機能の内容	設定変更のしかた	
		シフトレバー	ドアロックスイッチ
シフト連動オートドアロック※	エンジン回転中で、すべてのドアが閉まっているとき、シフトレバーをⓅからⓅ以外にすると、すべてのドアを施錠する。	Ⓟのまま	ドアロックスイッチの前側（LOCK側）を約5秒間押し続けたあと、手をはなします。
シフト連動オートドアアンロック	エンジン スイッチが“ ON ”で、シフトレバーをⓅ以外からⓅにすると、すべてのドアを解錠する。	Ⓟのまま	ドアロックスイッチのうしろ側（UNLOCK側）を約5秒間押し続けたあと、手をはなします。
車速感応オートドアロック	車速が約20km/h以上になると、すべてのドアを施錠する。	Ⓟ ➡ Ⓝ	ドアロックスイッチの前側（LOCK側）を約5秒間押し続けたあと、手をはなします。
運転席ドア連動オートドアアンロック※	エンジン スイッチを“ ON ”から“ ACC ”または“ LOCK ”にしたあと、約10秒以内に運転席ドアを開けると、すべてのドアを解錠する。	Ⓟ ➡ Ⓝ	ドアロックスイッチのうしろ側（UNLOCK側）を約5秒間押し続けたあと、手をはなします。

※初期設定（工場出荷時）は無効に設定されています。

ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■車内での施錠・解錠

ロックレバーを前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■車外からの施錠

フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。リヤドアはロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

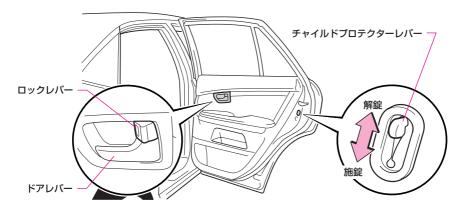
知 識

オートアラーム（盗難警報システム）について

ロックレバーにより車外から施錠した場合、オートアラーム（盗難警報システム）は作動可能状態にはなりません。ワイヤレスドアロックリモコンを使っての施錠（P.113参照）をおすすめします。
オートアラームについての詳しい説明は、P.148を参照してください。

便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

チャイルドプロテクターの使い方

チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。
●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。

知 識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。

走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

- ●走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●走行中はドアレバーを引かないでください。ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに運転席は、ロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため注意してください。
- ●お子さまにドアの操作をさせないでください。
  - ・閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - ・走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

便利機能について

キー抜き忘れ防止チャイム

エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”または“ ＡＣＣ ”のとき、運転席ドアを開けると、キーの抜き忘れを警告するチャイムが“ポーン、ポーン”と鳴ります。

キーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

キー閉じ込み防止機能

エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは、運転席ドアを開けた状態から、ドアロックスイッチやロックレバーにより施錠しようとしても施錠できません。

イルミネーテッドエントリーシステム（P.336参照）

ドアの開閉・解錠・施錠などと連動して、室内の各照明が点灯・消灯します。

乗車中のドアの施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

- ●同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- ●車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- ●シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。

車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務付けられています。また、車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

初期設定（工場出荷時）では、走行すると自動的にドアが施錠されます（車速感応オートドアロック）が、必要に応じて設定を変更することができます。詳しくは、P.118を参照してください。

バックドアの開閉

開閉のしかた

■開け方

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げます。

●バックドアを開けるときは、最上部まで持ち上げてください。

●バックドアが自然に降下しないことを確認してください。

■閉め方

1 バックドアを外から押せる高さまで降ろします。

バックドアグリップを使用すると、便利です。

2 バックドア下端を外から押してロックします。

●バックドアグリップを持ったまま、直接ドアを閉めないでください。

●パワーバックドア装着車は、バックドアを半ドアの位置まで閉めると、バックドアイージークローザーが働き、自動的に全閉します。
(P.127参照)

警告 **走行中はバックドアを閉じてください。また、ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。**

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。
走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せているときは、以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
・ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
・お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

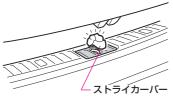
●バックドアの操作にあたっては、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
・バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
・バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
・人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
・強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

・半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

・バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
・バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
・バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
・バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

注意 バックドアを開閉する前に付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを開閉する前に、運転者はバックドアが安全に開閉できるように車外および車内のバックドア付近の状態を必ず確認してください。

●バックドアを閉めるときは、ストライカーバーに異物がかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。
●走行中（車速が約5km/h以上）にバックドアオープンスイッチを押してもバックドアは開きません。

ロッド部
ダンパーステー

●バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などで触れない
・バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

知識

施錠・解錠について

次の方法で施錠・解錠することができます。

- 「ワイヤレスドアロックリモコンを使っての施錠・解錠のしかた」（P.113参照）
- 「キーでの施錠・解錠のしかた」（P.116参照）
- 「ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた」（P.117参照）

開閉について

パワーバックドア装着車はバックドアの自動開閉中にバックドアオープンスイッチを押すとブザーが鳴り、その位置から自動的にドアが反対方向に動きます。

便利機能について

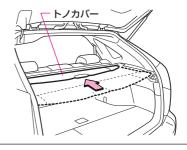
イルミネーテッドエントリーシステム（P.336参照）

ドアの開閉・解錠・施錠などと連動して、室内の各照明が点灯・消灯します。

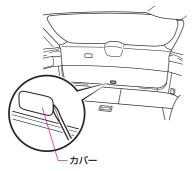
ラゲージランプ（P.309参照）

ラゲージランプのスイッチがＯＮのとき、バックドアを開けると点灯します。
夜間などの荷物確認に便利です。

自動巻き取りトノカバー

バックドアを閉める前にトノカバーを引き出している場合、バックドアを開けると自動でトノカバーを巻き取ります。バックドア連動巻き取り機能を解除することもできます。（P.327参照）

知識

エマージェンシーレバーについて

車外からバックドアを開けられなくなったときは、エマージェンシーレバーを操作して車内からドアロックを解除することができます。

1　カバーを開けます。

車内に入り、マイナスドライバーなどを使用してカバーを開けます。

パワーバックドア装着車

パワーバックドア非装着車

2　エマージェンシーレバーを押したままバックドアを押し開けます。

故障しているときは、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

バックドアイージークローザー

パワーバックドア装着車

バックドアを半ドアの位置まで閉めるとイージークローザーが働き、自動的に全閉します。エンジン スイッチに関係なく作動します。

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動的に閉まるため、指などを挟まないように注意してください。

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをバックドアで挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチがＯＦＦであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

イージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。

●イージークローザーの故障を防ぐためにイージークローザーの作動中はバックドアに無理な力をかけないでください。

●バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すと、イージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

知識

バックドアイージークローザーについて

バックドアを半ドアの位置まで閉めると、イージークローザーが働き、自動的に全閉になります。エンジン スイッチに関係なく作動します。

●パワーバックドアのメインスイッチがＯＦＦのときでもイージークローザーは作動します。
●イージークローザーの作動中でも、バックドアオープンスイッチ（Ｐ.122参照）を押すことによりバックドアを開けることができます。
●バックドアオープンスイッチを押したままドアを閉めると、イージークローザーは作動しないことがあります。
●イージークローザーを使わずに手動でバックドアを全閉にすることもできます。

バックドアの自動開閉のしかた

パワーバックドア装着車

■メインスイッチの位置

メインスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切りかわります。

●メインスイッチがＯＦＦのときは、バックドアを自動で開閉させることはできません。

メインスイッチについて

メインスイッチがＯＦＦのときでも、イージークローザーは作動します。（P.127参照）

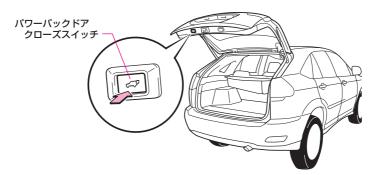
■パワーバックドアスイッチでの自動開閉

バックドアが全閉（全開）状態のとき、パワーバックドアスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。※

●開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。

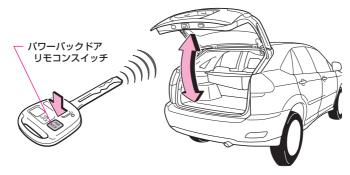
●開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

■パワーバックドアクローズスイッチでの自動閉作動

バックドアが全開状態のとき、パワーバックドアクローズスイッチを押すと、バックドアが自動で閉まります。

●閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。

●閉作動中に再度スイッチを押すと、全開方向に反転作動します。

■ワイヤレスドアロックリモコンでの自動開閉

バックドアが全閉（全開）状態のとき、パワーバックドアリモコンスイッチを約1秒以上押し続けると、自動で全開（全閉）します。※

- 開閉作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。※
- 開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
- スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

ワイヤレスドアロックリモコンを正しくお使いいただくための注意事項や作動条件など、知っておいていただきたい事項があります。P.113の「ワイヤレスドアロックリモコンを使ってのドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●パワーバックドアの操作時は、以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
・周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
・人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
・自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチをOFFにすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
・自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。この場合、坂道などの傾斜地ではバックドアが不意に動き出すおそれがあるので十分注意してください。
・傾斜した場所では、自動で開いたあとにバックドアが落ちる場合があります。バックドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にバックドアが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジン スイッチを“ＯＮ”にしたり、エンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。

●タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチをＯＦＦにしてください。ＯＦＦにしないと、いたずらや誤ってスイッチに触れたときにパワーバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

●挟み込み防止機能作動中は以下のことに注意してください。注意していただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
・挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
・挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
・挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意 **パワーバックドアの故障を防ぐために、以下のことを必ずお守りください。**

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（次ページ参照）を刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

知 識

バックドアの作動条件について

- メインスイッチがＯＦＦのときは、バックドアを自動開閉することはできません。（手動で開閉できます）
- メインスイッチがＯＮで、バックドアが解錠されているとき作動可能となります。
- エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき開作動するには、上記に加え、シフトレバーをⓅにします。
- パワーバックドアリモコンスイッチは、エンジン スイッチにキーが挿し込まれているときは作動しません。

便利機能について

バックドア閉め忘れ防止ブザー

バックドアが開いた状態で、エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしてシフトレバーをⓅ以外にシフトすると、“ピーピーピー”と警告音が鳴ります。

知 識

安全機能について

挟み込み防止機構

バックドアの左右端部には、センサーが付いています。
ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが圧縮されると挟み込み防止機構が作動し、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

バックドア落下防止機構

バックドアを自動で開けたとき、バックドアに荷物が積まれていたり積雪があると、バックドア全開後自動でバックドアが閉まります。
バックドア全開時に、積雪などの重みでバックドアが落下することを防止します。
落下防止機構が作動してるときは、“ピーピーピー”と警告音が鳴ります。

●バックドアに荷物を搭載しないでください。
●バックドアに積雪があるときは、バックドアを自動で作動させる前に除雪してください。
●自動で全開した直後に、手動でバックドアを閉めようとすると、落下防止機能が作動することがありますが故障ではありません。

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、バックドアの初期設定をしてください。

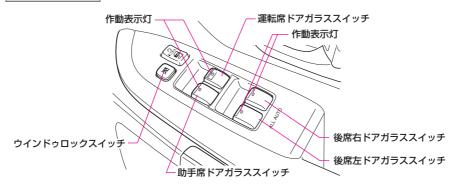
●バックドアの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
　・バックドアオープンスイッチ作動
　・パワーバックドア機能
●その他にも、初期設定が必要な機能があります。
　P.438の「初期設定が必要な機能」を参照してください。

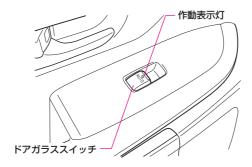
■初期設定のしかた

バッテリー再接続後、バックドアを開け確実に閉めてください。
(イージークローザーが働くことにより初期設定されます)

ドアガラスの開閉

パワーウインドゥの使い方

運転席スイッチ

運転席スイッチで、すべてのドアガラスの開閉が行えます。

助手席・後席スイッチ

自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に軽く押している間は開き、上に軽く引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ドアガラスの自動開閉のしかた

●全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
●全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
　途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

知識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。
ただし、助手席スイッチ・後席スイッチは、ウインドゥロックスイッチがＯＮ（次ページ参照）になっているときは作動しません。

●エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、各スイッチの作動表示灯が点灯します。
●各スイッチの作動表示灯が点滅しているときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。（次ページ参照）

安全機能について

挟み込み防止機構

ドアガラスを自動で閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き止まります。

●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

ドアガラスは、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

●キーＯＦＦ後作動が機能している間は、各スイッチの作動表示灯が点灯します。

ドアキー連動開閉機構

運転席ドアのキーシリンダーにキーを挿し込み、解錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間すべてのドアガラスが開き、施錠側いっぱいにまわしたまま保持すると、保持している間すべてのドアガラスが閉まります。（Ｐ.116参照）

●エンジン スイッチにキーが挿し込まれていると作動しません。

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ連動開閉機構※

ワイヤレスドアロックリモコンのＬＯＣＫスイッチを約3秒以上押し続けると、すべてのドアガラスが閉まり、ＵＮＬＯＣＫスイッチを約3秒以上押し続けると、すべてのドアガラスが開きます。（Ｐ.115参照）

●スイッチから手を離すと停止します。
●開閉作動開始時にブザーが鳴ります。
●エンジン スイッチにキーが挿し込まれていると作動しません。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

知識

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、パワーウインドゥの初期設定をしてください。

●パワーウインドゥの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。
- 運転席スイッチでの助手席、後席ドアガラスの開閉
- ドアガラスの自動開閉
- 挟み込み防止機構
- キーＯＦＦ後作動機能

●パワーウインドゥの初期設定がされていないドアガラスは、スイッチの作動表示灯が点滅します。

●その他にも、初期設定が必要な機能があります。Ｐ.438の「初期設定が必要な機能」を参照してください。

■初期設定のしかた

各ドアガラスごとに、各席スイッチで行います。
運転席スイッチで助手席、後席ドアガラスのパワーウインドゥの初期設定をすることはできません。

〈設定手順〉

1 エンジン スイッチを“ＯＮ”にします。
2 スイッチを下に押し続け、半分くらいまでドアガラスを開けます。
3 スイッチを上に引き続けドアガラスを全閉し、そのまま約1秒間スイッチを上に引き続けます。

パワーウインドゥの初期設定が完了すると、スイッチの作動表示灯が点滅から点灯にかわります。

ウインドゥロックスイッチの使い方

ウインドゥロックスイッチを押すごとに、ＯＮとＯＦＦに切りかわります。スイッチをＯＮにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウインドゥは開閉しません。

ウインドゥロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ＯＮ	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
ＯＦＦ	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。

走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

●走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどにあたったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを開閉するときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

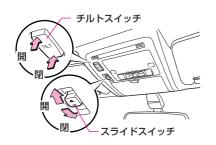
●挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると閉めることができます。

運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

●ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウインドゥの故障の原因となります。

マルチパネルムーンルーフの開閉 ★

スライド開閉のしかた

■開けるときは

●スライドスイッチをうしろ側に長押しすると、マルチパネルムーンルーフ前部がチルトアップして、マルチパネルムーンルーフ後部が自動で開きます。

●スライドスイッチをうしろ側に押してすぐに手を離すと、ルーフが少し開きます。

■閉めるときは

●スライドスイッチを前側に長押しすると、マルチパネルムーンルーフ後部が自動で閉まります。その後、もう一度スライドスイッチまたはチルトスイッチの前側をマルチパネルムーンルーフ前部のチルトが閉まるまで押し続けてください。

●スライドスイッチを前側に押してすぐに手を離すと、ルーフが少し閉まります。

チルトアップ／ダウンのしかた

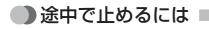
■開けるときは

●マルチパネルムーンルーフが閉まっているとき、チルトスイッチをうしろ側に長押しすると、マルチパネルムーンルーフ前部が自動でチルトアップします。

●スイッチをうしろ側に押してすぐに手を離すと、ルーフがチルトアップします。

■閉めるときは

チルトアップしているとき、チルトスイッチまたはスライドスイッチの前側を押している間チルトダウンします。完全に閉まるまでスイッチを押し続けてください。

途中で止めるには

チルトスイッチ、またはスライドスイッチを押します。

警告　開口部に腰かけないでください。

●開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●走行中はマルチパネルムーンルーフから手や顔を出さないでください。車外のものなどにあたったり、急ブレーキをかけたときに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●マルチパネルムーンルーフを閉めるときやチルトダウンするときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。ムーンルーフに挟まれて、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機構を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●挟み込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●マルチパネルムーンルーフを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●お子さまにマルチパネルムーンルーフの操作をさせないでください。閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

マルチパネルムーンルーフから荷物がはみ出すと、車外のものにあたるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●マルチパネルムーンルーフから荷物がはみ出さないようにしてください。車外のものにあたるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
●車から離れるときや洗車時には、完全に閉まっていることを確認してください。
また、マルチパネルムーンルーフ上に水や雪がないことを確認してから開けてください。
水や雪が室内に入り、オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると、火災や故障の原因となるおそれがあります。
●故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、マルチパネルムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けると閉めることができます。

注意　マルチパネルムーンルーフを全開、全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。

●マルチパネルムーンルーフを全開、全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。ムーンルーフの故障の原因となります。
●マルチパネルムーンルーフを操作するときは、ラジオ用アンテナの向きに注意してください。ムーンルーフを開けたときにアンテナにあたり、ムーンルーフまたはアンテナを損傷するおそれがあります。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

安全機能について

挟み込み防止機構

マルチパネルムーンルーフのスライドを自動で閉めるときに、窓枠とマルチパネルムーンルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、マルチパネルムーンルーフの閉作動を停止し、自動で少し開き止まります。
●環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がマルチパネルムーンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。
●チルトダウンに挟み込み防止機構はありません。

サンシェードについて

マルチパネルムーンルーフを開けると連動して開きます。また、手動でも開閉できます。

初期設定について

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、マルチパネルムーンルーフの初期設定をしてください。
●マルチパネルムーンルーフの初期設定がされていないと、マルチパネルムーンルーフを自動で全開閉することができません。
●その他にも、初期設定が必要な機能があります。P.438の「初期設定が必要な機能」を参照してください。

■初期設定のしかた

バッテリー再接続後、エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしてチルトスイッチまたはスライドスイッチを前側に全閉するまで押します。全閉してからそのまま約1秒間押し続けてください。
●バッテリーを再接続したときにマルチパネルムーンルーフが全閉しているときでも、そのままの状態でチルトスイッチまたはスライドスイッチを前側に約1秒間押し続けてください。

知識

便利機能について

キーＯＦＦ後作動機能

マルチパネルムーンルーフは、エンジン スイッチを“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”にしたあとでも、約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に、運転席ドアを開けてからいったん閉めると、マルチパネルムーンルーフの開閉はできなくなります。

マルチパネルムーンルーフ閉め忘れ警告チャイム

マルチパネルムーンルーフが開いている状態で、エンジン スイッチからキーを抜いて、運転席側ドアを開けると、“ポーン”とチャイムが鳴り、開いていることを知らせます。

マルチパネルムーンルーフが反転して閉じ切らない場合の復帰方法について

下記の操作を行ってください。

1 **車を停止します。**

2 **スライドスイッチの閉側を押し続けます。**※1

マルチパネルムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※2
その後再び閉じ、全閉で停止します。

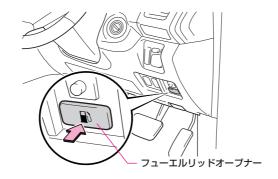
3 **マルチパネルムーンルーフが完全に全閉で停止したことを確認し、スイッチから手をはなします。**

※1　途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※2　10秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの閉側を押し続けてください。マルチパネルムーンルーフが閉じ、全閉で停止します。マルチパネルムーンルーフが完全に全閉で停止したことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

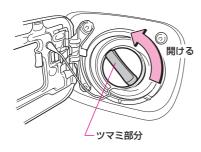
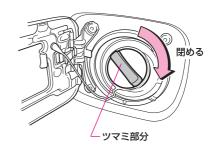
フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

■開けるとき

運転席インストルメントパネル右下にあるフューエルリッドオープナー（⛽）を押すと開きます。

■閉めるとき

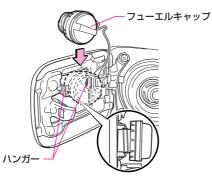
フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるとき

キャップのツマミ部分を持ち、左にまわして開けます。

■閉めるとき

キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

フューエルキャップの置き場所

給油中は、フューエルキャップをハンガーにかけておきます。

警告　**燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。**

●燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
・エンジンは必ず停止してください。
・車のドア・窓は閉めてください。
・タバコなど火気を近付けないでください。
・フューエルリッド・フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分にふれて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
・フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップをゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
・給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものにふれないでください。(再帯電することがあります)
・給油口には静電気除去を行った方以外を近付けないでください。
・給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
・給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と一度音がするまで右にまわしてください。手を離すと若干もどります。
・車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
・その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

●給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

注意 **指定以外の燃料を使用しないでください。**

- 指定燃料は、無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用するとエンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
- 給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。
- フューエルリッドが開かないときは、電気系統などの故障が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- フューエルリッド（燃料補給口）を開けた状態で、給油口付近に水をかけないでください。

知 識

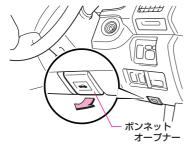
フューエルリッドの位置について

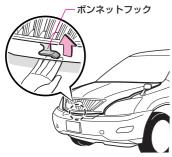
フューエルリッド（燃料補給口）は車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量は約72Ｌです。

ボンネットの開閉

開け方

1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。

2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットを持ち上げます。

閉め方

1 ボンネットを降ろします。

2 ボンネットを押さえ付けます。

ボンネットの前端を押さえ付けロックします。

3 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。

走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

●ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

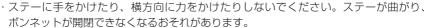
・ビニール片、ステッカー、粘着材などの異物がステーのロッド部（メッキしてある棒部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などでふれないでください。異物が付着するとステーが円滑に動かなくなったり、開けたときの保持力が損なわれるおそれがあります。

・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えられなくなるおそれがあります。

ロッド部

ダンパーステー

・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、ボンネットが開閉できなくなるおそれがあります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

オートアラーム（盗難警報システム）の使い方

システムの作動（警報作動）について

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

システム作動可能状態中に以下のいずれかが行われた場合、盗難のおそれがあると判断し、警報を作動させます。

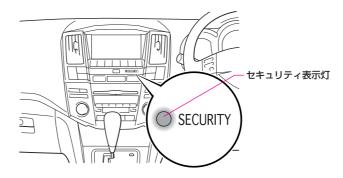
●いずれかのドアが開けられたとき
●ワイヤレスドアロックリモコンの操作以外の方法で、いずれかのドアが解錠されたとき
●ボンネットが開いたとき
●バッテリーターミナルを脱着したとき（バッテリーがあがったときの再充電、新品交換時など）

ドアの施錠・解錠は、ワイヤレスドアロックリモコンで行ってください。

●ドアの施錠・解錠は、ワイヤレスドアロックリモコンで行うことをおすすめします。（P.113参照）
キーでの施錠では、オートアラームは作動可能状態にはなりません。
●ワイヤレスドアロックリモコンスイッチでドアを施錠したあと、キーでドアを解錠すると、オートアラームが作動します。

知 識

オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

システム作動可能状態にするには

車外に出たあと、すべてのドア・ボンネットが閉まっていることを確認し、ワイヤレスドアロックリモコンでドアを施錠します。

●セキュリティ表示灯が点灯します。（システム待機状態）
●しばらく経過すると、セキュリティ表示灯が点灯から点滅にかわり、自動的にシステム作動可能状態になります。

知 識

システム作動可能状態について

ワイヤレスドアロックリモコンを使ってドアを施錠したあと、約30秒以内（表示灯点灯中のシステム待機状態）に以下のいずれかを行った場合、システム作動可能状態にはなりません（待機状態を解除します）。
●いずれかのドアまたはボンネットを開けたとき
●いずれかのドアを解錠したとき
●エンジン スイッチにキーを挿し込んだとき
●バッテリーを再接続したとき

オートアラームの解除・システムを停止するには

以下のいずれかの操作を行います。

●ワイヤレスドアロックリモコンでドアを解錠する
●エンジンを始動する（始動して数秒後にシステムが停止します）

知 識

ドアを施錠するときは

オートアラームの思わぬ作動を防ぐため、ドアを施錠するときは、車内に人が乗っていないか、ドアガラスやマルチパネルムーンルーフなどが開いていないか確認してください。

バッテリーを取りはずすときは

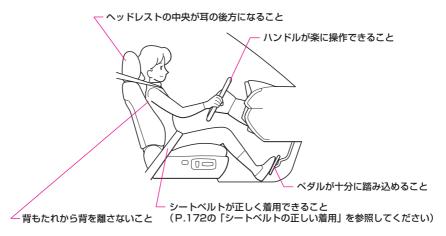
バッテリー端子の取りはずしや、バッテリーを交換するときは、オートアラームが解除されていることを確認してください。解除しないままバッテリー端子を取りはずすと、再接続したときにオートアラームが作動することがあります。

セキュリティ表示灯について

エンジン スイッチからキーを抜くと、エンジンイモビライザーシステム（P.360参照）が作動中であることを知らせるために、オートアラームが作動可能状態でなくても、セキュリティ表示灯が点滅します。

シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるように、次の事項に注意してシートを調整します。

警告　走行中は運転席シートの調整をしないでください。

- ●走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動き運転を誤り、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因になります。
- ●背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。また、シートアレンジなどにより広げたスペースに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●助手席やリヤシートに荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。

●ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。
なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

・フロントシート表皮の張りかえやフロントシートの取り付け・取りはずし・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造などはしないでください。

・フロントシート側面などＳＲＳエアバッグ展開部を強くたたくなど過度の力を加えないでください。

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

●シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手などを近付けないでください。指や手などを挟み、けがをするおそれがあります。

●車内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手などを入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などにあたり、けがをするおそれがありますので十分に注意して行ってください。

●パワーシートでは、シートの前後位置・背もたれのリクライニング位置・腰部の硬さ調整・シートの上下位置が終点まで移動したあとに、スイッチを同一方向に押し続けないでください。パワーシートの故障の原因となります。

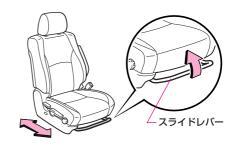
●マニュアルシートでは、背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。

●マニュアルシートでは、背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。背もたれを押さえずにリクライニング調整すると背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

シート調整のしかた

■前後位置調整

パワーシート

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

■リクライニング調整

パワーシート

スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート

リクライニングレバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

■運転席の上下位置調整

パワーシート

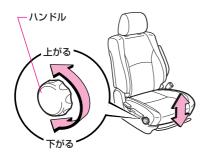
〈クッション前端〉

スイッチの前側を上下に操作している間作動します。

〈シート全体〉

スイッチのうしろ側を上下に操作している間作動します。

マニュアルシート

〈クッション前端〉

ハンドルをまわして調整します。

〈シート全体〉

レバーを上下に操作することで、シート全体の高さがかわります。

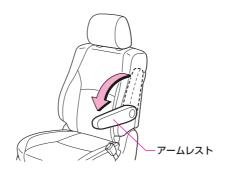
腰部の硬さ調整のしかた（ランバーサポート）★

運転席

スイッチの前後を押している間作動します。

●スイッチの前側を押すと、シートの背もたれ腰部が硬くなります。

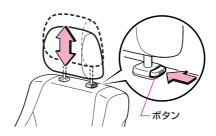
●スイッチのうしろ側を押すと、シートの背もたれ腰部がやわらかくなります。

アームレストの使い方

●使用するときは、いちばん下まで下げます。

●使用しないときは、いちばん上まで上げます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ヘッドレストの調整のしかた

■上下位置調整

●上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

■前後位置調整★

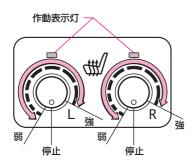
調整したい方へ押し（または引き）ます。

⚠警告　ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレストの中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
●フロントシートのヘッドレストはフロントシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートヒーターの使い方★

■作動させるときは

1 スイッチを押して出します。

2 スイッチをまわしてお好みの暖かさにします。

作動中は作動表示灯が点灯します。

■停止するときは

スイッチを停止の位置までまわします。

●作動表示灯が消灯します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シートヒーターを使用するときは、次の点に十分注意してください。

●下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方

●毛布や座布団など保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。

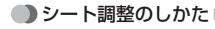
●仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

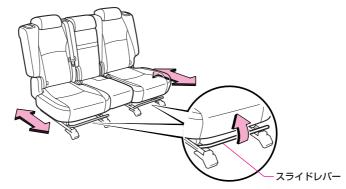
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。

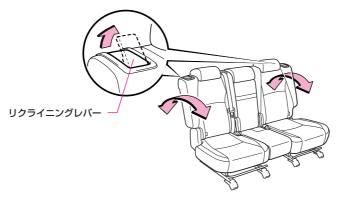
●凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。

●シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

作動条件について

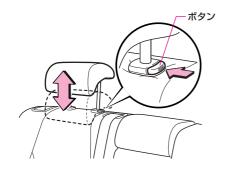
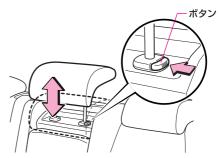
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

シート調整のしかた

■前後位置調整

スライドレバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。
調整後、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

■リクライニング調整

リクライニングレバーを引きながら、背もたれを前後に動かして調整します。
調整後、背もたれを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認します。

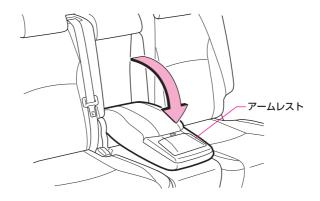
ヘッドレスト調整のしかた

左右席

中央席

●ヘッドレストを上げるときは、そのまま引き上げます。
●下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
●取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。

警告 **ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。**

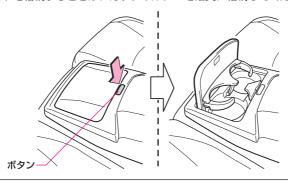
●ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。走行前に必ず取り付け、必ず上げた状態で使用してください。
●リヤシートを操作するときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●リヤシートのヘッドレストはリヤシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

アームレストの使い方

●使用するときは、手前に倒します。
●使用しないときは、シートへ格納してください。

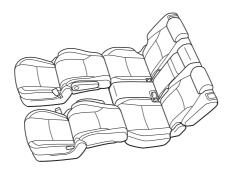
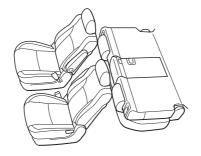
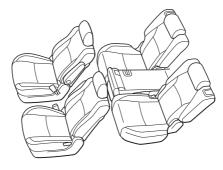
知 識

便利機能について

カップホルダー

ボタンを押して開けます。（P.312参照）
●使用しないときは閉めておいてください。
●アームレストを格納するときは、カップホルダーを確実に格納してください。

シートアレンジ

インデックス

この車のシートは、状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。シートアレンジは、それぞれの説明ページをよくお読みになってから行ってください。

フラットシートのつくり方 ………………………………………… P.166

リヤシート全席の前倒しのしかた ……………………………… P.168

リヤ中央席のみの前倒しのしかた ★ ………………………… P.170

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

シートアレンジをする前に

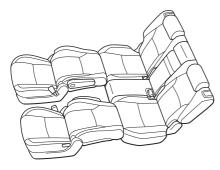
車両を安全で平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキを確実にかけます。

⚠ 警告	シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅにして、パーキングブレーキを確実にかけてください。

- ●シートアレンジをするときは、必ず平坦な場所でシフトレバーをⓅにして、パーキングブレーキを確実にかけてください。不整地や傾斜地では操作中に不意にシートが動き、手足などを挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
  ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●リヤシートを前倒ししたときは、お子さまがラゲージルームに入らないように注意してください。ボディの突起にあたるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意	シートを操作するときは同乗者や荷物にあてないように注意してください。

- ●シートを操作するときは同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- ●シートを操作しているときは、シートの下やロック機構部分、動いている部分の近くに手や足を近付けないでください。指や手、足を挟みけがをするおそれがあります。

フラットシートのつくり方

フロントシートとリヤシートを組み合わせることにより、フラット（平ら）な空間をつくることができます。

フラット状態のつくり方

1 フロントシートの前後位置をいちばん前まで移動します。（P.154参照）

2 フロントシートのヘッドレストを取りはずします。（P.157参照）

3 フロントシートの背もたれをいっぱいまで倒します。（P.154参照）

4 運転席シート全体の上下位置をいちばん上まで移動します。（P.155参照）

5 リヤシートの背もたれをお好みに合わせて調整します。（P.160参照）

もとにもどすときは

1 **逆の手順で行います。**

背もたれをもどすときは、背もたれを手で押さえながらレバーを操作します。レバー操作だけでは、背もたれがもどらないことがあります。その場合は、背もたれを手で持ち上げてください。
(マニュアルシート)

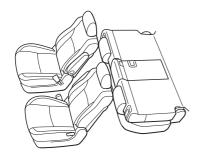
2 **シートをもどしたときは、運転席シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。(マニュアルシート)**

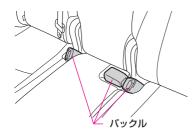
警告 **シートをフラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。**

- シートをフラットにしたとき、またはもとにもどしたときは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中にシートが動き、思わぬ事故の原因となり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。(マニュアルシート)
- シートをフラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。

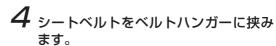
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。シートを踏みはずしたり、シートの間に足などを挟んだりしてけがをするおそれがあります。
- シートに人が乗っている状態でフラット操作をしないでください。シートがあたるなどしてけがをするおそれがあります。
- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。背もたれを押さえずにリクライニング調整すると、背もたれが急にもどりけがをするおそれがあります。(マニュアルシート)

リヤシート全席の前倒しのしかた

リヤシートを前倒しすることで、大きな荷物を車に積むことが可能になります。また、片側のリヤシートのみを前倒しすることもできます。

リヤシートを全席前倒しするときは

1 **リヤシートベルトのバックルを格納します。**

2 **トノカバーのサブカバーをヘッドレストからはずします。****（P.325参照）**

3 **リヤヘッドレストを下げます。**
（P.161参照）

4 **シートベルトをベルトハンガーに挟みます。**

背もたれを倒すときに巻き込まないように、左右席のシートベルトをベルトハンガーに挟みます。
（片側のシートのみを前倒しするときは、背もたれを倒す側のシートベルトのみをベルトハンガーに挟みます）

5 **リヤシートの背もたれを前に倒します。**

- リクライニングレバーを引き上げ、背もたれを前に倒します。
- 背もたれを前に倒すと、シートの前後位置が自動的に最後部まで下がります。

もとにもどすときは

1 背もたれを起こして、うしろに押え付け固定します。

- リクライニングレバーを引き上げ、背もたれを起こします。
- 背もたれを“カチッ”と音がするまで起こし、前後を調整します。
- 背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

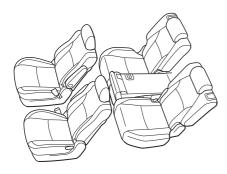
2 リヤシートのヘッドレストを上げ、トノカバーのサブカバーをヘッドレストに取り付けます。（P.325参照）

3 シートベルトをベルトハンガーからはずします。

シートベルトが背もたれに引っかかっていないか、また、ねじれていないか確認します。

警告	**背もたれをもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。**

- 背もたれをもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品の間に指や腕などを入れないように注意してください。指や腕などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- トノカバーを取り付けるときは、“カチッ”と音がして確実に固定されたことを確認してください。トノカバーが確実に固定されていないと、走行中トノカバーがはずれ、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

リヤ中央席のみの前倒しのしかた★

リヤ中央席のみを前倒しすることで、スキー板などの長いものを積むことが可能になります。

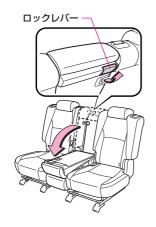
リヤ中央席を前倒しするときは

1 **リヤ中央席のヘッドレストを下げます。**
（P.161参照）

2 **リヤ中央席のシートベルトのバックルを格納します。****（P.177参照）**

3 **リヤ中央席の背もたれを前に倒します。**

背もたれ背面の運転席側上部にあるロックレバーを解除し、背もたれを前に倒します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

もとにもどすときは

背もたれを起こし、うしろに押さえ付け固定します。

●背もたれを起こし、“カチッ”と音がするまで押し込みます。
●背もたれを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

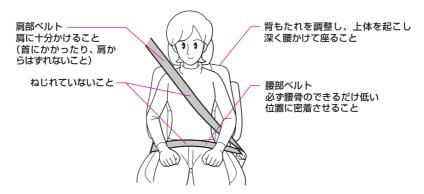
背もたれをもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●背もたれをもどしたときは、軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、ラゲージルーム内のものが飛び出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあり、傷付いたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤ中央席のみを前倒しするとき、リヤシートとコンソールボックスとの間で手や足などを挟むおそれがあるので注意してください。

シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法に従って走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

警告　**必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。**

●車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに体がシートに保持されず、体をぶつけたり、ふくらむＳＲＳエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。
正しい姿勢については、P.152を参照してください。

・肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。

・腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。
腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。

・シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。

・シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。

・シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみを付けないでください。

・シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。

・ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近付いて運転しないでください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

●シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷付いた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。
ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください）
・妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
・ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●疾患のある方も必ずシートベルトを着用してください。
（ただし、医師に注意事項をご確認ください）

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⚠警告　必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごにあたったり、腰骨にかからないような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷の付いたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働かず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取り付け・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取り付け・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

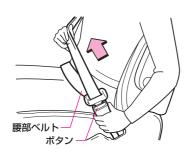
シートベルトの着用のしかた

シートベルトの脱着のしかた

1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確認します。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

2 プレートをバックルに挿し込みます。

プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに挿し込みます。
エンジン スイッチが“ ON ”の状態のときは、メーター内のシートベルト非着用警告灯（P.236、237参照）が消灯したことを確認してください。
(フロントシートベルト着用時のみ)

3 腰部ベルトを密着させせます。

腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させせます。

4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。
このとき、ベルトが首にあたったり、肩からはずれないようにしてください。

5 フロントシートでは、ベルトの高さを調整します。

アジャスタブルシートベルトアンカーでベルトの高さを調整します。
調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

●上げるときはアンカー部を持ち、そのまま動かします。
●下げるときは、ロックボタンを押したままアンカー部を動かし、最適な位置に調整します。
●“カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

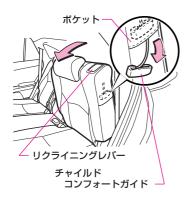
6 はずすときは、バックルのボタンを押してはずします。

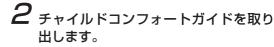
シートベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

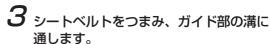
●シートベルトが首にあたらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
●調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

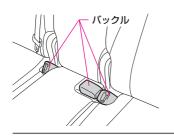
チャイルドコンフォートガイドの使い方

リヤシート左右席

チャイルドコンフォートガイドは、主に10才前後のお子さまがシートベルトを着用したときに、ベルトが顔に近付きすぎる不快感を防止できます。

1 **リクライニングレバーを引いて、背もたれを手前に少し倒します。**

2 **チャイルドコンフォートガイドを取り出します。**

●リヤシート背もたれ側面のポケットから、チャイルドコンフォートガイドを取り出します。
●チャイルドコンフォートガイドを取り出したあとは、リヤシートをもとどおりに固定します。
●背もたれが確実に固定されていることを確認してください。

3 **シートベルトをつまみ、ガイド部の溝に通します。**

チャイルドコンフォートガイドを使用しないときは、リヤシート背もたれ側面のポケットに収納してください。

リヤシートベルトの格納のしかた

図のようにバックルを格納できます。

子供専用シート

子供専用シートについて

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- ●車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- ●子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- ●この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合した ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■質量グループについて

ECE R44※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0^+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート

ECE R44 基準のグループ0、0^+に相当

チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ0^+、Ⅰに相当

ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0 （10kgまで）	×	U	L
0⁺ （13kgまで）	×	U	L
Ⅰ （9〜18kg）	前向き UF うしろ向き ×	U	L
Ⅱ （15〜25kg）	UF	U	L
Ⅲ （22〜36kg）	UF	U	L

●上表に記入する文字の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

L ：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

× ：子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

子供専用シートのリスト

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0（10kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0⁺（13kgまで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	汎用
Ⅰ（9～18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15～25kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22～36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO / L1	×
	G	ISO / L2	×
0（10kgまで）	E	ISO / R1	IL
0⁺（13kgまで）	E	ISO / R1	IL
	D	ISO / R2	×
	C	ISO / R3	×
Ⅰ（9～18kg）	D	ISO / R2	×
	C	ISO / R3	×
	B	ISO / F2	IUF
	B1	ISO / F2X	IUF
	A	ISO / F3	IUF
Ⅱ（15～25kg）		（1）	×
Ⅲ（22～36kg）		（1）	×

●上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（AからG）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL ：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× ：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 (10kgまで)	E	ISO / R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^{+} (13kgまで)	E	ISO / R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

警告　子供専用シートを使用しない場合もシートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で置くことは避けてください。
●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両から取りはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

知 識

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されているISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
●体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

知識

シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

P.180の「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（P.182参照）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認します。

（例1）：体重が12kgの場合、質量グループは「0+」になります。

（例2）：体重が15kgの場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を選択します。

手順***1***で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

（例2）：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX子供専用シートのリスト」（P.183参照）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク / ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認します。

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

① ISOFIX対応子供専用シートであることを示す表示
サイズ等級が示されています。
（表示される文字は、製品により異なります）
手順***2***で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

②汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク
UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

③トップテザー（P.186参照）を示すマーク
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

知識

ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO / F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO / F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO / F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート（B-ISO / F2と別形状のもの）
C-ISO / R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO / R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO / R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO / L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO / L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

助手席に子供専用シートを取り付けるときは

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを直立状態にする。
- シートをいちばんうしろにさげる。
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる。

キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シートの製造業者または販売業者にお尋ねください。

チャイルドシートの固定

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取り扱い説明書にしたがってください。

シートベルトによる取り付け
（次ページ参照）

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（P.188参照）

　リヤシートの左右席に装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すマークがシートに付いています。）

トップテザーアンカー（P.189参照）

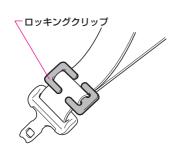
　テザーベルトを固定するときに使います。トップテザーアンカーはリヤシートの座席に装備されています。

シートベルトでの固定

取り付けるときは

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。
その際ベルトがねじれていないことを確認します。

- チャイルドシートに付属の取り扱い説明書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

- ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ　品番：73119-22010）

取り付けたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

専用バーでの固定

リヤシート左右席

1 **固定専用バーの位置を確認します。**

シートクッションと背もたれのすき間を少し広げ、固定専用バーの位置を確認します。

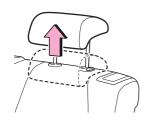
●固定専用バーが装備されていることを示すマークが、シートに付いています。

2 **子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取り付けます。**

適合する子供専用シートの取り付け金具を固定専用バーに連結して取り付けます。

●取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

3 **確実に固定されていることを確認します。**

取り付けた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

トップテザーアンカーでの固定

1 ヘッドレストを上げます。

2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締めます。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

3 取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認します。

チャイルドシートについては、次のことをお守りください。

●事故や急ブレーキの際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、センターピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトでチャイルドシートを取り付けるときは、バックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●取り付け後はチャイルドシートを左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

警告 チャイルドシートについては、次のことをお守りください。

警　告　助手席SRSエアバッグ

このシートに、ベビーシートを取り付けたり
後向きのチャイルドシートを取り付けないでください。
また、絶対にお子さまを前席の前に立たせたり
膝の上に抱いたりしないでください。

エアバッグの衝撃により、死亡または重大な傷害に
至るおそれがあります。

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などでSRSエアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

● ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

チャイルドシートについては、次のことをお守りください。

●テザーベルトを使用してチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

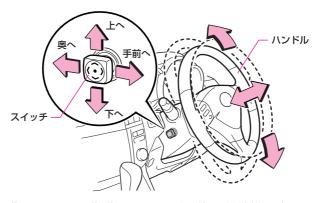
●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（P.186参照）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかり固定しておいてください。

トップテザーアンカーを使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

ハンドル、ミラーの調整

ハンドルの調整

電動チルト＆テレスコピックステアリングの調整のしかた★

スイッチを操作している間作動し、ハンドル位置を前後・上下に調整することができます。
●調整した位置をコンピューターが記憶します。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチにキーが挿し込まれているとき調整することができます。

便利機能について

オートチルトアウェイ & リターン機能※

●エンジン スイッチからキーを抜くと、ハンドルが自動的に最上段・最前方に移動し、乗り降りがしやすくなります。
●エンジン スイッチにキーを挿し込むと、もとの記憶状態にもどります。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

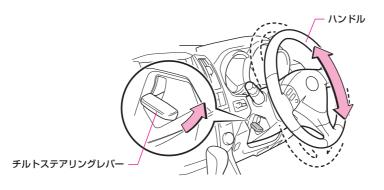
節電機能について

エンジン スイッチにキーを挿し込み、“ ＬＯＣＫ ”のままで30分経過すると、バッテリーの消耗を抑えるため、調整スイッチを操作しても作動しなくなります。この場合、エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にするか、もう一度、エンジン スイッチからキーを抜いて再度挿し込むと作動します。

ハンドル位置の記憶について

バッテリーとの接続が断たれたときは、ハンドル位置の記憶は消去されます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

チルトステアリングの調整のしかた ★

チルトステアリングレバーを上に引きながらハンドルを適切な位置に調整して、レバーを離せば固定されます。

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

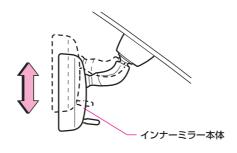
●走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、ハンドル位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。（マニュアルチルトステアリング装着車）

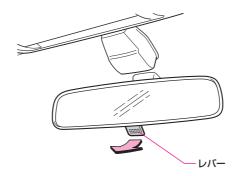
注意

ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されたことを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。
（マニュアルチルトステアリング装着車）

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

インナーミラーの調整

上下位置調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整します。

防眩切りかえのしかた

通常はミラー下側のレバーを前方に押した状態で使用します。
後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。

走行中はインナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた

1 メインスイッチの調整する側を押します。

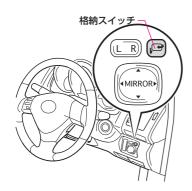
Ｒ…右側ドアミラー
Ｌ…左側ドアミラー

2 角度を調整します。

位置調整スイッチでドアミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納のしかた

	スイッチの状態	ミラーの状態
ＯＮ（格納）		
ＯＦＦ（復帰）		

格納スイッチを押すごとに、ＯＮ（格納）とＯＦＦ（復帰）に切りかわります。
エンジン スイッチが“ ＬＯＣＫ ”のときは、手で格納・復帰させることもできます。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

走行中はドアミラーの調整をしないでください。

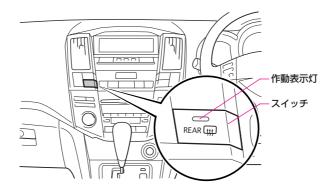
- 走行中はドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーが動いているときは手をふれたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

知 識

作動条件について

- エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき使用できます。
- ドアミラー格納作動中に、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にすると、格納作動が停止します。
- 次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ドアミラーは格納スイッチの状態にもどります。
  ・エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき
  ・手動で操作したあとにエンジン スイッチを“ＡＣＣ”または“ＯＮ”にしたとき
- 格納スイッチがＯＦＦ（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、エンジン スイッチを“ＡＣＣ”または“ＯＮ”にしても、ドアミラーは復帰しません。
  一度格納スイッチをＯＮ（格納）にしてから、再度格納スイッチをＯＦＦにして復帰させてください。

ミラーヒーターの使い方 ★

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は、作動表示灯が点灯します。

警告	作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手をふれないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

注意	連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

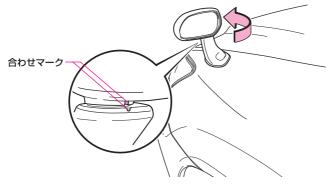
知 識

ミラーヒーターについて

●ドアミラーの鏡面を暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。
●リヤウインドゥデフォッガー、フロントワイパーデアイサーも同時に作動します。（P.248、249参照）

作動条件について

エンジン スイッチが“ ON ”のとき使用できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

補助確認装置の使い方

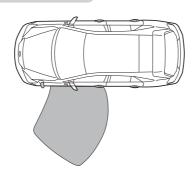
ミラーが動いてしまったときは、合わせマークの位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

注意	●後方の確認は直接確認するか、またはインナーミラー、ドアミラーなども併用して十分行ってください。 ●補助確認装置を格納してボンネットを開閉するときは、補助確認装置がボンネットにあたらないように注意してください。

知識

補助確認装置について

発進時またはごく低速時に、左側側面を確認するときに役立ちます。

ミラーに映るおよその範囲

エンジンのかけ方

エンジン（イグニッション）スイッチの使い方

エンジン停止時、
次の電装品が使用できる位置
オーディオ、シガレットライター、
ドアミラーなど

キーを抜き挿しできる位置
キーを抜くと、ハンドルが
ロックされます。

エンジン回転中の位置
すべての電装品が使用
できます。

エンジンを始動する位置

LOCK
ACC
ON
START

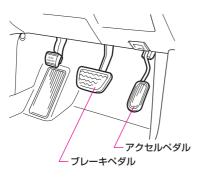
“ＬＯＣＫ”から“ＡＣＣ”にまわすとき

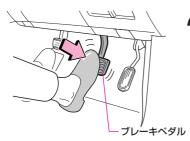
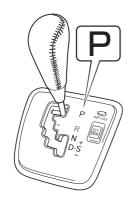
ハンドルロックがかかっていてキーがまわしにくいときは、ハンドルを軽く左右にまわしながらキーをまわします。

“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”にまわすとき

シフトレバーをⓅにしてから、キーを押しながらまわします。

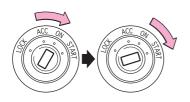
注意	エンジン停止時は、エンジン スイッチを“ＯＮ”または“ＡＣＣ”のまま長時間放置すると、バッテリーあがりの原因となります。

エンジン始動の手順

1 **ペダルの位置を確認します。**

正しい運転姿勢（P.152参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。

2 **ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

3 **シフトレバーの位置を確認します。**

シフトレバーが🅟にあることを確認します。

●🅝でも始動できますが、安全のため🅟で行ってください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

4 エンジンを始動します。

エンジン スイッチを “ ON ” にし、アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチを “ START ” にまわします。

⚠警告　車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

●車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
●走行中はエンジンを停止しないでください。エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

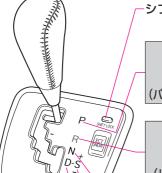
知 識

盗難防止システムについて

車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンを始動できない場合があります。（P.360参照）

シフトレバーの使い方

シーケンシャルシフトマチック付オートマチックトランスミッション

シフトレバーの働き

シフトロック解除ボタン（P.207参照）

P
（パーキング）

駐車およびエンジン始動
駐車のときは必ずⓅにしてください。（Ⓟでのみエンジン スイッチからキーが抜けます）

R
（リバース）

後退
ギヤが後退に固定されます。
ブザーが鳴りⓇにあることを運転者に知らせます。

動力が伝わらない状態
Ⓝでもエンジンは始動できますが、安全のためⓅで行ってください。

シーケンシャルシフト走行（前進）
シーケンシャルシフトモードになります。（P.205参照）

通常走行（前進）
スピードおよび走行条件に応じてギヤが1速から4速まで自動的にかわります。

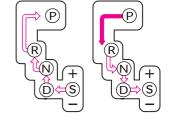
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シフトレバーの取り扱い

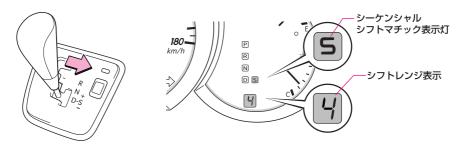
■シフトレバーの操作

ⓅとⒹの間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

⬇ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かすことができます。

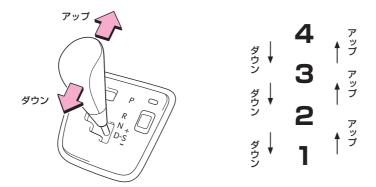
⇧⇩ シフトレバーをゲートにそってそのまま動かすことができます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

シーケンシャルシフトモードの使い方

■シーケンシャルシフトモードへの切りかえ方

シフトレバーをⓈにするとシーケンシャルシフトモードになり、シフトレバーを＋側または－側に操作することによって、シフトレンジを切りかえることができます。

●シーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯します。

シフトレバーをⒹにするとシーケンシャルシフトモードが解除され、通常の制御にもどります。

■シフトチェンジのしかた

シフトレンジをアップするときは、シフトレバーを＋側に動かします。
シフトレンジをダウンするときは、シフトレバーを－側に動かします。

●選択されているシフトレンジが、シフトレンジ表示に表示されます。
　Ⓟ、Ⓡ、Ⓝ、Ⓓは表示されません。

■各シフトレンジの動き

レンジ	説明
4（フォース）	スピードや走行条件に応じて、1速から4速のギヤが自動的にかわります。
3（サード）	スピードや走行条件に応じて、1速から3速のギヤが自動的にかわります。 ●下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。 ●上り坂では変速回数の少ないなめらかな走行ができます。
2（セカンド）	スピードや走行条件に応じて、1速または2速のギヤが自動的にかわります。 ●エンジンブレーキが必要な場合に使います。
1（ロー）	ギヤが1速に固定されます。 ●強力なエンジンブレーキが必要な場合に使います。

シフトレバーをⒹからⓈへ切りかえたときのシフトレンジ表示について

シフトレバーをⒹからⓈにすると、3レンジが選択されます。

警告ブザーについて

安全のためまたは走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、希望するシフトレンジにシフトされない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

システムの異常について

シフトレバーをⓈにしても、シーケンシャルシフトマチック表示灯が点灯しないときは、システムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをⒹにしているときと同じ制御になります。

知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車でのシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

●ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーをⓅからレバー操作できません。
- ・エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＬＯＣＫ”のときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
- ・シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み操作してください。

●シフトレバーがⓅ以外ではエンジン スイッチからキーを抜くことはできません。
- ・エンジン スイッチからキーを抜くときは、シフトレバーをⓅに入れてください。Ⓟ以外ではキーを“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”にまわせません。

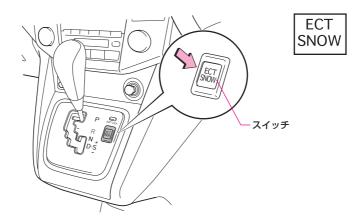
●シフトレバーをⓇに入れるとブザーが鳴ります。
- ・ブザーが鳴り、Ⓡにあることを運転者に知らせます。
- ・車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
（車外の人に対する警告音ではありません）

シフトロック解除ボタンの使い方

万一、シフトレバーがⓅからレバー操作できないときに使用します。

●ブレーキペダルを踏んだ状態で、エンジン スイッチを“ＡＣＣ”にして、シフトロック解除ボタンを押しながら、レバー操作してください。

●シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＮＯＷスイッチの使い方

スイッチを押すとスノーモードに切りかわり、もう一度押すと解除されます。

●スノーモードのとき、メーター内のＥＣＴ ＳＮＯＷ表示灯（Ｐ.224参照）が点灯します。

知 識

スノーモードについて

雪道などすべりやすい路面での発進に適しています。

作動条件について

●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

●エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にすると、スノーモードは解除されます。

オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

通常発進のしかた

1 ブレーキペダルを右足でしっかり踏んだまま、シフトレバーを❶にします。

2 左足でパーキングブレーキを解除します。
（P.216参照）

3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、右足でアクセルペダルをゆっくり踏み発進します。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキがしっかりかかっていることを確認してから、シフトレバーをⒹにします。

2 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。

3 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し発進します。

ブレーキペダルをしっかり踏んだままシフトレバーを操作してください。

- ●発進するときは、ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- ●運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●アクセルペダルを踏み込んだままでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

通常の走行

シフトレバーを🅓にしたまま走行します。
●アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

坂道で走行するときは

■上り坂
シフトレバーが🅓で走行中、アクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。
このようなときは、あらかじめシフトレバーを🅢にして2レンジまたは3レンジで走行します。

■下り坂
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが🅓のままでスピードが出すぎるときは、シフトレバーを🅢にすると3レンジになり、軽いエンジンブレーキが得られます。
さらにエンジンブレーキが必要なときは、2レンジまたは1レンジで走行します。

警告　**走行中にはシフトレバーをⓃにしないでください。**

- 走行中にはシフトレバーをⓃにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進で走行中は、シフトレバーをⓇにしないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
- ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーをⒹまたはⓈにしたまま惰性で後退したり、Ⓡにしたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

シフトレバーをⓃにしたままで走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 **車を止めます。シフトレバーはⒹのまま、右足でブレーキペダルをしっかり踏みます。**

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 **必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。**

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。
右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、左足でパーキングブレーキをしっかりかけてください。

3 **長時間停車する場合は、シフトレバーをⓅまたはⓃにします。**

駐車のしかた

1 **車を完全に止めます。**

2 **パーキングブレーキをかけます。**

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりかけてください。

3 **シフトレバーをⓅにします。**

車が動き出さないためにも、必ずⓅにしてください。

4 **エンジンを停止します。**

車を離れるときは必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

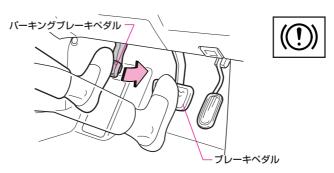
走行中は、シフトレバーをⓅにしないでください。

●走行中はシフトレバーをⓅにしないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがⓅまたはⓃ以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車から離れるときは必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

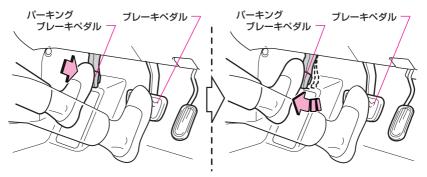
●エンジンをかけたままにしておくと、万一シフトレバーがⓅ以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
●アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でシフトレバーをⒹまたはⓈのままアクセルをふかしながら止まらないでください。
オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキペダルの使い方

パーキングブレーキペダルの取り扱い

パーキングブレーキをかけるときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、ブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するときは

右足でブレーキペダルをしっかり踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

●エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき、ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知識

かけなおしするときは

パーキングブレーキをかけたあと、かけなおしたい場合は、一度解除してから踏みなおします。

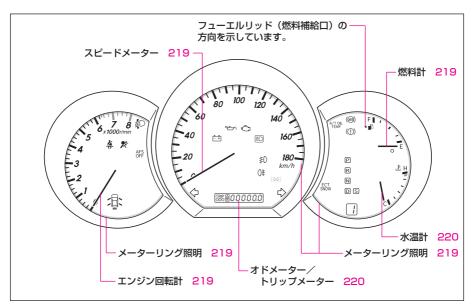
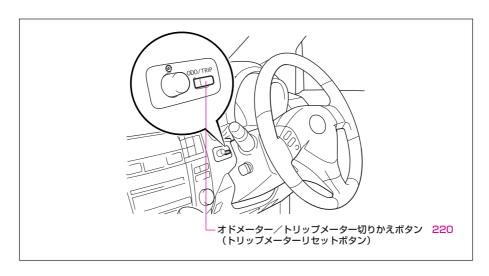
警告ブザーについて

パーキングブレーキをかけた状態で、時速約5km/h以上で走行したとき、警告ブザーが鳴ります。

冬季のパーキングブレーキの使用について

P.380の「駐車するときは」をお読みください。

メーター、表示灯、警告灯の見方

メーター

＊図ではすべてのグレードにおける表示灯・警告灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯・警告灯はグレード等により異なります。

知 識

メーターについて

- スピードメーターは、エンジン スイッチを “ ON ” にしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。
- エンジン回転計、燃料計、水温計は、エンジン スイッチを “ ON ” から “ START ” にしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛りの位置にもどることがありますが、異常ではありません。

メーターリング照明について

運転席ドアの開閉状態を検知して、メーターリング照明が自動的に点灯・消灯します。

燃料計

エンジン スイッチが “ ON ” のとき、燃料残量を示します。
燃料タンク容量は約72Ｌです。

知 識

燃料計について

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針がふれることがあります。
- 燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
- エンジン スイッチが “ ON ” のまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
- 燃料計にある◂⛽ 印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側にあることを示しています。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

水温計

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき、エンジン冷却水の温度を示します。

指針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、P.464「オーバーヒートしたときは」に従って処置をしてください。

オドメーター／トリップメーター

エンジン スイッチが“ＯＮ”のとき、次の表示を示します。

■オドメーター

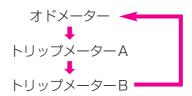
走行した総距離をkmの単位で示します。

■トリップメーター

2種類の区間距離（トリップＡ・トリップＢ）をkmの単位で示します。

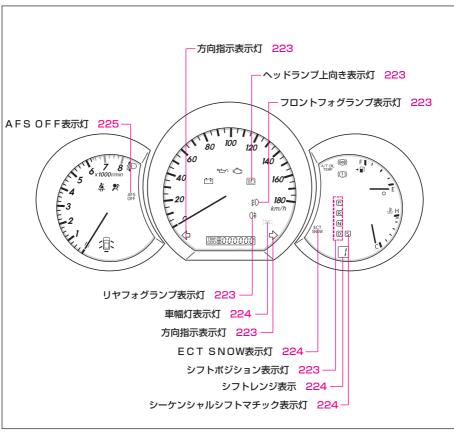
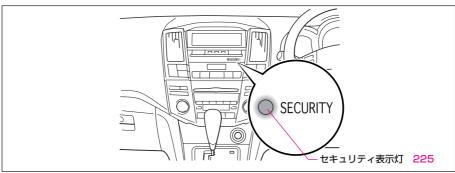
オドメーター／トリップメーター切りかえボタン（トリップメーターリセットボタン）

■オドメーターとトリップメーターの表示の切りかえ方

切りかえボタンを押すごとに、次のように表示が切りかわります。

■トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターＡ、トリップメーターＢのうち0にしたいほうを表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。
バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

表示灯

方向指示表示灯　223
ヘッドランプ上向き表示灯　223
フロントフォグランプ表示灯　223
AFS OFF表示灯　225
リヤフォグランプ表示灯　223
車幅灯表示灯　224
方向指示表示灯　223
ECT SNOW表示灯　224
シフトポジション表示灯　223
シフトレンジ表示　224
シーケンシャルシフトマチック表示灯　224

＊図ではすべてのグレードにおける表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
P R N D	シフトポジション表示灯	ECT SNOW	ＥＣＴ ＳＮＯＷ表示灯
	方向指示表示灯	S	シーケンシャル シフトマチック表示灯
	ヘッドランプ上向き 表示灯	1	シフトレンジ表示
	フロントフォグランプ 表示灯	AFS OFF	ＡＦＳ ＯＦＦ表示灯
	リヤフォグランプ表示灯	SECURITY 表示灯	セキュリティ表示灯
	車幅灯表示灯		

P
R
N
D

シフトポジション表示灯

選択されているシフト位置を表示します。

方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
（P.241、250参照）

知 識

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプを上向きにすると点灯します。（P.240参照）

フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。
（P.242参照）

リヤフォグランプ表示灯

リヤフォグランプ装着車

リヤフォグランプを点灯させると橙色に点灯します。
（P.243参照）

車幅灯表示灯

車幅灯を点灯させると点灯します。（P.238参照）

ECT
SNOW

ＥＣＴ ＳＮＯＷ表示灯

スノーモードにすると点灯します。（P.208参照）

シーケンシャルシフトマチック表示灯

シフトレバーをⓈにしてシーケンシャルシフトモードにすると点灯します。（P.205参照）

シフトレンジ表示

シフトレバーがⓈのとき、選択されているシフトレンジを表示します。
Ⓟ、Ⓡ、Ⓝ、Ⓓでは表示されません。

AFS
OFF

ＡＦＳ ＯＦＦ表示灯

インテリジェント ＡＦＳ装着車

ＡＦＳ ＯＦＦスイッチを押して、インテリジェント ＡＦＳ（アダプティブ・フロントライティング・システム）を作動停止状態にすると点灯します。（P.253参照）
また、インテリジェント ＡＦＳに異常があると点滅します。
ＡＦＳ ＯＦＦ表示灯が点滅しているとき、インテリジェント ＡＦＳは作動しませんがヘッドランプは点灯しますので通常走行には支障ありません。

ＡＦＳ ＯＦＦ表示灯が点滅しているときは、システム異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

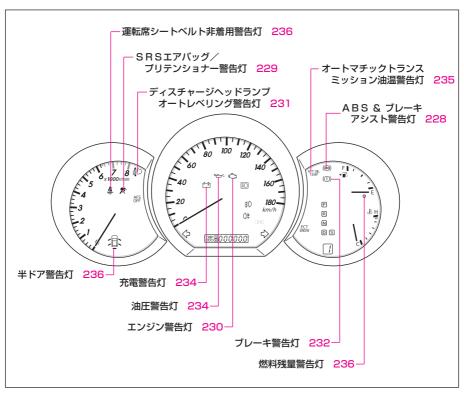
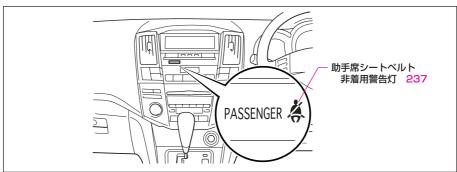
表示灯について

エンジン スイッチを “ＯＮ” にすると点灯し、数秒後に消灯します。

セキュリティ表示灯

盗難防止システム（オートアラーム、エンジンイモビライザーシステム）の状態に応じて、点灯・点滅します。
（P.148、360参照）

警告灯

運転席シートベルト非着用警告灯　236
ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯　229
ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯　231
オートマチックトランスミッション油温警告灯　235
ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯　228
半ドア警告灯　236
充電警告灯　234
油圧警告灯　234
エンジン警告灯　230
ブレーキ警告灯　232
燃料残量警告灯　236

＊図ではすべてのグレードにおける警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。

〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
ABS	ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯		油圧警告灯
	ＳＲＳエアバッグ／ プリテンショナー警告灯	A/T OIL TEMP	オートマチックトランスミッション油温警告灯
	エンジン警告灯	E 警告灯	燃料残量警告灯
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯		半ドア警告灯
	ブレーキ警告灯		運転席シートベルト非着用警告灯
	充電警告灯	PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ABS & ブレーキアシスト警告灯

ABS & ブレーキアシストに異常があると点灯します。(P.363参照)

●警告灯が点灯しているときは、下記のシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
・ABS
・ブレーキアシスト

●警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため、急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にはタイヤがロックすることがあります。

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

●警告灯が点灯中に次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
・ブレーキ警告灯も点灯し、パーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき

この場合、ABS & ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

●警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
・エンジン スイッチを“ON”にしても点灯しないとき
・エンジン スイッチが“ON”で点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、再度点灯しなければ異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

エンジン スイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯

ＳＲＳエアバッグシステム（P.340参照）またはプリテンショナー付シートベルトシステム（P.354参照）に異常があると、点灯・点滅します。

注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグまたはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- ●エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき
- ●走行中に点灯・点滅したとき

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、オートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。

●エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
●警告灯が点灯しアクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。このときは、車体振動が増える場合もありますが、低速で走行ができます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
なお、この低速走行中に万一、電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止して、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にするまでは、正常状態に復帰することはありません。

警告灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ディスチャージヘッドランプ オートレベリング警告灯

インテリジェントＡＦＳ装着車を除く

ディスチャージヘッドランプのオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。
（P.356参照）

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを停止してください。
再度エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にしたとき、警告灯が数秒点灯した後に消灯すればそのまま使用できます。
消灯しないとき、または再び点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯について

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

ブレーキ警告灯

エンジン スイッチが“ＯＮ”で次のときに点灯します。

- ●パーキングブレーキをかけたままのとき
- ●ブレーキ液が不足しているとき
- ●ＥＢＤの機能が停止しているとき

■ブレーキ警告ブザー

パーキングブレーキをかけた状態で、時速約5km/h以上で走行したとき警告ブザーで警告します。

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき
または、点灯と同時にブレーキ警告ブザーが鳴ったとき
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

●警告灯がＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき
この場合、ＡＢＳに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●エンジン スイッチが“ＯＮ”で、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき

●パーキングブレーキが解除された状態で、エンジンスイッチを“ＯＮ”にしても点灯しないとき

なお、走行中に点灯しても、その後消灯し、再度点灯しなければ異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告灯について

エンジン スイッチを“ ON ”にすると（パーキングブレーキが解除されていても）点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

エンジン回転中に点灯したときは、Ｖリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると点灯します。
この警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージにより行ってください。
（点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください）

エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して、エンジンオイル量を点検してください。点灯したまま走行し続けるとエンジンを損傷するおそれがあります。
エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯について

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

A/T OIL TEMP

オートマチックトランスミッション油温警告灯

4WD車

エンジン回転中にトランスミッションフルードの温度が異常に高くなると点灯します。

エンジン回転中に警告灯が点灯したときは、冷却のためただちに安全な場所に停車し、シフトレバーをⓅでエンジンをかけたままにしてください。しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、そのまま使用せずトヨタ販売店にご連絡ください。

知 識

警告灯について

エンジン スイッチを“ＯＮ”にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに対処してください。

燃料残量警告灯

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、残量が約11L以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

半ドア警告灯

いずれかのドア（バックドアを含む）が確実に閉まっていないときに点灯します。
●確実に閉まっていないドア部が点灯します。

■半ドア警告ブザー
ドアが確実に閉まっていない状態で、車速が約5km/h以上になると警告ブザーで警告します。

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転席シートベルト非着用警告灯

エンジン スイッチが“ ON ”のとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■運転席シートベルト非着用警告ブザー
警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、ブザーが約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから約30秒後に断続音の速さがかわります）
●シートベルトを着用すると消音します。

次の警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに対処してください。

助手席シートベルト非着用警告灯

エンジン スイッチが " ON " で、かつ助手席シート座面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。
ただちにシートベルトを着用してください。

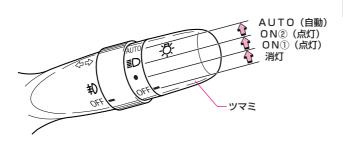
■助手席シートベルト非着用警告ブザー
警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、ブザーが約120秒間鳴ります。（ブザーが鳴りはじめてから約30秒後に断続音の速さがかわります）
●シートベルトを着用すると消音します。

知 識

乗員検知センサーについて

●センサーは、助手席シート座面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。従って、荷物などを置いた場合にも検知する場合があります。
●助手席シート座面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

ランプの使い方

ランプの点灯・消灯のしかた

ツマミの位置	点灯するランプ
ON①（点灯）	車幅灯・尾灯・番号灯・各スイッチ照明
ON②（点灯）	①のランプ+ヘッドランプ
AUTO（点灯）	①のランプ+ヘッドランプ（自動制御）

ツマミをON①・ON②にまわすと、点灯します。
ツマミをAUTOにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドランプ・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。（コンライト※）

●車幅灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯（P.224参照）が点灯します。

※コンライトの設定を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

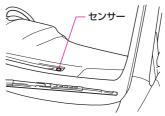
知識

作動条件について

●ＯＮ①・ＯＮ②の位置は、エンジン スイッチに関係なく使用できます。
●ＡＵＴＯの位置（コンライト）は、エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

コンライトセンサーについて

●連続するトンネルや半地下道路などでは、ひんぱんにヘッドランプの点灯・消灯を繰り返さないように、ヘッドランプ消灯直後に再点灯を連続して検知した場合は、通常より消灯するまでの時間が長くなります。
●コンライトのセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。※

※コンライトセンサーの設定を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

便利機能について

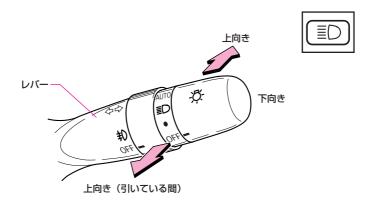
ランプオートカットシステム

ツマミがＯＮ①・ＯＮ②・ＡＵＴＯのまま、エンジン スイッチからキーを抜いて、運転席側ドアを開けると自動的に消灯します。次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。
●エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にする。
●ランプスイッチをＯＦＦにし、もう一度ＯＮにする。（この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません）

インテリジェント ＡＦＳ

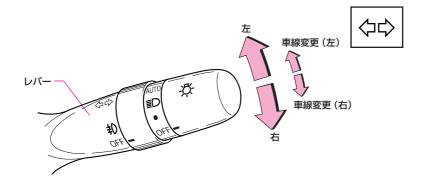
インテリジェント ＡＦＳ装着車

ヘッドランプ（下向き）点灯時、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして交差点やカーブでの視認性を向上させることができます。（P.369参照）
●ＡＦＳ ＯＦＦスイッチで作動を禁止することもできます。（P.253参照）

前方を遠くまで照らしたいときは

●ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前方に押すと、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きになります。
●ヘッドランプが上向きのときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯（P.223参照）が点灯します。

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

方向指示レバーの使い方

方向指示灯の点灯・消灯

●レバーを上または下へ操作すると、左または右側の方向指示灯が点滅します。メーター内にある方向指示表示灯（P.223参照）も点滅します。
レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

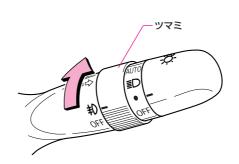
●車線変更のときには、レバーを軽く上または下へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が点滅するか確認してください。

フロントフォグランプの使い方

ツマミを にまわすと点灯し、ＯＦＦにまわすと消灯します。

●点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯（P.223参照）が点灯します。

知識

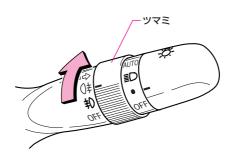
フロントフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドランプの補助として使用します。

作動条件について

車幅灯が点灯しているとき使用できます。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

リヤフォグランプの使い方 ★

ツマミを にまわすと点灯します。（ツマミは に自動でもどります）

●リヤフォグランプが点灯しているときに、ツマミをＯＦＦにまわす、または再度 にまわすと消灯します。

●点灯中はメーター内のリヤフォグランプ表示灯（P.223参照）が橙色に点灯します。

知 識

リヤフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に、自分の車の存在を知らせるために使用します。

●視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

作動条件について

●フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

●リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドランプを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。

●リヤフォグランプが点灯しているときに、ランプスイッチをＯＦＦにして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。

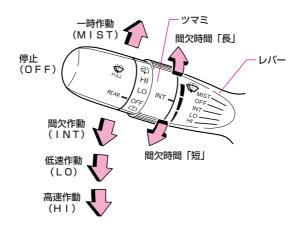
●ランプスイッチがＡＵＴＯで、リヤフォグランプが点灯しているとき、エンジンを停止して、運転席ドアを開けると、リヤフォグランプは消灯します。

●リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプの点灯操作が必要です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

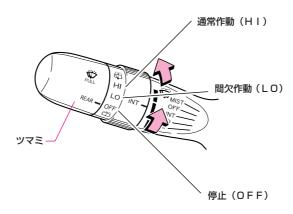
ワイパー & ウォッシャーの使い方

ワイパーの動かし方

■フロント

レバーを操作すると、上図のように作動します。

●間欠作動（ＩＮＴ）のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒の間で調整できます。

●一時作動（ＭＩＳＴ）は、レバーを停止（ＯＦＦ）から押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すと停止（ＯＦＦ）にもどります。

■リヤ

ツマミをまわすと、上図のように作動します。

注意 **ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。**

●ウインドゥガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。ガラスに張り付いたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。

●積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをＯＦＦ、エンジン スイッチを“ ＡＣＣ ”または“ ＬＯＣＫ ”にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

●洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

知 識

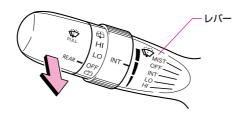
作動条件について

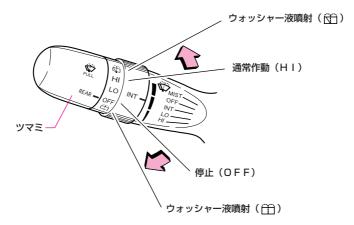
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。10分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常どおり使用できるようになります。

ウォッシャー液の噴射のしかた

■フロント

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射され、ワイパーが数回作動します。

■リヤ

●作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、ツマミを通常作動（ＨＩ）から上の 側にまわします。
●ツマミをＯＦＦから下の 側にまわしている間、ウォッシャー液が噴射されます。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

寒冷時はウインドゥガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドゥガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

●必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させるとガラスを傷付けるおそれがあります。

●ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
また、ノズルがつまって噴射状態が悪い場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

作動条件について

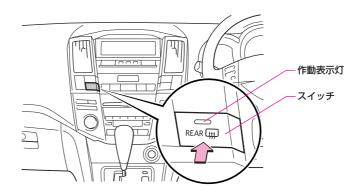
エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

ガラスに付いた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のランプなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、Ｐ.419を参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー（曇り取り）の使い方

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は、作動表示灯が点灯します。

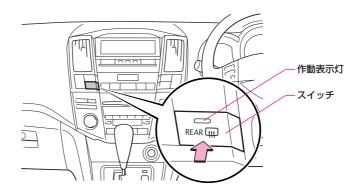
連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

リヤウインドゥデフォッガーについて

●リヤウインドゥガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。
●ミラーヒーター装着車は、ミラーヒーターも同時に作動します。（P.198参照）
●フロントワイパーデアイサー装着車は、フロントワイパーデアイサーも同時に作動します。（次ページ参照）

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

フロントワイパーデアイサーの使い方 ★

スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は、作動表示灯が点灯します。

作動中はフロントウインドゥガラスの下部と運転席側フロントピラー周辺部の表面が熱くなりますので、手をふれないでください。やけどをするおそれがあり危険です。

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知 識

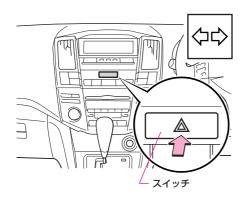
フロントワイパーデアイサーについて

●フロントウインドゥガラスの下部と運転席側フロントピラー周辺部の表面を暖めて、ガラスとワイパーブレードの凍結を防止します。
●リヤウインドゥデフォッガーも同時に作動します。(前ページ参照)
●ミラーヒーター装着車は、ミラーヒーターも同時に作動します。(P.198参照)

作動条件について

エンジン スイッチが“ ON ”のとき使用できます。

非常点滅灯の使い方

HDDナビゲーションシステム非装着車	HDDナビゲーションシステム装着車

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。
●メーター内にある方向指示表示灯（P.223参照）も点滅します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

エンジン スイッチに関係なく使用できます。

メーター照度調整ダイヤルの使い方

ダイヤルをまわすと、メーター照明の明るさを調整できます。

知 識

メーター照度調整について

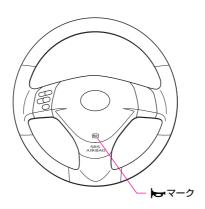
ダイヤルを右にまわすとメーター照明が明るくなり、左にまわすと暗くなります。

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

減光について

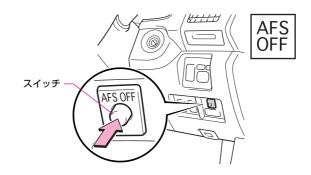
●ランプスイッチがＯＮになるとメーター照明が減光されます。
●右側いっぱいに“カチッ”というところまでまわすと、ランプスイッチがＯＮになったとき、メーター照明が減光されません。（メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーション画面も連動して常に昼画表示になります。詳しくは別冊の「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。）
●左側いっぱいまでまわすと、シフトレバー部照明は消灯します。（P.307参照）

ホーンの使い方

ハンドルの マーク周辺部を押すとホーン（警音器）が鳴ります。

ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。（マニュアルチルトステアリング装着車）
ハンドルの固定方法については、P.193の「ハンドルの調整」を参照してください。

作動条件について

エンジン スイッチに関係なく使用できます。

ＡＦＳ ＯＦＦスイッチの使い方

インテリジェント ＡＦＳ装着車

スイッチを押すとインテリジェント ＡＦＳの作動が停止し、作動停止中にもう一度押すと作動可能状態にもどります。
●停止中はメーター内のＡＦＳ ＯＦＦ表示灯（P.225参照）が点灯します。

雪壁などのある道路ではインテリジェント ＡＦＳを使用しないでください。雪の斜面などにヘッドランプが反射して、運転のさまたげになる可能性があります。

知 識

インテリジェント ＡＦＳについて

インテリジェント ＡＦＳは、ヘッドランプ（下向き）点灯時に、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして、交差点やカーブでの視認性を向上させる装置です。（作動については、P.369の「インテリジェント ＡＦＳ」をお読みください）

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”のとき使用できます。

4 室内装備の取り扱い

エアコンの取り扱い ………… 256
- エアコンの使い方 256
- 吹き出し口の調整 264

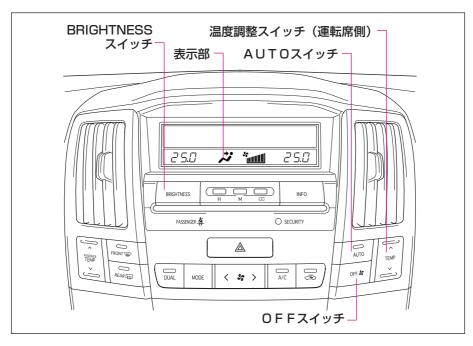
オーディオの取り扱い …… 266
- 電源・音量・音質調整 267
- ラジオの使い方 272
- ＣＤプレーヤーの使い方 278
- ＭＤプレーヤーの使い方 290
- アンテナ 296
- ステアリングスイッチの使い方 298
- 使用上の留意点 303

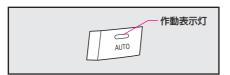
室内装備品の使い方 ………… 306
- サンバイザー 306
- フロントパーソナルランプ 307
- ルームランプ 308
- ドアカーテシランプ 311
- カップホルダー 312
- 灰皿 314
- シガレットライター 316
- グローブボックス 317
- コンソールボックス 318
- オーバーヘッドコンソール 320
- カーゴフック 320
- コートフック 321
- ドアポケット 322
- 小物入れ 322
- コンビニフック 323
- アクセサリーソケット 324
- トノカバー 325
- デッキアンダートレイ 328
- マルチインフォメーションディスプレイ 330
- イルミネーテッドエントリーシステム 336
- フロアマット 338

エアコンの取り扱い

エアコンの使い方

オート（ＡＵＴＯ）での使い方

エンジン スイッチが“ ＯＮ ”の状態でＡＵＴＯスイッチを押すと、ファンが作動し、設定温度により吹き出し口、風量およびエアコンのＯＮ・ＯＦＦなどが自動的に調整されます。作動の状態が表示部および各スイッチの作動表示灯により表示されます。

●BRIGHTNESSスイッチを押して、表示部の明るさを調整することができます。（P.335参照）

自動調整にする

ＡＵＴＯスイッチを押します。

●スイッチの作動表示灯が点灯します。

●スイッチを押すと、エアコンが作動します。

・外気温などの条件により、エアコンが自動的にＯＦＦになる場合があります。

温度を調整する

〈運転席側スイッチ〉

運転席側温度調整スイッチで希望する室内温度に設定します。
上げるときはスイッチの∧側、下げるときはスイッチの∨側を押します。（0.5℃ずつ調整できます）

●設定温度を18℃～32℃の間で調整することができます。
・最大冷房にするとＬＯ
・最大暖房にするとＨＩ
の表示になります。

●設定温度は、表示部に表示されます。

ファンを止める

ＯＦＦスイッチを押します。

●作動を停止させることができます。

エンジン停止中に作動させないでください。

- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中に作動させないでください。
- エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをＯＦＦにしてから、もう一度ＯＮにしてください。
  点滅がさらに続く場合は、スイッチをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

便利機能について

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、次のような機能があります。

- 吹き出し口が 、 または のとき、冬場などの寒いときには、温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。
- 吹き出し口が または のとき、夏場などの暑いときには、冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。
- 吹き出し口が のとき、ＭＯＤＥスイッチを押すと、 になります。このとき、足元へ送風しながら窓ガラスへも送風し、ガラスを曇りにくくします。
- 夏場などの暑いときに、室内をより早く設定温度に冷房するため、内気循環モードに切りかわる場合があります。
- フロントガラス内・外の曇りや霜を防止するため、外気温が低いときや高車速走行時には、 モードに切りかわる場合があります。
- 風量、吹き出し口、エアコンのいずれかを操作しても、残りの機能は引き続き自動的に調整されます。ただし、風量または吹き出し口を操作するとＡＵＴＯスイッチの表示灯が消灯します。

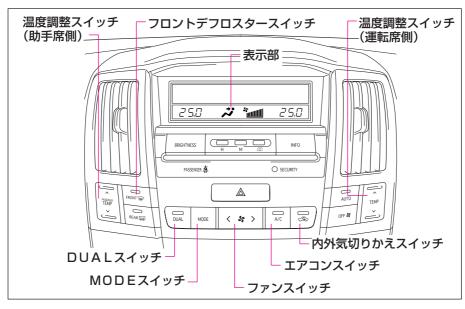
ＡＵＴＯスイッチについて

ＡＵＴＯスイッチをＯＮにしているとき、ＭＯＤＥスイッチまたはファンスイッチ（次ページ参照）を操作すると作動表示灯が消灯します。

エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

お好みの状態にするには

各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる

ファンスイッチで風量を5段階に切りかえます。
風量を強くするときは>側、弱くするときは<側を押します。

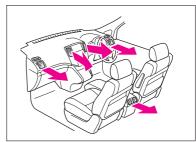
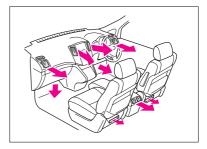
- 風量は表示部に表示されます。
- ファンが停止しているときは、スイッチを押すと、ファンが作動します。

吹き出し口をかえる

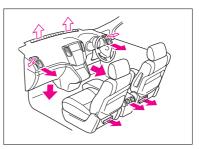
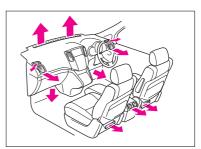
MODEスイッチで吹き出し口を選択します。(次ページ参照)
スイッチを押すごとに吹き出し口がかわります。

- 吹き出し口は表示部に表示されます。

<吹き出し口選択の目安>

上半身に送風するときは

上半身と足元に送風するときは

足元に送風するときは

⇦ ＡＵＴＯスイッチがＯＮのとき送風されます。（手動選択時はＰ.258参照）

足元への送風とガラスの曇りを取るときは

外気導入・内気循環の切りかえをする

内外気切りかえスイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切りかわります。

●内気循環にすると作動表示灯が点灯します。

表示	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときにお使いください。

エアコンをＯＮにする

ファンが作動している状態でエアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がＯＮとＯＦＦに切りかわります。

●作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

●外気温が0℃近くまで下がると、エアコンは作動しません。

フロントガラス内外の曇りや霜を取る

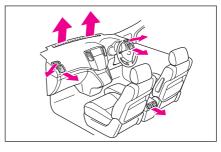
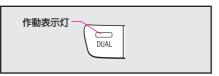
フロントデフロスタースイッチを押して、内外気切りかえスイッチを外気導入にします。

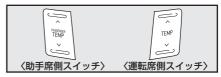
●ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。

●エアコンが自動的にＯＮになります。

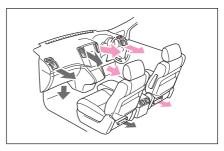
●作動中は、作動表示灯が点灯します。

●作動中にもう一度スイッチを押すと、もとの吹き出しモードにもどります。

<吹き出し口>

運転席・助手席で
それぞれ温度調整をする

ＤＵＡＬスイッチを押すごとに連動モードと独立モード（作動表示灯が点灯します）に切りかわります。

DUAL表示灯	モード
点灯	**独立モード** 運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。
消灯	**連動モード** 運転席側スイッチ操作により運転席と助手席の設定温度を同じにします。

〈助手席側スイッチ〉　〈運転席側スイッチ〉

独立モードのときに運転席は運転席側スイッチ、助手席は助手席側スイッチを押して、希望する室内温度に設定することができます。
上げるときはスイッチの∧側、下げるときはスイッチの∨側を押します。（0.5℃ずつ調整できます）

- 運転席と助手席でそれぞれ独立した温度調整をすることができます。
- 送風温度は下図のように調整されます。

➡ 運転席側スイッチの設定温度により調整された風
➡ 助手席側スイッチの設定温度により調整された風

湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とウインドゥの温度差でウインドゥ外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

●バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。
●エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをＯＦＦにしてから、もう一度ＯＮにしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチをＯＦＦにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

内外気切りかえについて

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに内外気切りかえスイッチを内気循環にすると効果的です。
●長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。
●設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入に切りかわることがあります。

より早くガラスの曇りや霜を取るには

「フロントガラス内外の曇りや霜を取る」（P.261参照）の操作と併せて、次の操作を行います。
●風量を増す（ファンスイッチを操作する）
●設定温度を上げる（温度調整スイッチを操作する）

エアコンの臭いについて

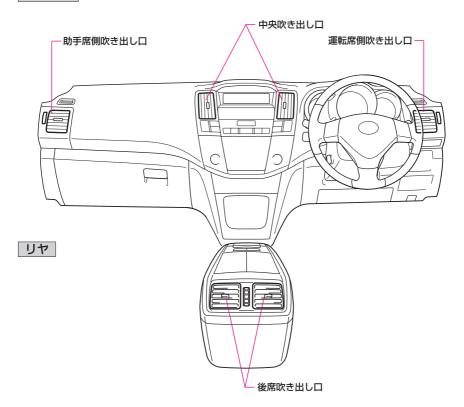
●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

温度調整について

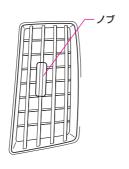
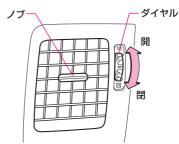
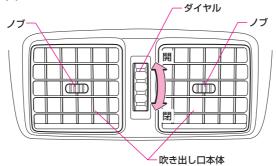
●独立モードから連動モードにもどすとき、運転席と助手席で設定温度が異なる場合は、運転席側の設定温度になります。
●連動モードのとき、助手席側温度調整スイッチを操作すると、自動的に独立モードに切りかわります。

吹き出し口の調整

フロント

リヤ

風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

■中央吹き出し口

■運転席／助手席側吹き出し口

■後席吹き出し口

●前席吹き出し口は､吹き出し口のノブを動かすと風向きの調整ができます。
●後席吹き出し口は、吹き出し口のノブまたは吹き出し口本体を動かすと、風向きの調整ができます。
●ダイヤルをまわして、吹き出し口を開閉することができます。

知 識

吹き出し口について

冷房時まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり、異常ではありません。

オーディオの取り扱い

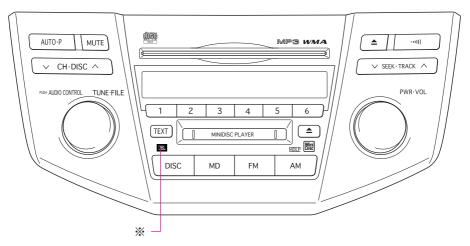
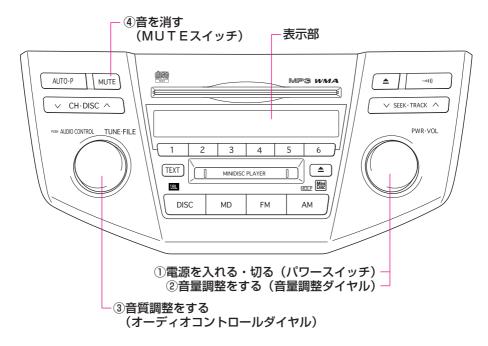
メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

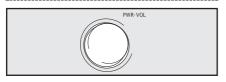
※ＪＢＬ社製オーディオ装着車

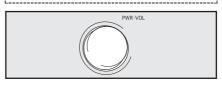
ＣＤ・ＭＤ一体ＡＭ／ＦＭラジオ ★

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電源・音量・音質調整

④音を消す
（MUTEスイッチ）
表示部
AUTO·P
MUTE
CH·DISC
PUSH AUDIO CONTROL
TUNE·FILE
MP3 WMA
SEEK·TRACK
PWR·VOL
1
2
3
4
5
6
TEXT
MINIDISC PLAYER
MDLP
DISC
MD
FM
AM
①電源を入れる・切る（パワースイッチ）
②音量調整をする（音量調整ダイヤル）
③音質調整をする
（オーディオコントロールダイヤル）

基本操作

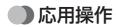
①電源を入れる・切る

パワースイッチを押すごとに、電源が入・切になります。

②音量調整をする

音量調整ダイヤルを右へまわすと音量が大きくなり、左へまわすと小さくなります。

知 識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”のとき使用できます。

応用操作

③音質調整をする

■モードの切りかえ方

音量バランスと音質の調整モードを切りかえることができます。

オーディオコントロールダイヤルを押すごとに、ＦＡＤ·ＢＡＳ·ＭＩＤ※·ＴＲＥ·ＢＡＬ·ＡＳＬの順にモードが切りかわります。

●選択したモードが表示部に表示されます。

※ＪＢＬ製オーディオ装着車のみ

■レベル調整のしかた

オーディオコントロールダイヤルをまわして、選択したモードのレベル調整をすることができます。

●調整レベルがモード表示の右側に表示されます。

ＪＢＬ製オーディオ装着車

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左へまわす	右へまわす
前後音量バランス	**FAD**	R7～F7	後側大	前側大
低音	**BAS**	−5～5	弱	強
中音	**MID**	−5～5	弱	強
高音	**TRE**	−5～5	弱	強
左右音量バランス	**BAL**	L7～R7	左側大	右側大
音量補正	**ASL**	ＯＦＦ・ＯＮ	ＯＦＦ	ＯＮ

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

ＪＢＬ製オーディオ非装着車

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左へまわす	右へまわす
前後音量バランス	**FAD**	R7～F7	後側大	前側大
低音	**BAS**	−5～5	弱	強
高音	**TRE**	−5～5		
左右音量バランス	**BAL**	L7～R7	左側大	右側大
音量補正	**ASL**	OFF	右へまわす OFF ⇄ LOW ⇄ MID ⇄ HIGH 左へまわす	
		LOW		
		MID		
		HIGH		

知識

ＡＳＬ※（音量補正）について

車速に応じて音量、周波数特性を自動的に制御し、いつも最適な音量・音質を実現するシステムです。

●ＪＢＬオーディオ非装着車は、ＨＩＧＨ、ＭＩＤ、ＬＯＷの順に補正量が小さくなります。

※ ＡＳＬはAutomatic Sound Levelizerの略。

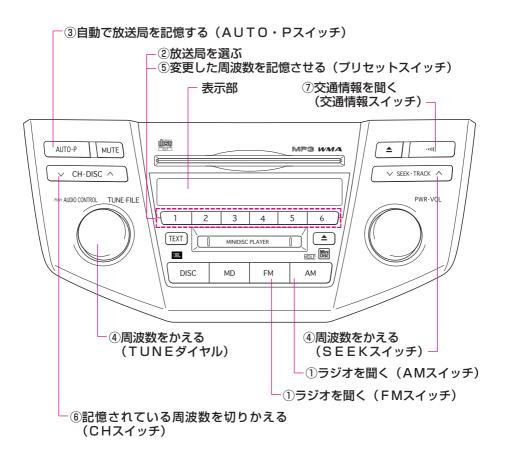
④音を消す

MUTE

ＭＵＴＥスイッチを押すと一時的に音を消すことができます。

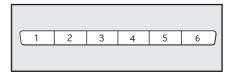
●表示部に「ＭＵＴＥ」の表示が点滅します。
　解除するときは、もう一度ＭＵＴＥスイッチを押します。

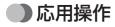
ラジオの使い方

③自動で放送局を記憶する（ＡＵＴＯ・Ｐスイッチ）
②放送局を選ぶ
⑤変更した周波数を記憶させる（プリセットスイッチ）
表示部
⑦交通情報を聞く
（交通情報スイッチ）
AUTO·P
MUTE
CH·DISC
PUSH AUDIO CONTROL
TUNE·FILE
MP3 WMA
SEEK·TRACK
PWR·VOL
1
2
3
4
5
6
TEXT
MINIDISC PLAYER
MDLP
DISC
MD
FM
AM
④周波数をかえる
（ＴＵＮＥダイヤル）
④周波数をかえる
（ＳＥＥＫスイッチ）
①ラジオを聞く（ＡＭスイッチ）
①ラジオを聞く（ＦＭスイッチ）
⑥記憶されている周波数を切りかえる
（ＣＨスイッチ）

基本操作

①ラジオを聞く

ＡＭ放送を受信したいときは、ＡＭスイッチ、ＦＭ放送を受信したいときは、ＦＭスイッチを押します。

②放送局を選ぶ

1〜6までのプリセットスイッチのひとつを押します。記憶されている放送局が選択されます。
放送局の記憶のしかたについては、P.274、276を参照してください。

応用操作

③自動で放送局を記憶する

AUTO·P

自動で受信可能な周波数を一時的にプリセットスイッチに記憶させることができます。
旅先などで放送局の周波数がわからないときに便利です。
ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、受信感度の良い周波数を低い順に6局まで自動的に記憶します。

- 表示部に**「ＡＵＴＯ・Ｐ」**の表示が出ます。
- 受信周波数が6局未満のときは、残りのプリセットスイッチには何も記憶されません。
- 周波数の記憶操作が終了すると、“ピッピッ”と音がして記憶した中でいちばん低い周波数を受信します。
- ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押すたびに、新たに周波数を記憶しなおします。
- 自動で周波数を記憶させても、ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押す前（**「ＡＵＴＯ・Ｐ」**の表示が出ていないとき）に記憶させた周波数は消去されません。

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押す前の状態にしたいときは

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチを押して、すぐ手を離します。

- 表示部の**「ＡＵＴＯ・Ｐ」**の表示が消え、以前に記憶させた周波数になります。

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数を変更するには

1 ＳＥＥＫスイッチまたはＴＵＮＥダイヤルで記憶させたい周波数を選択します。

2 変更したい周波数が記憶されているプリセットスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

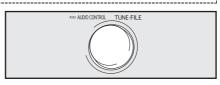
④周波数をかえる

周波数はＳＥＥＫスイッチを押すと自動で受信可能な周波数を選択します。

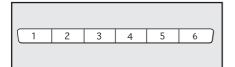
●高い方へ選択するときは∧側、低い方へ選択するときは∨側を押します。

・受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数にいちばん近い周波数を自動で選択します。

・途中で止めたいときは、もう一度ＳＥＥＫスイッチを押します。

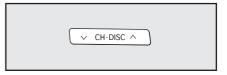
・地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

周波数はＴＵＮＥダイヤルをまわすと微調整することができます。

●高い方へ選択するときは右に、低い方へ選択するときは左にまわします。

⑤変更した周波数を記憶させる

記憶させたいプリセットスイッチのひとつを“ピッ”と音がするまで押し続けると、聞いていた周波数を記憶させることができます。

●ＡＭ・ＦＭ各6局まで周波数を記憶させることができます。
　ひとつのプリセットスイッチに、ＡＭ・ＦＭ各1局ずつ周波数を記憶させることができます。

●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。

⑥記憶されている周波数を切りかえる

ＣＨスイッチの∧側または∨側を押して、プリセットスイッチに記憶させている周波数を選択します。

●表示部にプリセット番号が表示されます。

⑦交通情報を聞く

･･ıı))

交通情報放送を行っている地域で交通情報放送局を受信することができます。
●交通情報スイッチを押すと、交通情報放送局が受信されます。
●解除するときは、もう一度交通情報スイッチを押します。

周波数を変更したいときは

1 ＡＭを選択します。

2 記憶させたい周波数を選択します。

3 交通情報スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

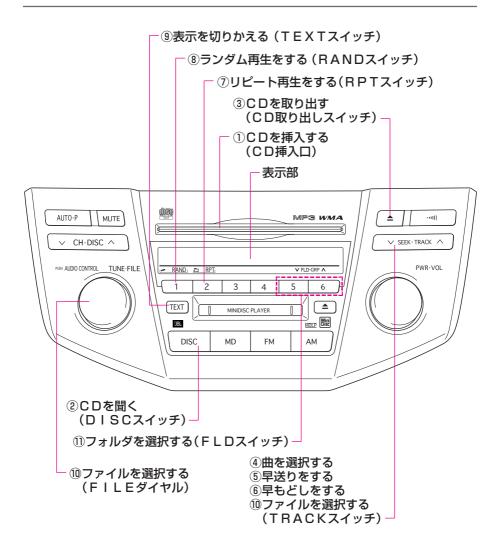
●新車時には1620kHzにセットしてあります。
●交通情報スイッチを押してラジオを受信しているときは、ＳＥＥＫスイッチ・ＴＵＮＥダイヤル・プリセットスイッチ・ＡＵＴＯ・Ｐスイッチ・ＣＨスイッチを押しても周波数は切りかわりません。
●バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、1620kHzになります。

知 識

ＡＵＴＯ・Ｐスイッチについて

●地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶できないことがあります。
●ＡＵＴＯ・Ｐスイッチによる周波数の記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信感度の状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。
●同じ放送局からの受信でも、ＳＥＥＫスイッチまたはＴＵＮＥダイヤルで選択し、記憶させた周波数とＡＵＴＯ・Ｐスイッチで記憶させた周波数は一致しないことがあります。

ＣＤプレーヤーの使い方

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

基本操作

①ＣＤを挿入する

ＣＤ挿入口にＣＤを挿入します。

●ＣＤを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。

●ＣＤ挿入口にＣＤを挿入すると、ＣＤが再生されます。

②ＣＤを聞く

DISC

ＣＤが入っている場合は、ＤＩＳＣスイッチを押すと、ＣＤが再生されます。

③ＣＤを取り出す

ＣＤ取り出しスイッチを押します。

応用操作（音楽ＣＤを聞く）

④曲を選択する

∨ SEEK・TRACK ∧

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側または∨側を押して曲を選択します。

●表示部に曲番が表示されます。

⑤早送りをする

∨ SEEK・TRACK ∧

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早送りされます。
ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑥早もどしをする

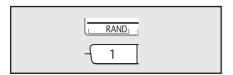
ＴＲＡＣＫスイッチのＶ側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早もどしされます。
ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

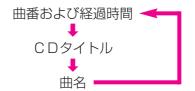
⑦リピート再生をする

ＲＰＴスイッチを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

⑧ランダム再生をする

ＲＡＮＤスイッチを押すと、ＣＤの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

⑨表示を切りかえる

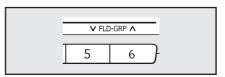
ＣＤテキスト対応のＣＤを再生しているときは、ＴＥＸＴスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切りかわります。

応用操作（ＭＰ３／ＷＭＡを聞く）

⑩ファイルを選択する

ＦＩＬＥダイヤルをまわしてファイルを選択します。

●うしろのファイルを選択したいときは右に、前のファイルを選択したいときは左にまわします。

ＴＲＡＣＫスイッチの∧側または∨側を押してファイルを選択します。

⑪フォルダを選択する

ＦＬＤスイッチの∧側または∨側を押してフォルダを選択します。

∨側を“ピッ”と音がするまで押し続けると、最初のフォルダを選択することができます。

⑤早送りをする

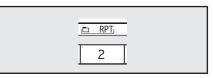
ＴＲＡＣＫスイッチの∧側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早送りされます。
　ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑥早もどしをする

ＴＲＡＣＫスイッチのＶ側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＣＤが早もどしされます。
　ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑦リピート再生をする

■同一ファイル繰り返しモード

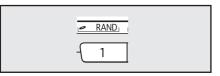
ＲＰＴスイッチを押すと、解除するまで同じファイルを繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

■同一フォルダ繰り返しモード

ＲＰＴスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、解除するまで同じフォルダを繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

⑧ランダム再生をする

■同一フォルダランダムモード

ＲＡＮＤスイッチを押すと、再生中のフォルダの中からファイルを順不同に再生します。

●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

■ディスク内ランダムモード

ＲＡＮＤスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、ディスクの中からファイルを順不同に再生します。

●表示部に RAND の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

⑨表示を切りかえる

ＴＥＸＴスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切りかわります。

※ タグ情報。タグについては、P.288をお読みください。

8cmＣＤを使用するときは、アダプターを使用しないでください。
ＣＤを取り出せなくなるおそれがあります。

知 識

表示について

●ＣＤタイトルまたは曲名表示のとき、タイトルがない場合は「ＮＯ ＴＩＴＬＥ」と表示されます。
●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
ＣＤタイトル、または曲名が13文字以上の場合は、ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
・13文字目以降表示時に、もう一度ＴＥＸＴスイッチを約1秒以上押し続ける、または、約6秒以上操作しないと、1文字目～12文字目までの表示にもどります。
・記憶してある文字数が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。
●ディスク内にＭＰ３／ＷＭＡファイルが収録されていないと、「ＮＯ ＭＵＳＩＣ」と表示されます。

ＣＤプレーヤーに異常が生じたときは

●表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
・ディスクが汚れているなど読み取りができないとき

「ＥＲＲＯＲ １」

・プレーヤーに異常があるとき

「ＥＲＲＯＲ ３」
「ＥＲＲＯＲ ４」

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

「ＷＡＩＴ」

MP3／WMAファイルについて

MP3（MPEG Audio LAYER3）は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
MP3を使用すれば、もとのファイルを約1/10のサイズに圧縮することができます。
WMA（Windows Media Audio）は、マイクロソフト社の音声圧縮フォーマットです。
MP3よりも小さいサイズに圧縮することができます。
使用できるMP3／WMAファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

■再生可能なMP3ファイルの規格について

●対応規格
　MP3（MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3）
●対応サンプリング周波数
　MPEG1 LAYER3：32、44.1、48（kHz）
　MPEG2 LSF LAYER3：16、22.05、24（kHz）
●対応ビットレート
　MPEG1 LAYER3：64、80、96、112、128、160、192、224、256、320（kbps）
　MPEG2 LSF LAYER3：64、80、96、112、128、144、160（kbps）
　＊VBRに対応しています。
●対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

■再生可能なWMAファイルの規格について

●対応規格
　WMA Ver.7、8、9
●対応サンプリング周波数
　32、44.1、48（kHz）
●対応ビットレート
　Ver.7、8：CBR48、64、80、96、128、160、192（kbps）
　Ver.9：CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320（kbps）
　＊2ch再生のみ対応しています。

■使用できるメディアついて

MP3／WMAの再生に使用できるメディアはCD－RおよびCD－RWです。
CD－R、CD－RWの状態によっては再生できない場合があります。また、ディスクに指紋や傷を付けた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

知識

■使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは下記の通りです。

●ディスクフォーマット：ＣＤ－ＲＯＭ　Mode1、Mode2
　　　　　　　　　　　：ＣＤ－ＲＯＭ　ＸＡ、Mode2　Form1、Form2

●ファイルフォーマット：ＩＳ0 9660レベル1、レベル2（Romeo joliet）

上記フォーマット以外で書き込まれたＭＰ３／ＷＭＡファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

規格ならびに制限事項は次の通りです。

●最大ディレクトリ階層：8階層

●最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角32文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません）

●最大フォルダ数：192（ルート含む）

●ディスク内最大ファイル数：255

■ファイル名について

ＭＰ３／ＷＭＡと認識し、再生するファイルはＭＰ３／ＷＭＡの拡張子“.ＭＰ３”／“.wma”が付いたものだけです。

■マルチセッションついて

マルチセッションに対応しており、ＭＰ３／ＷＭＡファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

■ＩD3タグ／WMＡタグついて

ＭＰ3ファイルには、ＩD3タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。
ＩD3 Ver. 1.0、1.1、ＩD3 Ver. 2.2、2.3のＩD3タグに対応しています。
（文字数はＩD3 Ver. 1.0、1.1に準拠します）
WMＡファイルには、WMＡタグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ＩD3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

■ＭＰ３／ＷＭＡの再生ついて

ＭＰ３／ＷＭＡファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初のＭＰ３／ＷＭＡファイルを再生します。
ディスク内のチェックを早く終わらせるために、ＭＰ３／ＷＭＡファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。
音楽データとＭＰ３、またはWMＡ形式のデータが混在しているディスクは再生できません。

知 識

拡張子について

ＭＰ３／ＷＭＡ以外のファイルに“.mp3”／“.wma”の拡張子が付いていると、ＭＰ３／ＷＭＡファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損する場合があります。

再生について

●安定した音質で再生するために、ＭＰ３の場合、１２８kbpsの固定ビットレート、44.1kHzのサンプリング周波数を推奨します。
●ＣＤ－Ｒ、ＣＤ－ＲＷはディスクの特性により再生できない場合があります。
●ＭＰ３／ＷＭＡは市場にフリーウエアなど、多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質の劣化や再生開始時のノイズの発生、また再生できない場合もあります。
●ディスクにＭＰ３／ＷＭＡ以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できない場合があります。
●Microsoft、Windows、Windows Mediaは米国マイクロソフトコーポレーションの米国、およびその他の国における登録商標および商標です。

MDプレーヤーの使い方

基本操作

①MDを挿入する

1 MD挿入口にMDを軽く止まる位置まで挿し込みます。

MDのラベル面を上に向け、MDに表示されている矢印の方向を前にして挿し込みます。

2 MDの中央を静かに押します。

MDが再生されます。

②MDを聞く

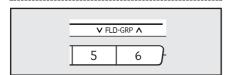
MDがセットされている場合は、MDスイッチを押すと、MDが再生されます。

③MDを取り出す

MD取り出しスイッチを押します。

④曲を選択する

TRACKスイッチの∧側または∨側を押して曲を選択します。
●表示部に曲番が表示されます。

⑤グループを選択する

グループ録音されているMD再生時

GRPスイッチの∧側または∨側を押してグループを選択します。

⑥早送りをする

TRACKスイッチの∧側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。
●TRACKスイッチを押している間MDが早送りされます。
TRACKスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑦早もどしをする

ＴＲＡＣＫスイッチの∨側を“ピッ”と音がするまで押し続けます。

●ＴＲＡＣＫスイッチを押している間ＭＤが早もどしされます。ＴＲＡＣＫスイッチから手を離すと、その位置から再生をはじめます。

⑧リピート再生をする

■同一曲繰り返しモード

ＲＰＴスイッチを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

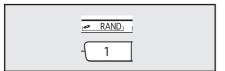
●表示部に RPT の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

グループ録音されているＭＤ再生時

■同一グループ繰り返しモード

ＲＰＴスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、解除するまで同じグループを繰り返して再生します。

●表示部に RPT の表示が出ます。解除するときは、もう一度ＲＰＴスイッチを押します。

⑨ランダム再生をする

ＲＡＮＤスイッチを押すと、ＭＤの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

グループ録音されているＭＤ再生時

■同一グループランダムモード

ＲＡＮＤスイッチを押すと、グループの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

■ＭＤ内ランダムモード

ＲＡＮＤスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、ＭＤの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。
解除するときは、もう一度ＲＡＮＤスイッチを押します。

⑩表示を切りかえる

TEXT

ＴＥＸＴスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切りかわります。

※ グループ録音されているＭＤ再生時

MDが自動的にセットされないときは、いったんMD取り出しスイッチを押してMDを取り出し、MDが軽く止まる位置まで挿し込まれていることを確認してから、再度MDを静かに押してください。無理にMDを押し込むと故障の原因となります。

表示について

●MDタイトル、グループタイトルまたは曲名表示のとき、タイトルがない場合は「NO TITLE」と表示されます。

●表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
MDタイトルまたは曲名が13文字以上の場合は、TEXTスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
・13文字目以降表示時に、もう一度TEXTスイッチを約1秒以上押し続ける、または約6秒以上操作しないと、1文字目～12文字目までの表示にもどります。
・MDタイトルまたは曲名が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。

●無録音ディスクが挿入されているときは「BRANK DISC」と表示されます。

MDLPについて

●このプレーヤーは、MDLPの再生に対応していますので、長時間録音されたMDを再生することができます。

●MDの録音方法にかかわらず曲名の先頭の「LP：」を表示しません。(長時間録音された曲名の先頭には、「LP：」があらかじめ入力されている場合があります)

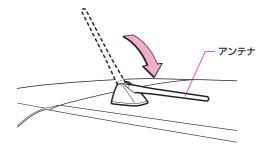
●LP4ステレオ録音した音を再生した場合、圧縮方式の特性により、ごくまれに瞬間的なノイズが聞こえることがあります。

MDプレーヤーに異常が生じたときは

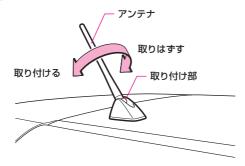
●表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
・ディスクが汚れているなど読み取りができないとき
「ERROR 1」
・プレーヤーに異常があるとき
「ERROR 3」
「ERROR 4」

●プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると、表示が消えて使用可能になります。
「WAIT」

ラジオ用アンテナ

■格納のしかた

アンテナは上図のように格納できます。

●ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

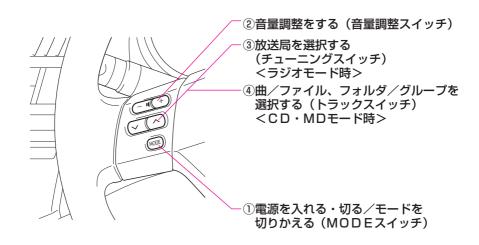
■脱着のしかた

取りはずすときは、アンテナをまわして取り付け部から取りはずします。
取り付けるときは、アンテナ取り付け部にねじ込み、しっかりと固定します。

FMサブアンテナ

リヤウインドゥガラスに埋め込まれています。

アンテナの取り扱いにはご注意ください。

●自動洗車機にかけるときは、ラジオ用アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。
●次のようなときは、ラジオ用アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを格納してください。
・車庫などにアンテナがあたるとき
・カーカバーをかけるとき
●洗車時などラジオ用アンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取り付けてください。
●アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって軽くふいてください。ガラスクリーナーなどは、アンテナを傷めますので使用しないでください。
●リヤウインドゥガラスのアンテナ線部に次のものを貼り付けないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
・金属を含有するウインドゥフィルム
・その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）
●マルチパネルムーンルーフを操作するときは、ラジオ用アンテナの向きに注意してください。マルチパネルムーンルーフを開けたときにアンテナにあたり、マルチパネルムーンルーフまたはアンテナを損傷するおそれがあります。（マルチパネルムーンルーフ装着車）

ステアリングスイッチの使い方 ★

ハンドル左側にあるスイッチで、次のオーディオ操作をすることができます。

●**電源のON・OFF／モードの切りかえ・音量調整** ……………………P.299
●**ラジオの操作** ……………………………………………………………P.301
●**ＣＤ・ＭＤの操作** ……………………………………………………P.302

 知 識

作動条件について

エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”のとき使用できます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電源のＯＮ・ＯＦＦ／モードの切りかえ・音量調整

①電源を入れる・切る／モードを切りかえる

電源のＯＮ・ＯＦＦと、モードの切りかえをすることができます。

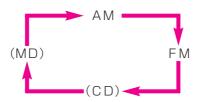
■電源ＯＮ

電源がＯＦＦのときは、ＭＯＤＥスイッチを押し続けると電源がＯＮになります。

■電源ＯＦＦ

電源がＯＮのときは、ＭＯＤＥスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると電源がＯＦＦになります。

■モード切りかえ

電源がＯＮのときは、ＭＯＤＥスイッチを押すごとに、次のようにモードを切りかえることができます。

なお、ディスクが挿入されていないときは、（　）内のモードが飛ばされて選択できません。

②音量調整をする

音量調整スイッチを押すと、音量を調整することができます。
音量を
●大きくするときはスイッチの＋側
●小さくするときはスイッチの－側
を押します。

●スイッチを押してすぐ（約1秒未満）に手を離すと、音量を1ステップずつ調整できます。
●スイッチを約1秒以上押し続けると、音量を連続して調整できます。

ラジオの操作

③放送局を選択する<ラジオモード時>

放送局の周波数を選択することができます。

■プリセットスイッチに記憶されている周波数を選択するには

チューニングスイッチを押して、オーディオのプリセットスイッチに記憶されている周波数を選択します。

周波数を

●高い方へ選択するときはスイッチの∧側

●低い方へ選択するときはスイッチの∨側

を押します。

■自動で周波数を選択するには

チューニングスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数が選択されます。

周波数を

●高い方へ選択するときはスイッチの∧側

●低い方へ選択するときはスイッチの∨側

を押します。

●受信感度が良く、現在オーディオの表示部に表示されている周波数にいちばん近い周波数を自動で選択します。

●途中で止めたいときは、もう一度スイッチを押します。

●地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。

④曲／ファイル、フォルダ／グループを選択する　＜ＣＤ・ＭＤモード時＞

曲／ファイルや、フォルダ／グループの選択をすることができます。

■曲／ファイルを選択するには
トラックスイッチを押して、曲／ファイルを選択します。
希望の曲／ファイルが
●うしろにあるときはスイッチの∧側
●前にあるときはスイッチの∨側
を押します。

ＭＰ３／WMＡディスクまたはグループ録音されているＭＤ再生時

■フォルダ／グループを選択するには
ＭＰ３／WMＡディスクまたはグループ録音されているＭＤ再生時に、トラックスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、フォルダ／グループが選択されます。
再生したいフォルダ／グループが、
●うしろにあるときはスイッチの∧側
●前にあるときはスイッチの∨側
を押します。

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。
オーディオを聞いているときに、車内または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがありますが故障ではありません。

注意

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

●バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。
●走行中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意して行ってください。

ラジオについて

ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

ＣＤについて

■プレーヤーについて

上のマークの付いた音楽用ＣＤやＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）が使用できます。
●コピーコントロールＣＤなどの正式なＣＤ規格に準拠していない特殊なディスクには対応していません。
●ＣＤ－Ｒ（CD-Recordable）、ＣＤ－ＲＷ（CD-ReWritable）は、記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、長時間の車室内環境における劣化により再生できない場合があります。また、ファイナライズ処理されていないＣＤ－Ｒ、ＣＤ－ＲＷは再生できません。

■寒いときや雨降りのときは
車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生ずることがあります。この場合、音が飛んだり、再生が停止したりしますので、しばらくの間、換気または除湿してから使用してください。

■悪路を走行したときは
激しく振動した場合、音飛びをすることがあります。

ＣＤの取り扱いにはご注意ください。

●ＣＤ取り出しスイッチを押して、ＣＤが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。
●ＣＤは直射日光を避けて保管してください。ＣＤがそり、使用できなくなるおそれがあります。
●ＣＤを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。
●直径12cmまたは8cmの円形以外のＣＤは再生できません。特殊形状のＣＤは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。
●DualDiscには対応していません。機器の故障の原因となりますので使用しないでください。
●記録部分に透明または半透明部分があるＣＤは、正常に出し入れや再生ができなくなるおそれがありますので使用しないでください。
●レンズクリーナーを使用すると、プレーヤーのピックアップ部の故障の原因となるおそれがありますので使用しないでください。
●セロハンテープ、シール、ＣＤ－Ｒ用ラベルなどが貼ってあるＣＤや、はがしたあとのあるＣＤは使用しないでください。プレーヤーが正常に作動しなくなったり、ＣＤが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。

●ＣＤの汚れは、プラスチックレンズ用メガネ拭きなどの柔らかく乾いた布で軽く拭き取ってください。手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷が付くことがあります。また、レコードスプレー・帯電防止剤・アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、ＣＤが損傷し使用できなくなるおそれがあります。
●変形したディスクは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

MDについて

■プレーヤーについて

上のマークの付いた音楽用MDのみ使用できます。

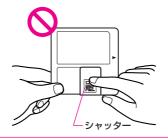
■寒いときや雨降りのときは

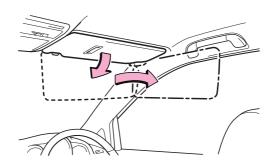
車内のガラスが曇るように、プレーヤー内部にも露（水滴）が生ずることがあります。この場合、音が飛んだり、再生が停止したりしますので、しばらくの間、換気または除湿してから使用してください。

■悪路を走行したときは

激しく振動した場合、音飛びをすることがあります。

MDの取り扱いにはご注意ください。

- ●データ用のMDは使用できません。必ず音楽用のMDを使用してください。
- ●ラベルがはがれかけていたり、ネームテープが貼ってあるMDを使用しないでください。
- ●MDは直射日光を避けて保管してください。MDがそり、使用できなくなるおそれがあります。
- ●シャッターを無理に開けないでください。MDがこわれるおそれがあります。

室内装備品の使い方

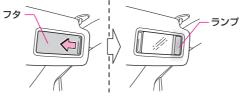
サンバイザー

日差しがまぶしいときに使用します。
側面にまわして使用することもできます。

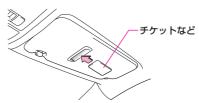
知識

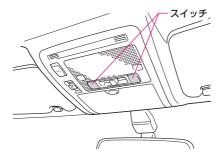
便利機能について

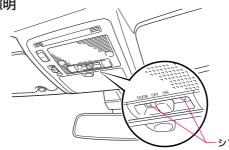
バニティ（化粧用）ミラー

サンバイザーの裏側に化粧用ミラーが付いています。フタを開けて使用します。

●バニティランプ装着車は、フタをスライドさせると、ランプが点灯します。

チケットホルダー（運転席）

チケットなどを収納することができます。
サンバイザーの表側にあります。

フロントパーソナルランプ

■マップランプ

スイッチを押すと、押した側のマップランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。

■シフトレバー部照明

シフトレバー部を照らします。

●メーター照度調整ダイヤル（P.251参照）を左側いっぱいまでまわすと消灯します。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

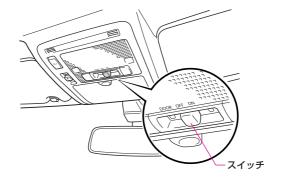
知 識

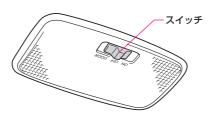
作動条件について

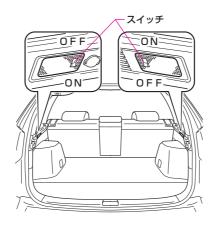
●マップランプは、エンジン スイッチに関係なく使用できます。

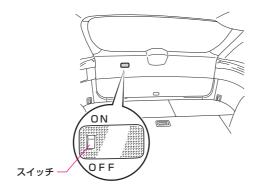
●シフトレバー部照明は、エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”のとき点灯します。

ルームランプ

■フロント

●スイッチがＯＮのときは、常に点灯します。
●スイッチがＯＦＦのときは、常に消灯します。
●スイッチがＤＯＯＲのときは、イルミネーテッドエントリーシステムが作動します。（P.336参照）

■リヤ

●スイッチがＯＮのときは、常に点灯します。
●スイッチがＯＦＦのときは、常に消灯します。
●スイッチがＤＯＯＲのときは、イルミネーテッドエントリーシステムが作動します。（P.336参照）

■ラゲージランプ

●スイッチをONにしておくと、バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。
●スイッチがOFFのときは、常に消灯します。

■バックドアランプ

●スイッチをONにしておくと、バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。
●スイッチがOFFのときは、常に消灯します。

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

作動条件について

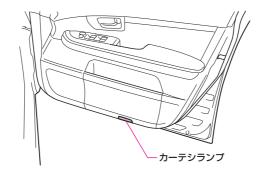
エンジン スイッチに関係なく使用できます。

便利機能について

ルームランプ自動消灯機能

バッテリーの消耗を抑えるため、エンジン スイッチにキーが挿し込まれていないとき、いずれかのドアが開いた状態で、フロントルームランプおよびリヤルームランプ（ＤＯＯＲのとき）が約20分以上点灯し続けると、ルームランプ自動消灯機能が働き、ランプを自動的に消灯します。

ドアカーテシランプ

■フロントドア

ドアを開けると、開けたドアのカーテシランプが点灯し、閉めると消灯します。

注意

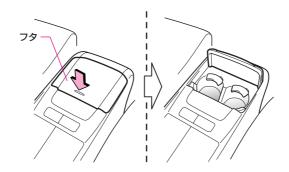
バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

知 識

作動条件について

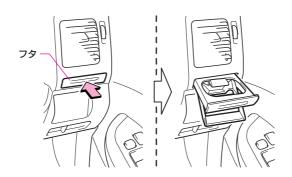
エンジン スイッチに関係なく使用できます。

カップホルダー

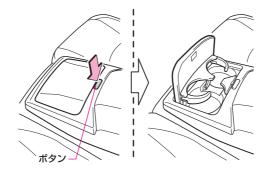
■コンソールボックス

フタを押すと開きます。

●使用しないときは、閉めておいてください。

●コンソールボックスのカップホルダー運転席側に、移動式灰皿（P.314参照）が格納されています。灰皿はコンソールボックス内のカップホルダー以外でも使用できますが、走行するときは必ずコンソールボックスのカップホルダー運転席側に取り付けて使用してください。

■運転席側

フタを押すと開きます。

●使用しないときは、閉めておいてください。

■リヤシートアームレスト

ボタンを押して開けます。
●使用しないときは、閉めておいてください。
●アームレストを格納するときは、カップホルダーを確実に格納してください。

カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック、移動式灰皿（次ページ参照）以外のものを入れないでください。

●カップホルダーには、カップや飲料缶、紙パック、移動式灰皿以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
●急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。

カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

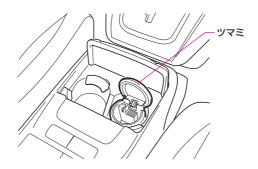
●カップホルダーを破損から守るため、カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
●移動式灰皿は、コンソールボックスのカップホルダー運転席側に格納してください。カップホルダーの深さが違うため、助手席側に格納するとカップホルダーのフタが閉められません。

 知 識

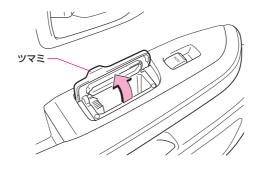
カップホルダーランプについて

ランプスイッチがＯＮのときは、コンソールボックスのカップホルダーランプが点灯します。

灰皿

■フロント（移動式）

コンソールボックスのカップホルダーの運転席側に移動式灰皿が格納されています。
カップホルダー（P.312参照）のフタを押して開け、ツマミを引いて灰皿のフタを開けます。

●コンソールボックス内のカップホルダー以外の場所でも使用できますが、走行するときは必ずコンソールボックスのカップホルダー運転席側に取り付けて使用してください。

■リヤドア

ツマミを引いて開けます。

●取りはずすときは、フタを持って上に引き上げて取りはずします。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

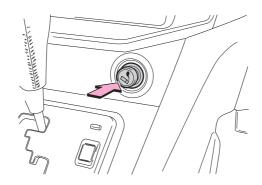
出火を防ぐため、次のことをお守りください。

- ●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、フタを確実に閉めてください。
- ●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

移動式灰皿は、コンソールボックスにあるカップホルダーの運転席側に格納してください。カップホルダーの深さが違うため、助手席側に格納するとカップホルダーのフタが閉められません。

移動式灰皿の照明ランプについて

- ●ランプスイッチがＯＮのときは、照明用レンズがリング状に点灯します。
- ●照明用レンズは、取りはずして掃除できます。
照明用レンズを取りはずすときは、灰皿のフタを開けてから、レンズを左右に少し広げたまま上に引き抜きます。

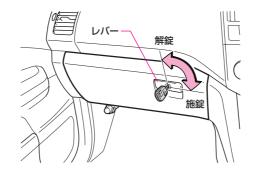
シガレットライター

シガレットライターを押し込んで手を離します。
もとの位置にもどったら使用できます。

シガレットライターの金属部分にふれないでください。

●シガレットライターの金属部分にふれないでください。やけどをするおそれがあります。
●シガレットライターの故障や周辺部の焼損を防ぐため、次のことをお守りください。
・シガレットライターを押さえたままにしないでください。
・他車のシガレットライターを挿し込まないでください。
・ソケットからトヨタ純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。
トヨタ純正品以外の電源を取り出した場合、シガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

作動条件について

エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき使用できます。

グローブボックス

開閉のしかた

レバーを引いて開けます。
●閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

施錠・解錠のしかた

マスターキーを挿し込み、まわして抜きます。
●サブキーは使用できません。

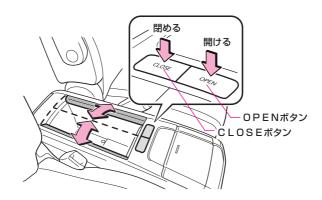
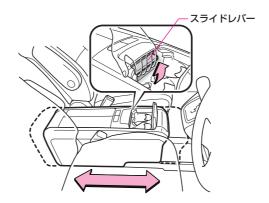
警告

グローブボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

便利機能について

グローブボックスランプ
ランプスイッチがＯＮで、グローブボックスを開けたときに点灯します。

コンソールボックス

ＯＰＥＮボタンを押すと自動で開きます。
●閉めるときはＣＬＯＳＥボタンを押すと自動で閉まります。
●ボタンを使用せずに手で開閉することもできます。

コンソールボックス全体をスライドさせることができます。
●カップホルダー（Ｐ.312参照）のフタを押して開け、内側にあるスライドレバーを引いてスライドさせます。
●操作後、コンソールボックスが確実に固定されていることを確認します。

警告　コンソールボックスのフタを開けたまま走行しないでください。

●コンソールボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●コンソールボックスをロックしないまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにコンソールボックスが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

スライドさせたときは、確実にロックさせてください。最後部の位置ではロックができませんので、運転席と助手席間の移動に使用するとき以外は最後部へのスライドはしないでください。

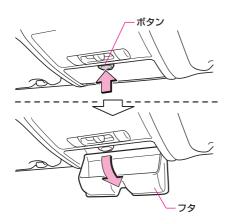
知 識

コンソールボックス内の小物入れについて

コンソールボックス内に小物入れがあります。
●取りはずすこともできます。
●もどすときは、コンソールボックス内側の壁面とすき間が空かないように押し込んでください。

便利機能について

コンソールボックスランプ
ランプスイッチがＯＮのときに点灯します。

オーバーヘッドコンソール

ボタンを押すと開きます。

●閉めるときは“カチッ”と音がするまでフタを押し込み確実に閉めます。

●使用しないときはフタを閉めておいてください。

⚠ 警告

●オーバーヘッドコンソールのフタを開けたまま走行しないでください。走行中に中のものが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●メガネやライターを放置したまま、車から離れないでください。
オーバーヘッドコンソール内に放置したままにしておくと、ライターが爆発したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

カーゴフック

ラゲージルームに備え付けられています。

●市販のネットやロープを併用して、荷物を固定することができます。

⚠ 注意

●フックを使用しないときは、格納しておいてください。指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

●カーゴフックを出した状態で、リヤデッキボード（P.329参照）を閉めないでください。カーゴフックと干渉して破損するおそれがあります。

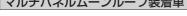
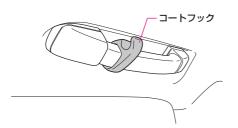
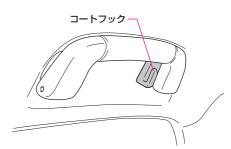
知識

カーゴフックについて

積荷の固定用としてご使用ください。

●フックは4か所あります。

コートフック

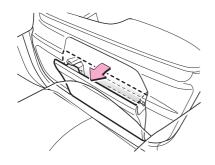
マルチパネルムーンルーフ装着車

マルチパネルムーンルーフ装着車を除く

後席のアシストグリップにあります。

	ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車では、コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。 ＳＲＳカーテンシールドエアバッグが展開したときに飛ばされて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

	とくに重いものや大きなものをフックにかけないでください（最大荷重約2kg）。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

ドアポケット

■フロントドア

使用するときは、手前に引きます。

小物入れ★

■リヤシートアームレスト

使用するときは、アームレストを倒し、レバーを引いてフタを開けます。

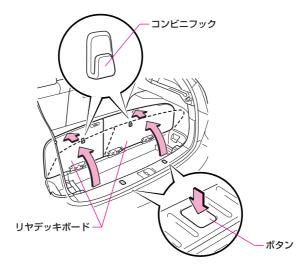
●閉めるときは“カチッ”と音がするまでフタを押し込み確実に閉めます。

●使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●アームレストを格納するときは、フタを確実に閉めてください。

⚠警告

小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

コンビニフック

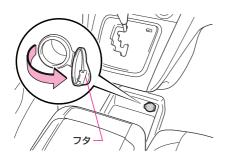
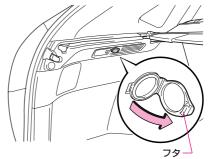
買い物袋などを吊り下げておくことができます。

- ボタンを押して、リヤデッキボードを開けます。
- リヤデッキボードを前側に“カチッ”と音がするまで押し、リヤデッキボードを固定して使用します。
- 閉めるときは、リヤデッキボードを“カチッ”と音がするまで押さえて確実に閉めます。
- コンビニフックを使用しないときは、リヤデッキボードを閉めておいてください。

とくに重いものや大きなものをフックにかけないでください（最大荷重約2kg）。フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アクセサリーソケット

■フロント

■リヤ

車内で電化製品を使用することのできるソケットです。
●フタを開けて使用します。

注意

アクセサリーソケットを使わないときは、フタを閉めておいてください。

●アクセサリーソケットを使わないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水等がかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
●エンジンが停止した状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。
また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。

知 識

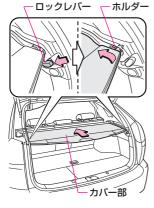
作動条件について

エンジン スイッチが“ＡＣＣ”または“ＯＮ”のとき使用できます。

アクセサリーソケットについて

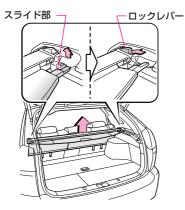
●使用する電化製品は、必ずＤＣ12Ｖで最大電流10Ａ（最大消費電力120W）以下の電化製品を使用してください。
●規定容量をこえる電化製品を使用すると、車両ヒューズが切れることがあります。

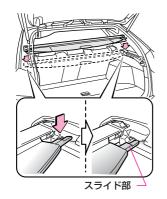
トノカバー

脱着のしかた

■取りはずし方

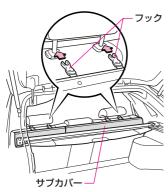
1 カバー部をホルダーからはずします。

バックドア連動巻き取り機能を禁止している場合は、ロックレバーを押してカバー部を左右のホルダーからはずし、トノカバー本体に格納します。
（P.327参照）

2 サブカバーのフックをヘッドレストから取りはずします。

3 トノカバー本体を取りはずします。

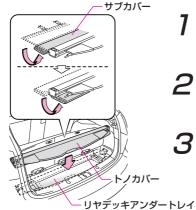
トノカバー本体のスライド部をはずし、ロックレバーを解除します。ロックレバーを解除したまま、トノカバー全体を持ち上げて取りはずします。

■取り付け方

1 **トノカバー本体を取り付けます。**

トノカバー本体両側およびスライド部を、車両の取り付け部に取り付けます。

2 **サブカバーのフックをヘッドレストに取り付けます。**

3 **カバー部を引き出します。**

カバー部を引き出して、先端にあるホルダー（左右2か所）にはめ込みます。

格納のしかた

1 **トノカバーを取りはずします。**
(前ページ参照)

2 **リヤデッキボードを開けます。**
(P.329参照)

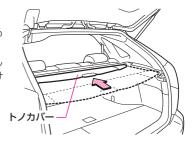
3 **サブカバーを巻き込み、リヤデッキアンダートレイに格納します。**

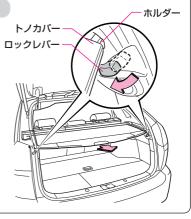
トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまを乗せたりしないでください。

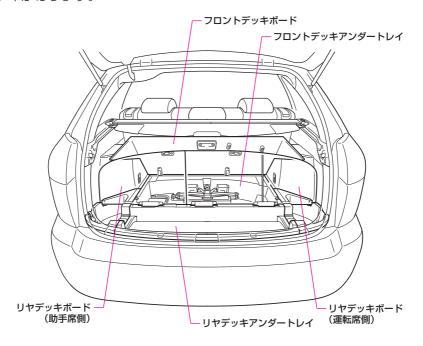
- トノカバーの上に荷物を置いたり、お子さまを乗せたりしないでください。トノカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーのまわりの部品の間に指や腕などを入れないように注意してください。指や腕などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- トノカバーを取り付けるときは、“カチッ”と音がして確実に固定されたことを確認してください。トノカバーが確実に固定されていないと、走行中トノカバーがはずれ、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

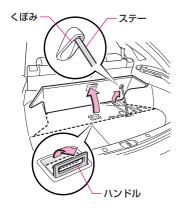
知識

バックドア連動巻き取り機能について

トノカバーを引き出した状態でバックドアを開けると、自動でトノカバーが巻き取られます。
バックドアを閉めるときは、トノカバーを引き出して、トノカバーを左右のホルダーへ確実に取り付けてください。

バックドア連動巻き取り機能の解除について

トノカバーを引き出して、左右のホルダーに取り付け、トノカバーを少し引きながら左右のロックレバーを押します。
バックドア連動巻き取り機能を可能にする場合は、トノカバーを少し引きながら左右のロックレバーを押し、ホルダーを確認します。

デッキアンダートレイ

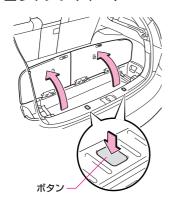
デッキボードの下には、小物などを収納することができるデッキアンダートレイがあります。

デッキボードの開け方

■フロントデッキボード

1　フロントデッキボードを持ち上げます。

ハンドルを握って、デッキボードを持ち上げます。

2　フロントデッキボードを固定します。

フロントデッキアンダートレイ内にあるステーを起こして、先端部をくぼみにかけて固定します。

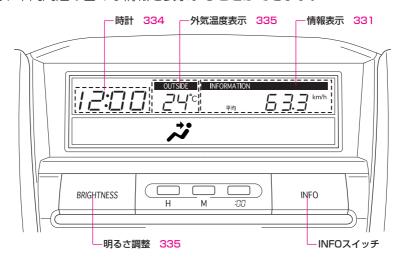
■リヤデッキボード

ボタンを押すと自動でリヤデッキボードが開きます。

閉めるときは“カチッ”と音がするまでボードを押し込んで確実に閉めます。

警告：デッキボードを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意：カーゴフック（P.320参照）を出した状態で、リヤデッキボードを閉めないでください。カーゴフックと干渉して破損するおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイ★

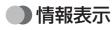
車両や車両周辺の色々な情報を表示することができます。

運転者は走行中に操作しないでください。操作に気を取られて思わぬ事故の原因となります。操作は停車してから行うか、助手席の同乗者が行うようにしてください。

表示について

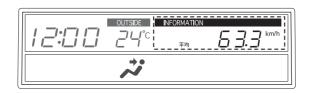
●エンジン スイッチが“ ACC ”のとき時計が表示されます。
●エンジン スイッチが“ ON ”のとき情報表示、外気温度および時計が表示されます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

情報表示

INFOスイッチを押すたびに、表示が次のように切りかわります。

■平均車速

ディスプレイにエンジン始動後の平均車速を表示します。表示は約10秒ごとに更新されます。

●リセット

- ・エンジンを停止し、再びエンジンを始動して走行すると、平均車速はリセットされます。
- ・INFOスイッチを1秒以上押すと、平均車速はリセットされます。

知識

平均車速について

平均車速は、計測中の停車時間なども入れて計算されます。

■平均燃費

ディスプレイに給油後の平均燃費を表示します。表示は約10秒ごとに更新されます。

●リセット

燃料を10L以上給油後走行すると、平均燃費はリセットされて「0.0km/l」が表示されます。

■瞬間燃費

エンジンを始動して、走行を開始してからの瞬間燃費を約2秒ごとに更新して表示します。

●停車しているときは、「0.0km/l」が表示されます。

■走行距離

ディスプレイにエンジン始動後の走行距離を表示します。

●リセット

・エンジンを始動し、走行を開始すると走行距離はリセットされます。

・INFOスイッチを約1秒以上押すと、走行距離はリセットされて「0.0km」が表示されます。

■航続可能距離

ディスプレイに航続可能距離を表示します。

知 識

航続可能距離表示について

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■走行時間計

ディスプレイにエンジン始動後の走行時間を表示します。

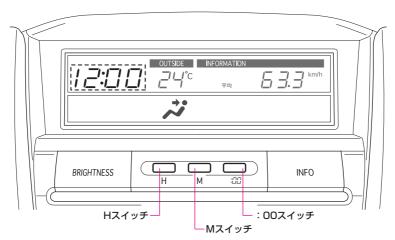
●リセット

エンジンを停止すると、走行時間計はリセットされます。

走行時間計について

「11：59」（11時間59分）まで表示します。
「11：59」をこえて表示する場合、「0：00」にもどり作動が継続されます。

時計

メーカーオプションのＨＤＤナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

■“時”“分”を調整するときは

Hスイッチを押すと“時”、Mスイッチを押すと“分”を調整できます。

●スイッチを押し続けると早送りされます。

■時報に合わせるときは

時報と同時に：00スイッチを押すと、時報に合わせることができます。

●0～29分は切り下げられます。

●30～59分は切り上げられます。

（例）１：00～１：29の場合は1：00に、１：30～１：59の場合は2：00になります。

 知識

時計の表示について

秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。

●Mスイッチを押して分を調整後、Mスイッチから手を離したとき

●：00スイッチを押したとき

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

外気温度

ディスプレイに外気温度を表示します。

知 識

外気温度表示について

●他の計測装置により計測した外気温度とは異なることがあります。
●次の場合は正しい外気温を表示しない場合があります。
・外気温が約－30℃以下または約50℃以上のとき
・停車しているときや低速走行（約20km/h以下）しているとき
・外気温度が急激に変化したとき（トンネルの出入口付近など）
●実際の外気温度が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。

明るさ調整

BRIGHTNESSスイッチを押すと、明るさが1段階下がります。
●明るさは4段階に調整できます。

知 識

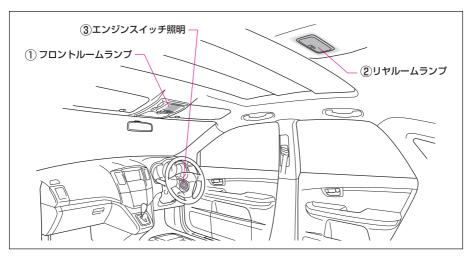
作動条件について

エンジン スイッチが“ ＡＣＣ ”または“ ＯＮ ”のとき表示されます。

イルミネーテッドエントリーシステム※

イルミネーテッドエントリーシステムについて

ドアの施錠・解錠や、ドアの開閉、エンジン スイッチの位置などの状態に従って、各部の照明が自動的に点灯・消灯するシステムです。

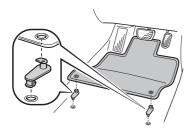
※この機能を変更することができます。詳しくは、P.436の「ユーザーカスタマイズ」を参照してください。

①フロントルームランプ（スイッチがＤＯＯＲのとき）
②リヤルームランプ（スイッチがＤＯＯＲのとき）
③エンジンスイッチ照明

作動のしかた

下記の作動は、条件がひとつしか成立しない場合の例です。実際には、いくつかの条件が同時に成立することにより、下記の作動と異なる場合があります。

		フロントルームランプ リヤルームランプ エンジンスイッチ照明
ドアロック	いずれかを解錠したとき	消灯→約15秒間点灯
	すべてを施錠したとき	点灯→消灯
ドア	いずれかを開けたとき	消灯→点灯
	すべてを閉めたとき	点灯→約15秒後に消灯
エンジンスイッチの位置	“LOCK”→“ACC”にしたとき	点灯→消灯
	“ACC”→“LOCK”にしたとき	消灯→約15秒間点灯

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。

運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。
- ・トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- ・運転席専用のフロアマットを使用してください。
- ・付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- ・他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- ・フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。
- ・フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- ・エンジン停止およびシフトレバーがⓅの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

安全・快適装備の解説と注意

5

ＳＲＳエアバッグ…………… 340
ＳＲＳエアバッグとは　340
ＳＲＳエアバッグ作動のしくみ　342
ＳＲＳエアバッグが作動するとき　343
シートベルト関係…………… 354
シートベルトの働き　354
ディスチャージヘッドランプ…………… 356
ディスチャージヘッドランプとは　356
レインクリアリングミラー…………… 357
レインクリアリングミラーとは　357
撥水機能付ガラス…………… 359
撥水機能付ガラスとは　359
盗難防止システム…………… 360
エンジンイモビライザーシステム　360
オートアラーム（盗難警報システム）　362
ＡＢＳ、ブレーキアシスト… 363
ＡＢＳ、ブレーキアシストとは　363
ＡＢＳやブレーキアシストが作動しているとき　365
ＥＢＤの働き　366
フルタイム4WD…………… 367
フルタイム4WDとは　367
トランスミッション……… 368
Super ＥＣＴとは　368
インテリジェント ＡＦＳ… 369
インテリジェントＡＦＳとは　369

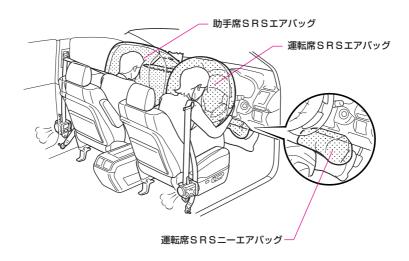
ＳＲＳ※エアバッグ

ＳＲＳエアバッグとは

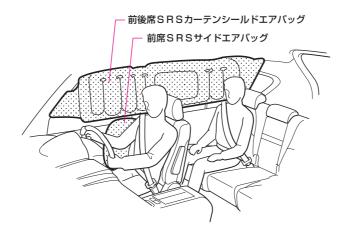
ＳＲＳエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、ＳＲＳエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。
また、正しく取り扱えば効果のあるＳＲＳエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

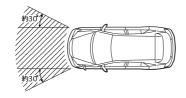
デュアル（運転席・助手席）ＳＲＳエアバッグ ＆ 運転席ＳＲＳニーエアバッグ

デュアル（運転席・助手席）ＳＲＳエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散、緩和させる働きをするものです。
運転席ＳＲＳニーエアバッグは、運転者の挙動の適正化により、乗員の衝撃緩和を補助するものです。

※ SRSは、Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。

前席ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ 前後席ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ ★

ＳＲＳサイドエアバッグは、フロントシートの乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両客室部に側方から受けたときに衝撃を受けた側のＳＲＳサイドエアバッグがふくらみ、シートベルトが体を拘束する動きと併せてフロントシート乗員の胸などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは、フロントシートおよびリヤシート左右席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を、車両客室部に側面方向から受けたときに、衝撃を受けた側のＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて、おもにフロントシートおよびリヤシート左右席の乗員の頭部に作用する衝撃力を分散、緩和させる働きをするものです。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくてもふくらみます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

デュアルSRSエアバッグ ＆ 運転席SRSニーエアバッグの作動

車両前方左右約30゜以内の方向から、乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃は車両前方・車両中央床部に取り付けられたセンサーで感知し、SRSエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、SRSエアバッグが作動します。

車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感知できなくなり、SRSエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

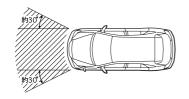
前席SRSサイドエアバッグ ＆ 前後席SRSカーテンシールドエアバッグの作動 ★

車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
衝撃はセンターピラー・リヤクォーターピラー下部に取り付けられたセンサーで感知し、SRSエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、SRSエアバッグが作動します。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

ＳＲＳエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、重大な傷害を受けるおそれのない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合

ＳＲＳエアバッグおよびＳＲＳニーエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。
ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグは車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

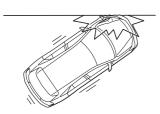
作動しにくい場合

■ＳＲＳエアバッグ・ＳＲＳニーエアバッグ
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

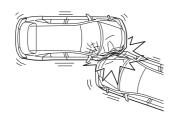
●衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下の場合

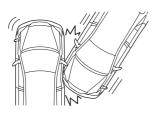
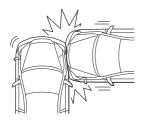
●衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合

次のような場合にも衝突による衝撃がゆるめられるため、作動しない場合があります。

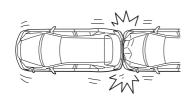
●トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合

●斜め前方から衝撃を受けた場合

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、作動する車速は高くなります。

●例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。

●衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

■ＳＲＳサイドエアバッグ・ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ★
次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合

●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合

本来の効果を発揮しない場合

次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合
（ＳＲＳエアバッグ・ＳＲＳニーエアバッグ）

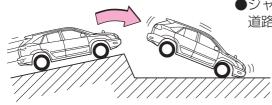
●車両が横転・転覆した場合

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

車両下部に衝撃を受けた場合

次のような車両下部に強い衝撃を受けた場合には、作動する場合があります。

●縁石などにぶつかった場合

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合

⚠ 警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●ＳＲＳエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトにかわるものではありません。

乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にＳＲＳエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.172をお読みください。

・シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中を付けた正しい姿勢でシートに座ってください。ＳＲＳエアバッグに近付きすぎた姿勢で乗車していると、ＳＲＳエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

<運転者の方は>

運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近付きすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員の方は>

助手席ＳＲＳエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。

シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。

シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.152をお読みください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、ドアにもたれかかったり、フロント・リヤピラーやルーフサイド部に近付かないようにしてください。ＳＲＳサイドエアバッグおよびＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

・ひざの上にものをかかえるなど、乗員とＳＲＳエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。ＳＲＳエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされたり、ＳＲＳエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で、生命にかかわる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。

・シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートなどの子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。

・助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取り付けないでください。
助手席ＳＲＳエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。（P.47参照）
なお、やむを得ず前向きで助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取り付けてください。

・お子さまを助手席ＳＲＳエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態では走行しないでください。

目次
警告
基本操作
早わかり
運転装置の
取り扱い
室内装備の
取り扱い
安全・快適装備
の解説と注意
車との上手な
付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

●車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

・ＳＲＳエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取り付け・分解・修理などをしないでください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントシートの表皮の張りかえやフロントシートの取りはずし・取り付け・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロント・リヤピラー、ルーフサイド部の取りはずし・取り付けなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

・サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

・車両前部または車両客室部の不適切な修理をしないでください。不適切な修理を行うと、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなります。

警告 **ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。**

●カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ＳＲＳエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。

・インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。

・キーに重いもの・とがったもの・硬いものを付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだとき飛ばされて危険です。

・インストルメントパネル下部のＳＲＳニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。ＳＲＳニーエアバッグがふくらんだとき飛ばされて危険です。

警告　ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取り付けないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがＳＲＳサイドエアバッグ展開部をおおうと、ＳＲＳサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

・ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取り付けないでください。ＳＲＳサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

・ＳＲＳサイドエアバッグ ＆ ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ装着車は、フロントウインドゥガラス、ドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどＳＲＳカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイクなどを取り付けないでください。ＳＲＳカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。

ＳＲＳエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

・無線機の電波などは、ＳＲＳエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、トヨタ販売店にご相談ください。

・車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、ＳＲＳエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、ＳＲＳエアバッグの誤作動につながります。

●ステアリングパッド、インストルメントパネル上部（助手席）および下部（運転席）、フロントピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などＳＲＳエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
ＳＲＳエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグがふくらんだ直後は、ＳＲＳエアバッグ構成部品にふれないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●ＳＲＳエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、ＳＲＳエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。

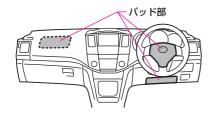
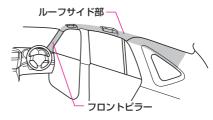
●ＳＲＳエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。
この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出られない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。
また、ＳＲＳエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方は、まれに皮膚を刺激する場合があります。

●衝突したときなどに、助手席ＳＲＳエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドゥガラスが破損することがあります。

注意　ＳＲＳエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

●一度作動したＳＲＳエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でＳＲＳエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではＳＲＳエアバッグは作動しません。

●車やＳＲＳエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
ＳＲＳエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。

●ＳＲＳエアバッグが収納されているパッド部、およびフロントピラー、ルーフサイド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにＳＲＳエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●エンジン停止時およびＳＲＳエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してから、エンジンスイッチを一度“ＬＯＣＫ”にもどします。

シートベルト関係

シートベルトの働き

プリテンショナー ＆ フォースリミッター付シートベルトの働き

フロントシートベルト

●プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
●フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構

【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構

【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

ＥＬＲ機構付シートベルトの働き

シートベルトは体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

テンションリデューサー（ベルト圧迫感減少装置）機構付シートベルトの働き

運転席シートベルト

シートベルト着用時にベルトによる肩への圧迫感を減少させます。

警告　プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

●プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・シートベルトを正しく着用する（P.172参照）
・シートを正しい運転姿勢のとれる位置に調整する（P.152参照）
●プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

注意　車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
●プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。

知識

プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。
●コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき

なお､次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。
●側面や後方から衝撃を受けたとき
●車両が横転、転覆したとき

作動後について

プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

ディスチャージヘッドランプ

ディスチャージヘッドランプとは

ディスチャージヘッドランプは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。

ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

知識

ヘッドランプオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

●加減速時や荷物の積み降ろし時などの車両姿勢の変化に関係なく、ヘッドランプの光軸を自動的に調整する装置です。
●エンジンを始動してはじめてヘッドランプを点灯したとき、ヘッドランプの光軸が動くことがありますが、これはシステムの正常な作動をチェックしているときの現象で異常ではありません。

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯について

ヘッドランプオートレベリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると、ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯が点灯します。詳しくはP.231を参照してください。

システムの異常について

システムの異常により、点灯状態が次のようになります。
●点灯中に作動電圧範囲からはずれた場合は消灯し、電圧が正常に復帰次第、再点灯します。
●点灯操作をするときに作動電圧範囲からはずれている場合は、ランプスイッチを操作してください。

レインクリアリングミラー

レインクリアリングミラーとは

ドアミラーの鏡面には親水膜のコーティングがしてあり、雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくします。

レインクリアリングミラー	普通のドアミラー

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

●ミラーヒーター装着車は、ミラーヒーターを作動させると、水膜が晴れ、よりクリアな視界が得られます。ミラーヒーターの操作については、P.198をお読みください。
●通常の手入れは水洗いをするだけで十分です。
●霧雨や小雨などの少量の水滴に対しては親水効果が低下します。
●次の場合、一時的に親水効果が失われますが、徐々に回復します。
・ミラーの汚れを拭き取ったとき
・ミラーが曇ったとき
・自動洗車機でワックス洗車をしたとき
・長期間、地下駐車場など日のあたらない場所に駐車していたとき
●回復時間は、汚れの量や種類にもよりますが、晴天時に太陽光を1・2日間当てると回復します。親水効果を早く回復させたいときは、鏡面を中性洗剤（シリコーン、研磨剤を含まないもの）で洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・研磨剤が入っているものもありますので、成分表をよくお読みください）

親水効果を持続させるため、またドアミラーの傷付きを防止するため、次の注意事項を必ず守ってください。

●撥水剤（シリコーン入りのスプレー・溶剤など）・油膜取り剤（コンパウンド入りのスプレー・溶剤など）は使用しないでください。また、ドアガラスやボディに撥水剤・油膜取り剤・ワックスを使用するときは、ドアミラーの鏡面をタオルなどでおおい、ドアミラーに付着しないようにしてください。万一付着したときは、カーシャンプーやガラスクリーナーなどで洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください）

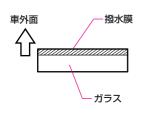
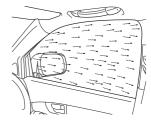
●親水膜の効果を持続させるため、ドアミラーが凍結したときは、プラスチックの板などで削り落とさずに、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして、解氷してください。

●ドアミラーの汚れを拭き取るときは、きれいなタオルで拭き取ってください。

撥水機能付ガラス

撥水機能付ガラスとは

フロントドアガラスには、撥水膜のコーティングがしてあり、フロントドアガラスに付いた雨水などをはじき、雨天時の視界を良くします。また、ドアミラーも見やすくなり、後方視界も良くなります。

断面構造	普通ガラス	撥水ガラス

※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

⚠注意　水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の注意事項を必ず守ってください。

●フロントドアガラスが汚れているときは、なるべく早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
●ガラスの泥などの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、フロントドアガラスの開閉を行ってください。
●撥水機能付ガラスを清掃するときは、コンパウンド（みがき粉）の入ったガラスクリーナーやワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナー使用時に白曇りする場合は、湿った布で拭き取ってください。
●自動洗車機を使用するときは、フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
●金属製のもので霜取りなどをしないでください。
●撥水機能付ガラスは消耗品です。水滴のはじきが悪くなったときは、補修することができます。また、コーティングを除去することもできます。詳しくは、トヨタ販売店におたずねください。

盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステム

車両の盗難防止のために、キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

●キーに登録された信号は車ごとに異なります。
●キーをエンジン スイッチから抜くと、システムが作動し、セキュリティ表示灯（P.225参照）が点滅します。
●登録されたキーをエンジン スイッチに挿し込むとシステムが解除されます。
●車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

盗難防止システムの故障を防ぐために次のことをお守りください。

●キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。
・キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
・ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
・磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
・キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。
●エンジンイモビライザーシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

注意 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。

●キーグリップに金属製のリングを乗せたままのとき

●キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき

●キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と重なっているとき

●キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき

●キーグリップに金属製のものが接しているとき

知識

メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

盗難防止システムのキーについて

キーは、マスターキーは最大5枚、サブキーは最大3枚まで使用することができます。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

オートアラーム（盗難警報システム）

車両が通常の方法（ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ）以外で解錠されたときなどに音と光で警報します。

また、警報中にいずれかのドアが解錠された場合、強制的に施錠を行い車内への侵入を防ぎます。
オートアラームのセットのしかたは、P.148の「オートアラーム（盗難警報システム）の使い方」をご覧ください。

オートアラームシステムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

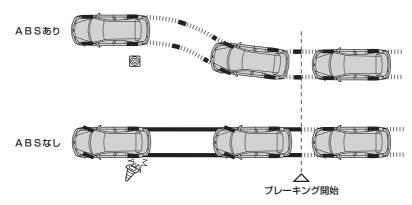
メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

ＡＢＳ※、ブレーキアシスト

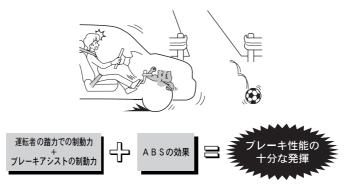
ＡＢＳ、ブレーキアシストとは

ＡＢＳの働き

ＡＢＳは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことにより、スリップを抑制します。

ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、

●緊急制動時の運転に不慣れな運転者が緊急制動するとき
●緊急制動時にパニック状態に陥ったとき
●定員乗車で坂道をくだるとき

などのブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合に運転者のペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。

※ ＡＢＳは、Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ＡＢＳ、ブレーキアシストについて

ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。また、ＡＢＳやブレーキアシストは、車輪に取り付けられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。
詳しくは、Ｐ.70の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

ABSやブレーキアシストが作動しているとき

運転について

●急ブレーキ時は、ABSやブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ速く、強く踏み続けることが必要です。

●急ブレーキ時にポンピングブレーキ※をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

※ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。

思いきり踏む

踏み続ける

ゆるめたり、ポンピングはしない

作動について

ABSが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ABSの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

●ABSの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。

ＥＢＤ※1の働き

ＡＢＳの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、４輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。

警告　ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。

●**ＡＢＳやブレーキアシストを過信しないでください。**
ＡＢＳやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ＡＢＳやブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
・ＡＢＳはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象※2が起こった場合は、効果を発揮できません。
※2 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

●**ＡＢＳは制動距離を短くするための装置ではありません。**
次の場合などは、ＡＢＳの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分に取ってください。
・砂利道、新雪路を走行しているとき
・タイヤチェーンを装着しているとき
・道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき
・凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき

●**ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。**
車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

知 識

作動条件について

●ＡＢＳ、ブレーキアシストは、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
●雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、ＡＢＳが作動しやすくなります。

作動音について

エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジンルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、ＡＢＳの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。

※1 ＥＢＤは、Electronic Brake force Distributionの略で「電子制動力配分制御」の意味。

フルタイム4WD ★

フルタイム4WDとは

フルタイム4WDの働き

フルタイム4WDは、常に駆動力を自動的に全輪に与え、安定した操縦性に寄与する装置です。

●フルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.65の「4WD車についての注意」に記載されていますので、よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転を心がけるようにしましょう。

タイヤについて

フルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.70の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

⚠警告　宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

●脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼き付きなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
・4輪の空気圧の差が著しいとき
・空気圧が指定値からはずれているとき

●タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤローテーションを行ってください。（P.396参照）

●ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.434参照）

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

トランスミッション

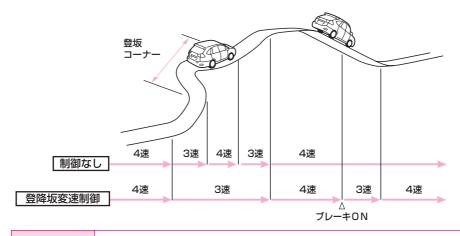
Super ECTとは

Super ECTは、フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

フレックスロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。
フレックスロックアップシステムを有効にご使用いただくためには、シフトレバーがⒹまたはⓈの4レンジのとき自動的に作動します。

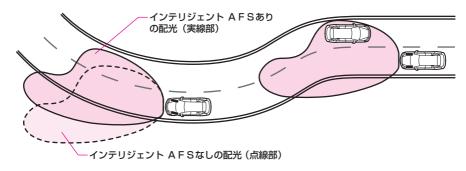
登降坂変速制御システムの働き

●登坂路では変速回数を減らし、滑らかに走行することができます。
・例えば、4速で走行しているときに、登坂していると判断されたときは、3速にシフトダウンしたあと4速へのひんぱんなシフトアップを防止します。
●降坂路ではシフトダウンにより、エンジンブレーキを積極的に利用し、フットブレーキの負担を軽減します。
・例えば、4速で走行しているときに、降坂していると判断されたときは、ブレーキを踏むと自動的に3速にシフトダウンします。

	走行中、エンジン警告灯（P.230参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

インテリジェント ＡＦＳ※

インテリジェント ＡＦＳとは

インテリジェント ＡＦＳ装着車

インテリジェント ＡＦＳ（アダプティブ　フロントライティング　システム）は、さまざまな走行状態に応じて、最適な配光を確保する装置です。
ヘッドランプ（下向き）点灯時、車速およびハンドルの操作量に応じてランプを旋回方向に動かして、交差点やカーブでの視認性を向上させることができます。

イラストはイメージで表したもので、実際のものとは異なります。

雪壁などのある道では、インテリジェント ＡＦＳを使用しないでください。雪の斜面などにヘッドランプが反射して運転のさまたげになり、思わぬ事故につながる可能性があります。

※ ＡＦＳは、Adaptive Front-lighting System の略。

知 識

作動条件について

●車速が約30km/h以上で作動開始となり、車速が約5km/h以下になると作動は停止します。
●左旋回時は、最大5°まで照射軸が左へ移動します。（助手席側ヘッドランプのみ）
●右旋回時は、最大15°まで照射軸が右へ移動します。（運転席側ヘッドランプのみ）
●ＡＦＳ ＯＦＦ表示灯が点滅（P.225参照）しているとき、インテリジェント ＡＦＳは作動しません。

作動チェックについて

エンジン スイッチを“ ＯＮ ”にすると、ヘッドランプ（下向き）が動きます。これはシステムの作動をチェックしているので異常ではありません。

ＡＦＳ ＯＦＦスイッチについて

ＡＦＳ ＯＦＦスイッチで作動を禁止することもできます。（P.253参照）

6

車との上手な付き合い方

雨の日の運転について…………………… 372
雨の日の運転　372
寒冷時の取り扱い………………………… 373
冬の前の準備、点検　373
運転する前に　375
走行するときは　377
駐車するときは　380
経済的な運転……………………………… 382
環境に配慮した経済的な運転をするために　382
環境保護のために………………………… 385
使用済み部品、廃オイル類は適正な処理をする　385

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので慎重に走行してください。
- ●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- ●雨の日はハイドロプレーニング現象※でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

※雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

警告 **すべりやすい路面では、慎重に運転してください。**

- ●すべりやすい路面での急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。

警告

冠水した道路を走行するとエンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン、トランスミッション、トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化（白濁している場合、水が混入していますのでオイルの交換が必要です）
- ●プロペラシャフト（4WD車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備、点検

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。
（P.433の「指定エンジンオイル」参照）

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	−12℃
寒冷地	50%	−35℃

アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量、比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量、比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

- 積雪路、凍結路では冬用タイヤを装着し、併せてタイヤチェーンをご用意ください。冬用タイヤの装着サイズについては、必ず標準タイヤと同じ指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- タイヤを取りかえるときは、必ずP.70の「タイヤについての注意」をお読みください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

寒冷地用ワイパーブレードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時季は、通常のワイパーブレードを使用してください。

屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

ガラスに付いた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使用すると、ガラスを傷付けずに落とすことができます。

フロントウインドゥガラスに付いた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウインドゥガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

ランプ類に付いた雪や霜は

ランプ類に付いた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわかりにくくなるおそれがあります。また、走行中にも安全な場所に停車したうえでときどき点検してください。

足まわりなどに付いた氷塊は

車体などに傷を付けないように取り除いてください。

外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドゥガラス前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。
雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。
スイッチを押し続けたりすると、装置を傷めたり、バッテリーあがりを起こすおそれがあります。

ドアが凍結したときは

お湯をかけて氷を解かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。
無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

靴に付いた雪をよく落とす

ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”の付く操作はしない

急発進、急ハンドル、急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。
橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。

警告
シフトアップ、シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側に付いた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置に付いた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。
ときどき軽くブレーキペダルを踏んで、ブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。タイヤを取りかえるときは、必ずP.70の「タイヤについての注意」をお読みください。

警告　**冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。**

- ●指定サイズのタイヤを使用してください。
- ●指定空気圧に調整してください。
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

タイヤチェーン

●タイヤチェーンは前2輪に取り付けてください。
●タイヤチェーンの取り扱い方法は、タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従ってください。
●タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを使用してください。
●トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取り付ける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。

シフトレバーを Ⓟ にし、エンジンを停止します。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを用意します。（P.440の「ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。

5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取り付ける場合には、輪止めが必要です。
●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。
●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

●タイヤチェーン装着時は、約30km/hまたはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため、必ず慎重に走行してください。
●タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ＡＢＳ作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

タイヤチェーンを取り付けるときは、ホイールやセンターオーナメントに傷を付けないよう注意してください。

●アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。
●トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは
パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをⓅにし、輪止めをします。

■やむを得ず坂道に駐車するときは
下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをⓅにします。
- 輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ボンネット側を風下に向ける

風のあたる部分は想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側をできるだけ風下に向けて駐車してください。

ワイパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍り付いたりします。ワイパーアームは立てて駐車してください。

●ワイパーアームを立てるときは、運転席側を先に立てたあとに助手席側を立ててください。助手席側を先に立てると運転席側を立てるときにワイパーアームが干渉します。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

経済的な運転

環境に配慮した経済的な運転をするために

長時間停車するときはエンジンを停止します。
5分間のアイドリングを止めて、ガソリン約65ccの節約。
▶CO_2 約420g削減（10回／月）

不要な荷物は降ろして走行。
10kgの荷物を降ろして50km走るとガソリン約15ccの節約。
▶CO_2 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。
空ぶかしを1回やめてガソリン約6ccの節約。
▶CO_2 約1150g削減（300回／月）

カーエアコンは少し控えめに。
エアコンを6分停止してガソリン約70ccの節約。
▶CO_2 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧はこまめにチェック。
適正値で50km走ると50kPa ｛0.5kg/cm^2｝ 減のときに比べてガソリン約150ccの節約。
▶CO_2 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。
急発進1回止めてガソリン約17cc、急加速1回止めて約11ccの節約。
▶CO_2 約360g削減（各20回／月）

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

経済速度でロスなし走行。
一般道路で40〜50km/h、高速道路では80km/hがベスト。
100km/hを80km/hにして燃費が約10〜30%向上。
●法定速度を守り、安全運転に心がけてください。

たとえば加速
加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。
シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

たとえば下り坂、減速
早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。
ガソリンエンジンでは燃料噴射の停止により燃費が良くなります。

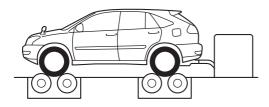
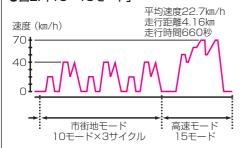
平地走行でも
アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。
思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど低燃費となります。

知識

「10・15モード」とは

車両カタログに記載されている「10・15モード」燃費は、一定の条件に従って測定された燃費です。

このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャシーダイナモメーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

●図1.シャシーダイナモメーター

●図2.「10・15モード」

「10・15モード」は、都市内走行状態を再現したものですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、
例えば
●走行速度の平均が「10・15モード」より低い
●停車比率（運転中に車が止まっている割合）が高い
●急な加速を行った
など条件の違いにより燃費が悪くなります。

＊ 数値は、2.0Ｌクラスの乗用車（オートマチック車）の燃費11.7km/Ｌ（10・15モード）を基準に計算してあります。（各車両型式の燃費は、車両カタログをお読みください）
＊ CO_2排出量は、ガソリン1ＬあたりのCO2排出係数0.64で計算してあります。

参考資料　●(社)日本自動車工業会：「あしたへ　ECO-MOTION」
●(社)日本自動車連盟：「ECO MANUAL 車に関する環境エコ基礎知識集」

環境保護のために

使用済み部品、廃オイル類は適正な処理をする

●バッテリーは鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務付けられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。

●タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●エンジンオイルは放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。

●不凍液は冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと水質汚濁の原因になりますので、不凍液の交換はトヨタ販売店にご相談ください。

●エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスＣＦＣ12）は、大気に放出されるとオゾン層の破壊を進めます。
トヨタではオゾン層を破壊しない代替フロンガス（ＨＦＣ134a）に全車切りかえを完了しています（93年完）。
それでも、代替フロンガス（ＨＦＣ134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえでガス充填をしてください。

7 メンテナンス

車の手入れ……………………………… 388

日頃の手入れ 388
外装の手入れ 389
内装の手入れ 391
エアコンの手入れ 393
タイヤローテーション 396
ワイヤレスドアロック
　リモコンの電池交換 397
ヒューズの点検、交換 399
外装の電球（バルブ）交換 405

日常点検……………………………… 414

日常点検について 414
エンジンルームの点検 415
車のまわりの点検 421
運転席に座っての点検 424
走行しての点検 426

メンテナンスデータ…………………… 428

メンテナンスデータ 428

ユーザーカスタマイズ………………… 436

ユーザーカスタマイズ一覧 436

初期設定が必要な機能………………… 438

初期設定について 438

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

洗車、ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

月に一度はワックスがけを行ってください

月に一度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

●塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
- ・海岸地帯を走行したあと
- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら、汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは水を拭き取ります。

●車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
●車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
●汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
●はん点が残らないように水を拭き取ります。

自動洗車機を使用するときは

●ドアミラーを格納し、アンテナは取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
●ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

高圧洗車機を使用するときは

●ノズルの先端をドアガラスなどに近付けすぎないでください。水圧が高いため、近付けすぎると室内に水が入るおそれがあります。
●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリース流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。
●光沢を失うおそれがありますので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

ワックスがけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください）に行います。

撥水機能付ガラス・レインクリアリングミラーについて

手入れについてはP.359の「撥水機能付ガラス」、P.357の「レインクリアリングミラー」の注意事項を必ず守ってください。

⚠警告　エンジンルーム内に水をかけないでください。

●エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
●寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。
ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
●洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。
ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠注意　洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

●下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
●洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷が付きます。
●フューエルリッド（燃料補給口）を開けた状態で、給油口付近に水をかけないでください。
●ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどで擦ったりしないでください。破損したり、劣化を早めることがあります。
●目地のある素地部※に塗装用ワックスを使用しないでください。塗装用ワックスが付着すると、目地に入って取れなくなり、白くなることがあります。
※素地部＝塗装されていないバンパー・ドアミラーなどの樹脂部分。

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。

警告　車内に水をかけないでください。

- 車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドゥガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意　クリーナーに含まれる成分に注意してください。

- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接ふれさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。
  含まれる成分によっては変色やしみ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。
- リヤウインドゥガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- リヤウインドゥガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
- ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は、湿った布で線にそって拭いてください。ガラスクリーナーなどはアンテナを傷めますので使用しないでください。
- 内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

本革シートの取り扱い・お手入れ方法★

■砂・ほこりなどは、掃除機などで吸い取ってください。
シート表面に付いた砂・ほこりなどは、皮革表面の保護膜を傷付け、早期摩耗の原因となります。砂・ほこりなどは、掃除機などで吸い取ってください。

■サンシェード（日除け）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。
皮革を炎天下に長期間さらすと、色あせや硬化の原因となります。長期間炎天下に車を放置するときはボディにおおいをかけたり、サンシェード（日除け）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。

■シート表面に付いた汚れは、次の方法で取り除いてください。

1 汚れを軽く拭き取ります。

ウール用の中性または弱アルカリ性の洗剤を約5%の水溶液まで薄め、ガーゼなどのやわらかい布に含ませて、汚れを軽く拭き取ります。

2 洗剤を拭き取ります。

真水をひたした布を固くしぼり、シート表面に残った洗剤を拭き取ります。

3 日陰で乾燥させます。

乾いたやわらかい布でシート表面の水分を拭き取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。

シート表面に過剰な水分が残ると、皮革の風合い低下（硬化、収縮）の原因となります。

知識

本革シートについて

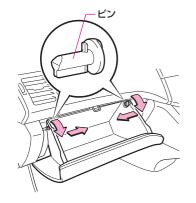
●厳選された天然素材を使用しています。外観品質を長く保つために、年に2回程度は定期的にお手入れすることをおすすめします。
●天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、牛皮革本来の傷がわかる場合があります。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

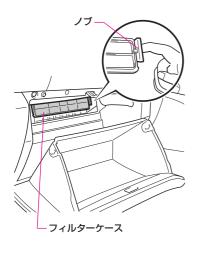
エアコンの手入れ

エアコンガス（冷媒）の点検

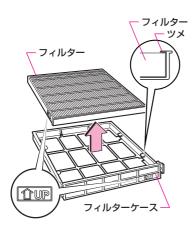
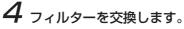
冷媒が不足していると冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしてください。

エアフィルターの交換

1 エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にします。

2 グローブボックスをはずします。

グローブボックスを開けて、左右2か所のピンをまわして引き抜き、グローブボックスを手前に倒します。

3 フィルターケースをはずします。

フィルターケースの左右にあるノブを手前に引いて、フィルターケースを取りはずします。

4 フィルターを交換します。

取りはずしたフィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

●フィルターケースのツメに、フィルターを確実に取り付けます。

●フィルターの側面に付いている「⇧ＵＰ」のマークを確認し、矢印が上を向くようにセットしてください。

5 フィルターケースを取り付けます。

フィルターケースの側面に付いている「⇧ＵＰ」のマークを確認し、矢印が上を向くようにセットしてください。

6 グローブボックスを取り付けます。

グローブボックスの左右2か所にピンを取り付けます。

フィルターの清掃・交換は、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしてから行ってください。

●フィルターの清掃・交換は、エンジン スイッチを“ ＬＯＣＫ ”にしてから行ってください。
●エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターの清掃または交換をしてください。
●フィルターの清掃は、必ずエアブローにより表面から行ってください。水洗いやブラシで擦っての清掃はしないでください。
●フィルターの裏と表を間違えないように、フィルターをフィルターケースに確実に取り付けてください。
●必ずフィルターを装着した状態でエアコンを使用してください。フィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。

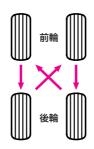
エアフィルターの清掃・交換について

●エアコンにはエアフィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な清掃・交換をおすすめします。
●エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。
●エアフィルター清掃・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

エアフィルター（花粉フィルター）
清掃の目安…15,000km【7,500km】ごと。
交換の目安…30,000km【15,000km】ごと。
【　】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

タイヤローテーション

タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーション（タイヤ位置交換）を行います。

●搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

注意 日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。
（P.70の「タイヤについての注意」参照）

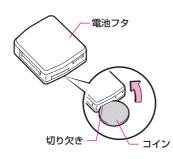
●タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。（P.83の「その他の注意」参照）

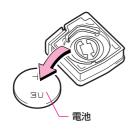
ワイヤレスドアロックリモコンの電池交換

1 カバーを開けます。

市販の精密ドライバーでネジ（1本）をはずし、カバーを矢印の方向に押しながら開けます。

2 モジュールを取り出します。

モジュールを本体から取り出します。

3 電池フタを取りはずします。

切り欠きにコインなどをかけて、電池フタを取りはずします。

4 電池を交換します。

古い電池を取り出し、新しい電池の⊕側を上にして挿入します。

5 電池フタ、モジュールおよびカバーを取り付けます。

電池フタをもとどおりにしっかりと取り付け、モジュールを本体の中にもどし、カバーを取り付けてネジ（1本）でもとどおりにしっかりと締め付けます。

6 作動確認をします。

リモコンスイッチを押したとき、本体のＬＥＤが点灯することを確認します。

電池および取りはずした部品は、とくにお子さまが飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時にはネジなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池フタを曲げたりしないように注意してください。
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池の⊕極と⊖極は必ず正しい向きにして取り付けてください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。

知 識

電池について

使用電池……リチウム電池ＣＲ2016

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、市販の精密ドライバーを使用すればお客様ご自身で行うことができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。
次の手順でヒューズの点検、交換を行ってください。

ヒューズの点検・交換のしかた

1 エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にします。

2 ヒューズボックスを開けます。(P.400、402参照)

3 ヒューズの点検をします。

故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズボックスのカバーの裏面または表面で確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないかを点検します。

- ●ヒューズはずし、予備ヒューズは、エンジンルーム内ヒューズボックスのカバー裏面に取り付られています。(次ページ参照)
- ●ヒューズは車の仕様によりないものもあります。

切れた状態

切れていない状態

4 ヒューズを交換します。

ヒューズが切れていたら、規定容量のヒューズに交換します。

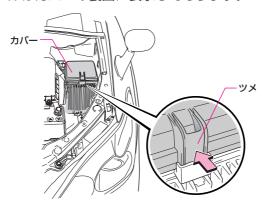
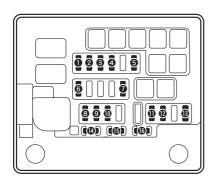
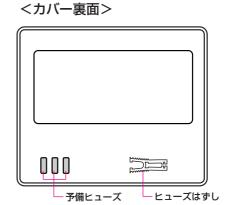
- ●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。
- ●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
  - ・取りかえても再びヒューズが切れるとき
  - ・取りかえても電気系統の装置が働かないとき

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

ヒューズボックスの開け方

■エンジンルーム内ヒューズボックス

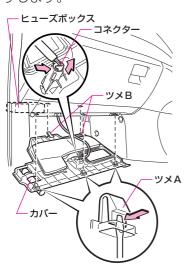
カバー横のツメ（1か所）を押しながらカバーを持ち上げてはずします。

●ヒューズラベルはカバーの裏面に表示してあります。

＜カバー裏面＞

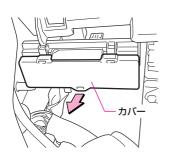
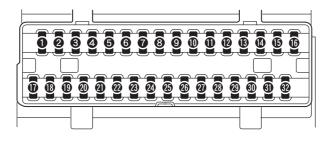
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	WIP－S	7.5A	ワイパー
❷	H－LP L LWR	15A	ヘッドランプ（左側ロービーム）
❸	H－LP L UPR	15A	ヘッドランプ（左側ハイビーム）
❹	H－LP R UPR	15A	ヘッドランプ（右側ハイビーム）
❺	CRT	7.5A	HDDナビゲーションシステム
❻	HAZ	15A	非常点滅灯
❼	HORN	10A	ホーン
❽	RADIO NO.1	15A	オーディオ、HDDナビゲーションシステム
❾	ECU－B	7.5A	ボディECU、エアコン、メーター
❿	DOME	7.5A	室内灯関係
⓫	AMP	30A	オーディオ
⓬	DOOR NO.1	25A	ボディECU
⓭	EFI NO.1	25A	EFIコンピュータ
⓮	H－LP R LWR	15A	ヘッドランプ（右側ロービーム）
⓯	ABS NO.3	7.5A	ABS
⓰	EFI NO.2	10A	EFIコンピュータ

＊ 車の仕様により設定のないヒューズもあります。

■助手席足元ヒューズボックス

グローブボックス下のカバーをはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずします。

1 **マイナスドライバーなどを使用して、ツメA（3か所）をはずします。**

2 **カバーを手前に引いてツメB（2か所）をはずし、カバーを取りはずします。**

足元照明付き車は、足元照明のコネクターをはずします。

3 **ヒューズボックスのカバーを手前に引いてはずします。**

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
❶	RR DOOR RH	20A	運転席側リヤドアECU
❷	RR DOOR LH	20A	助手席側リヤドアECU
❸	FUEL OPN	7.5A	フューエルリッドオープナー
❹	FR FOG	15A	フロントフォグランプ
❺	OBD	7.5A	ダイアグノーシスコネクター
❻	FR DEF	25A	フロントデフロスター
❼	STOP	10A	制動灯
❽	TI&TE	30A	チルト & テレスコピックステアリング
❾	MPX−B	7.5A	EFIコンピュータ
❿	AM1	7.5A	パワースイッチ（エンジン スイッチ）関係
⓫	RR FOG	7.5A	リヤフォグランプ
⓬	AIRSUS	7.5A	−
⓭	DOOR NO.2	25A	電気式ドアロック
⓮	S／ROOF	30A	ムーンルーフ
⓯	TAIL	10A	尾灯、番号灯、車幅灯
⓰	PANEL	7.5A	各スイッチ照明
⓱	ECU−IG NO.1	7.5A	ボディECU、ABS & ブレーキアシスト
⓲	ECU−IG NO.2	10A	ヘッドランプオートレベリングシステム
⓳	HEATER	7.5A	エアコン
⓴	WASHER	20A	ウォッシャー

＊ 車の仕様により設定のないヒューズもあります。

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
㉑	SEAT HTR	20A	シートヒーター
㉒	GAUGE NO.1	7.5A	メーター、後退灯
㉓	FR WIP	30A	フロントワイパー
㉔	RR WIP	15A	リヤワイパー
㉕	INJ	20A	EFIコンピュータ
㉖	IGN	10A	EFIコンピュータ
㉗	GAUGE NO.2	7.5A	メーター
㉘	ECU−ACC	7.5A	ボディECU
㉙	CIG	15A	シガレットライター
㉚	PWR OUTLET NO.1	15A	アクセサリーソケット
㉛	RADIO NO.2	7.5A	オーディオ、HDDナビゲーションシステム
㉜	MIR HTR	10A	ミラーヒーター

＊ 車の仕様により設定のないヒューズもあります。

初期設定について

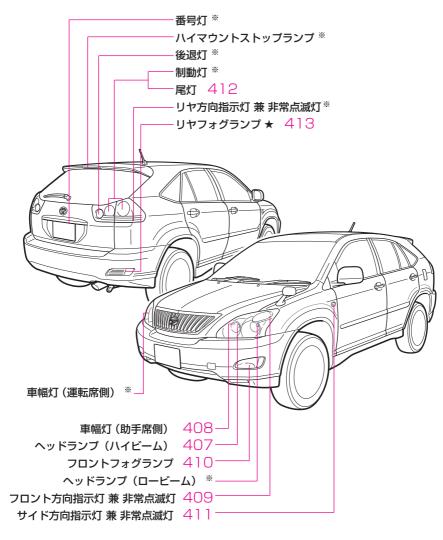
バッテリーあがりの処置や、ヒューズ交換などの作業を行った場合、作業後に初期設定操作が必要な機能があります。詳しくは、P.438の「初期設定が必要な機能」を参照してください。

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

電球を交換するときは、必ず次のことをお守りください

●ディスチャージヘッドランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットにふれた状態で点灯操作をすると、瞬間的に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあり危険です。

電球は十分注意して取り扱ってください。

●ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、ものをぶつけたり、傷を付けたりすると、破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手でふれずにきれいな手袋を着用してください。
●必ず同じワット数の電球を使用してください。（P.429参照）
●電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
●電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどを紛失しないように注意して作業してください。

ランプの曇りについて

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

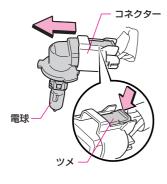
電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ（ハイビーム）

■取りはずし方

1 **ボンネットを開けて（P.146参照）、コネクターを取りはずします。**

コネクターを矢印の方向にまわして取りはずします。

2 **ツメを押して、コネクターから電球を取りはずします。**

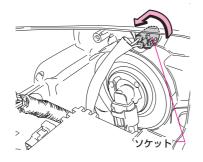
■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

- 電球がコネクターに確実に固定されていることを確認します。
- コネクターがもとの位置に確実に固定されていることを確認します。
- ランプスイッチを操作して、ヘッドランプ（ハイビーム）が点灯することを確認します。

※ 図は助手席側で説明しています。

車幅灯（助手席側）

■取りはずし方

1 **ボンネットを開けて（P.146参照）、ソケットを取りはずします。**

ソケットを矢印の方向にまわして取りはずします。

2 **ソケットから電球を引き抜きます。**

■取り付け方

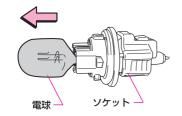
取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

●電球がソケットに確実に固定されていることを確認します。

●ソケットがもとの位置に確実に固定されていることを確認します。

●ランプスイッチを操作して、車幅灯が点灯することを確認します。

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 ボンネットを開けて（P.146参照）、ソケットを取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取りはずします。

2 ソケットから電球を引き抜きます。

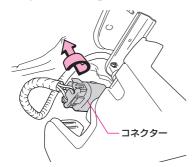
■取り付け方

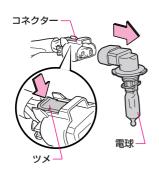
取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

- 電球がソケットに確実に固定されていることを確認します。
- ソケットがもとの位置に確実に固定されていることを確認します。
- 非常点滅灯スイッチなどを操作して、方向指示灯が点滅することを確認します。

※ 図は助手席側で説明しています。

フロントフォグランプ

■取りはずし方

1 コネクターを取りはずします。

コネクターを矢印の方向にまわして、フロントバンパーの裏側から取りはずします。

2 ツメを押して、コネクターから電球を取りはずします。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

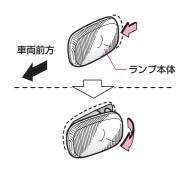
●電球がコネクターに確実に固定されていることを確認します。

●コネクターがフロントバンパー裏側に確実に固定されていることを確認します。

●フォグランプスイッチを操作して、フロントフォグランプが点灯することを確認します。

※ 図は助手席側で説明しています。

目次
警告
基本操作早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯

■取りはずし方

1 ランプ本体を取りはずします。

ランプ本体を車両前方にスライドさせたまま、ランプ本体の車両後方側を手前に引いて取りはずします。

2 ランプ本体からソケットと電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわしてランプ本体から取りはずし、ソケットから電球を引き抜きます。

■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

●電球がソケットに、またソケットがランプ本体に確実に固定されていることを確認します。

●ランプ本体が車両に確実に固定されていることを確認します。

●非常点滅灯スイッチなどを操作して、方向指示灯が点滅することを確認します。

ランプ本体からソケットをはずすと、ソケットが車両内部に落ちやすくなります。落ちないように注意して作業してください。

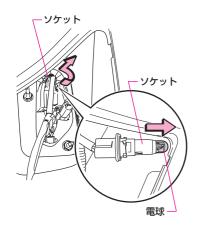
※ 図は助手席側で説明しています。

尾灯

■取りはずし方

1 **バックドアを開けて（P.122参照）、カバーを取りはずします。**

薄刃のマイナスドライバーを、カバーの切り欠きに挿し込んで取りはずします。

●傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いて保護してください。

2 **ソケットと電球を取りはずします。**

ソケットを矢印の方向にまわして取りはずし、ソケットから電球を引き抜きます。

■取り付け方

取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

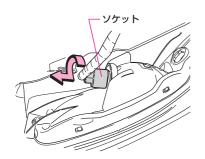
●電球がソケットに確実に固定されていることを確認します。

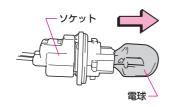
●ソケットがもとの位置に確実に固定されていることを確認します。

●ランプスイッチを操作して、尾灯が点灯することを確認します。

※ 図は助手席側で説明しています。

リヤフォグランプ ★

■取りはずし方

1 ソケットを取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして、リヤバンパー裏側から取りはずします。

2 ソケットから電球を引き抜きます。

■取り付け方

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

- 電球がソケットに確実に固定されていることを確認します。
- ソケットがリヤバンパー裏側に確実に固定されていることを確認します。
- フォグランプスイッチを操作して、リヤフォグランプが点灯することを確認します。

※ 図は助手席側で説明しています。

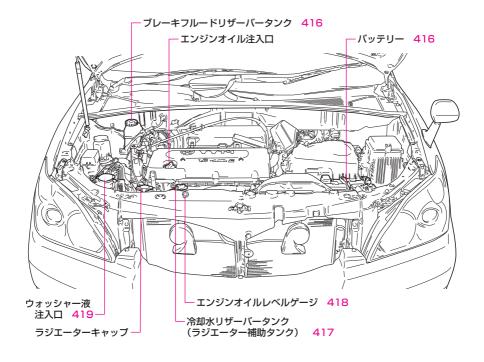
日常点検

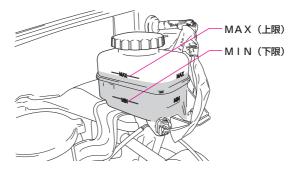
日常点検について

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。
ここでは、点検内容を簡単に説明します。
点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

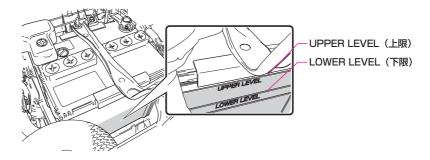
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

エンジンルームの点検

ブレーキフルードリザーバータンク　416
エンジンオイル注入口
バッテリー　416
ウォッシャー液注入口　419
ラジエーターキャップ
エンジンオイルレベルゲージ　418
冷却水リザーバータンク（ラジエーター補助タンク）　417

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルームに置き忘れていないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

ブレーキの液量

ブレーキフルードの量がリザーバータンクのＭＡＸ（上限）とＭＩＮ（下限）の間にあるかを点検します。

警告	ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

バッテリーの液量

バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。

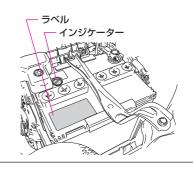
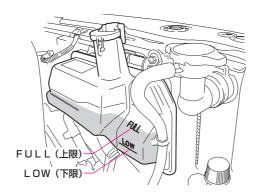
注意	バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

知 識

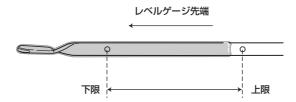
バッテリーについて

バッテリー本体の意匠や、UPPER LEVEL（上限）・LOWER LEVEL（下限）の表示は、搭載されるバッテリーにより、意匠が異なる場合があります。

インジケーター付バッテリーについて

インジケーター付バッテリーは、インジケーターに表示される色によって、バッテリーの状態を確認できます。詳しくは、バッテリー上面に付いているラベルをご覧ください。

冷却水の量

冷却水の量がリザーバータンクのＦＵＬＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあるかを点検します。

注意	冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。 また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ず冷却水を適切な濃度でご使用ください。

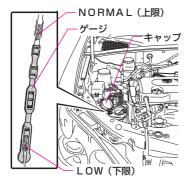
エンジンオイルの量

エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

●エンジンを停止してください。
エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分にふれたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●エンジンオイルの温度が低いときに、点検・交換してください。
●エンジンが停止していても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。

エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

●定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼き付きなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
・エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
●オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
●エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように布などをあてて点検してください。
万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

ウインドゥウォッシャーの液量

ウォッシャー液注入口のキャップを開けてゲージを抜き出します。
●液面がＮＯＲＭＡＬ（上限）とＬＯＷ（下限）の間にあることを確認します。
●液面がＬＯＷ（下限）に近付いたら、ウォッシャー液を補給してください。

■ウォッシャー液を補給するには

1 キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2 ウォッシャー液を補給します。

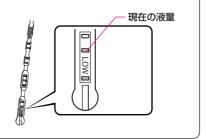
補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

●ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。
●液量については、P.433の「ウォッシャータンク容量」を参照してください。
●リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

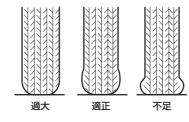
ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわったら（LOWの位置まで低下したら）、ウォッシャー液を補給してください。

車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.70の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤの空気圧

点検はタイヤが冷えている（走行前）状態で、タイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。

●月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
●空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

指定空気圧より低いと車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

知 識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.434参照）でご確認ください。
●スペアタイヤも点検してください。
●指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくと、タイヤを目視点検するときに参考になります。
●指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。

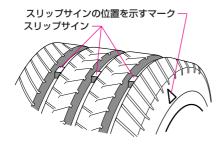
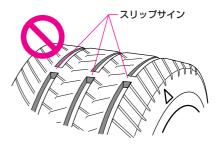
タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷や亀裂がないかを点検します。
また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。

警告	**タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。**

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗

〈例：スリップサインが出ていない状態〉※1

〈例：スリップサインが出ている状態〉※1

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。
また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※2により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※2 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

灯火装置、方向指示器の汚れ、損傷

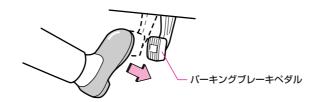
各ランプのレンズに、汚れや破損、ヒビ割れなどがないかを点検します。

ランプの曇りについて

ヘッドランプなどのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴が付いているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

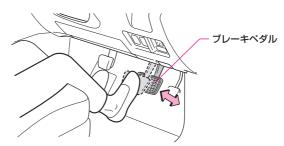
目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

運転席に座っての点検

パーキングブレーキの踏みしろ

パーキングブレーキペダルを止まるまでゆっくりと踏み、カチカチ音が基準値の範囲で止まるかを点検します。（P.428参照）

エンジンのかかり具合

エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合いは良いかを点検します。
また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ

エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

ウインドゥウォッシャーの噴射状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーを作動させ、噴射の向きおよび高さがワイパーの作動範囲のほぼ中央にあたるかを点検します。

ワイパーの払拭状態

エンジンを始動し、ウインドゥウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「低速作動」「高速作動」「一時作動」「間欠作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

注意	洗車するときやワイパーゴムを交換するときなど、フロントワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側のワイパーアームから立ててください。また、もとにもどすときは、助手席側のワイパーアームからもどしてください。

灯火装置、方向指示器の作用

各灯火装置、方向指示器を作動させ、ランプが点灯または点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあったり、止まったりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

点検基準値

項　目			メンテナンスデータ
ブレーキペダル		遊び［mm］ （負圧なしの状態）	2 ～ 3
		踏み込んだときの床板 とのすき間［mm］ 〔踏力500Ｎ ｛50kgf｝〕 （エンジンＯＮの状態）	89以上
パーキングブレーキ		踏みしろ［ノッチ※］ 〔操作力300Ｎ ｛30kgf｝〕	5 ～ 7
Vリブドベルト	オルタネーター ＆ Ｐ／Ｓベルト ＆ Ａ／Ｃベルト	たわみ量［mm］	非調整式

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

電球（バルブ）のワット数

項	目	メンテナンスデータ
電　球 （バルブ）	ワット数	ヘッドランプ（ロービーム）……… 35W （バルブタイプ＝D2S） ヘッドランプ（ハイビーム）……… 60W （バルブタイプ＝HB3） フロントフォグランプ ……… 51W （バルブタイプ＝HB4） 車幅灯……… 5W フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ※1）……… 21W サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ※1）……… 5W 番号灯……… 5W 制動灯 ……… LED※2 尾灯……… 5W リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 （アンバーバルブ※1）……… 21W 後退灯 ……… 16W リヤフォグランプ★ ……… 21W ハイマウントストップランプ ……… LED※2 マップランプ……… 8W フロントルームランプ……… 8W リヤルームランプ……… 8W ラゲージランプ……… 5W バックドアランプ……… 5W ドアカーテシランプ……… 5W バニティミラーランプ★……… 3.8W コンソールボックスランプ ……… LED※2 カップホルダーランプ ……… LED※2 グローブボックスランプ ……… LED※2 シフトレバー部照明 ……… LED※2

※1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。
※2 ＬＥＤは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。
トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

<table>
<tr><th colspan="2">項　　目</th><th>容量［L］
（参考値）</th><th>銘　柄</th></tr>
<tr><td colspan="2">冷　却　水</td><td>6.2</td><td>トヨタ純正スーパーロング
ライフクーラント
凍結保証温度
　濃度30%　－12℃
　濃度50%　－35℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートマチックトランス
アクスルフルード
（ＦＦ車）</td><td>8.6</td><td>トヨタ純正オートフルードタイプ
Ｔ－Ⅳ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オートマチック
トランス
アクスル
フルード　＆
トランスファー
オイル
（4WD車）</td><td>トランス
アクスル</td><td>8.7</td><td>トヨタ純正オートフルードタイプ
Ｔ－Ⅳ</td></tr>
<tr><td>トランス
ファー</td><td>0.9</td><td>トヨタ純正ハイポイドギヤオイルSX
（API GL-5, 85W-90）</td></tr>
</table>

項　　　目	容量［L］ （参考値）	銘　柄
リヤディファレンシャルオイル（4WD車）	0.9	トヨタ純正 ハイポイドギヤオイルSX （API GL-5, S A E 85W-90）
パワーステアリングフルード	0.9	トヨタ純正パワーステアリングフルード
ブレーキフルード	－	トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

項目	容量［L］（参考値）		銘　柄
	オイルのみ交換時充てん量	オイルとオイルフィルター交換時充てん量	
エンジンオイル	4.1	4.3	トヨタ純正モーターオイル ＳＭ 0W-20※ （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 0W-20） トヨタ純正モーターオイル ＳＭ 5W-30 （API SM,EC/ILSAC GF-4,SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイル ＳＭ 10W-30 （API SM,EC/ILSAC.GF-4,SAE 10W-30） トヨタ純正モーターオイル ＳＬ 5W-20（API SL,EC SAE 5W-20） トヨタ純正モーターオイル ＳＬ 10W-30（API SL,EC SAE10W-30）

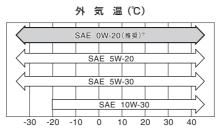
※ 0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■指定エンジンオイル

ＡＰＩ規格ＳＭ／ＥＣ、ＳＬ／ＥＣか、ＩＬＳＡＣ規格合格油をおすすめします。なお、ＩＬＳＡＣ規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

APIマーク

ILSAC CERTIFICATION マーク

・下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※0W-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

ウォッシャータンク容量

項　　目	容量［L］（参考値）
ウォッシャータンク	4.5

燃料の量と種類

項目	容量［L］（参考値）	指定燃料
燃料（フューエルタンク）	72	無鉛レギュラーガソリン

タイヤ・ホイール仕様

タイヤサイズ ＼ 項目		ホイールサイズ リムサイズ スチールホイール	ホイールサイズ リムサイズ アルミホイール	P.C.D.	オフセット量
標準タイヤ	225／65R17 101S		17×61/2J	114.3mm×5（穴）	35mm
	235／55R18 99H		18×7JJ		35mm
応急用スペアタイヤ	T165／80R17 104M	17×4T			40mm

タイヤの種類 ＼ 項目	タイヤが冷えているときの空気圧［kPa ｛kg/cm²｝］ 前輪	タイヤが冷えているときの空気圧［kPa ｛kg/cm²｝］ 後輪
標準タイヤ	210 ｛2.1｝	210 ｛2.1｝
応急用スペアタイヤ	420 ｛4.2｝	420 ｛4.2｝

車両仕様

<table>
<tr><th>名　称</th><th>型　式</th><th>エンジン型式</th><th>駆動方式</th><th>グレード</th></tr>
<tr><td rowspan="2">ハリアー</td><td>ＡＣＵ 30W</td><td rowspan="2">2ＡＺ－ＦＥ
（2.4Lガソリン）</td><td>ＦＦ
（前輪駆動）</td><td rowspan="2">HARRIER
240G</td></tr>
<tr><td>ＡＣＵ 35W</td><td>4WD
（4輪駆動）</td></tr>
</table>

ユーザーカスタマイズ

ユーザーカスタマイズ一覧

以下の機能の動作内容を変更することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定 （太字が初期設定）
ワイヤレスドアロック （P.113参照）	作動完了時の非常点滅灯の点滅	**あり**／なし
	作動完了時のブザー	**あり**／なし
	半ドア警告ブザー	**あり**／なし
	ワイヤレスドアロック リモコンスイッチ連動開閉機構	**あり**／なし
	リモコンで解錠したあと、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	**約30秒**／約60秒 ／約120秒
ドアロック※1 （P.118参照）	車速感応オートドアロック	**あり**／なし
	シフト連動オートドアロック※2	あり／**なし**
	シフト連動オートドアアンロック	**あり**／なし
	運転席ドア連動オートドアアンロック※2	あり／**なし**
パワーバックドア ★ （P.129参照）	自動開閉中のブザー※2	音圧大／音圧小／ **なし**
	パワーバックドアスイッチの作動	**長押し**／短押し
	ワイヤレスドアロックリモコンの作動	**長押し**／短押し／ 2回押し／なし
	バックドアオープンスイッチの操作でバックドアを開けたときのアシスト開作動※2	あり／**なし**

※1 お客様自身で変更することができます。（トヨタ販売店でも変更できます）
※2 初期設定（工場出荷時）では、無効に設定されています。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の取り扱い
室内装備の取り扱い
安全・快適装備の解説と注意
車との上手な付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
電動チルト＆テレスコピックステアリング★（P.193参照）	オートチルトアウェイ＆リターン機能	**あり**／なし
コンライト（P.238参照）	コンライトセンサーの感度調整	レベル1～5 **（レベル3）**
	コンライトシステムが車幅灯・尾灯・番号灯を点灯するまでの時間	**標準**／長め
イルミネーテッドエントリーシステム（P.336参照）	エンジン スイッチを“ＡＣＣ”から“ＬＯＣＫ”にしたときの作動	**あり**／なし
	ドアを解錠したときの作動	**あり**／なし
	消灯までのタイマー時間	**約15秒**／約7.5秒／約30秒

初期設定が必要な機能

初期設定について

バッテリーを交換したときや、ヒューズが切れたとき、メンテナンスを行ったときなど、バッテリーと車両との接続が断たれた場合には、下記の機能の初期設定が必要です。これらの機能は、初期設定を行わないと機能が正しく作動しません。

参照ページの説明に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。

項目	対処方法
パワーバックドア ★	P.134参照
パワーウインドゥ	P.137参照
マルチパネルムーンルーフ ★	P.141参照
バックガイドモニター ★	別冊「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
フロント ＆ サイドモニター ★	別冊「ＨＤＤナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

8

万一のとき

工具、スペアタイヤ、発炎筒……… 440

ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所 440

ジャッキ 442

スペアタイヤ 443

発炎筒の使い方 448

故障したときは…………………………… 450

路上で故障したときは 450

動けなくなったときは 451

パンクしたときは……………………… 452

タイヤの交換 452

バッテリーがあがったときは……… 461

バッテリーあがりとは 461

オーバーヒートしたときは………… 464

オーバーヒートとは 464

けん引について…………………………… 467

けん引のしかた 467

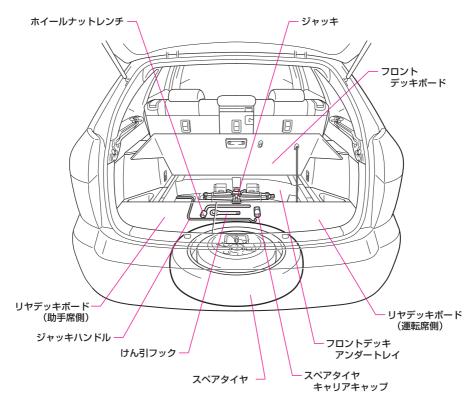
事故が起きたときは…………………… 471

あわてずに次の処置を行ってください 471

車両を緊急停止するには…………… 472

緊急停止のしかた 472

工具、スペアタイヤ、発炎筒

ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所

- ●ジャッキ、工具などは、ラゲージルームに格納されています。
- ●スペアタイヤについては、P.443の「スペアタイヤ」を参照してください。
- ●ジャッキ、工具の種類、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。

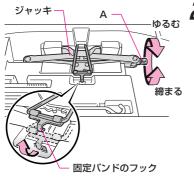
警告　工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

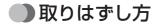
車に搭載されているジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外使用しないでください。

取り出し方

1 **フロントデッキボードを開けます。**
（P.329参照）

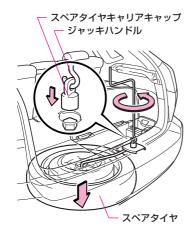
工具は、フロントデッキアンダートレイに格納されています。

2 **ジャッキを取り出します。**

固定バンドのフックをはずします。
ジャッキのAの部分をまわしてゆるめ、ジャッキを取り出します。

格納するときは
取り出したときと逆の手順で行います。
- ●ジャッキをもとどおりに格納し、Aの部分をまわしてジャッキを固定します。
- ●固定バンドを取り付けます。
- ●ジャッキが確実に固定されていることを確認します。

取りはずし方

1 リヤデッキボード（運転席側）を開けます。

ボタンを押して、リヤデッキボード（運転席側）を開けます。

2 スペアタイヤキャリアのボルトのフタをはずします。

3 スペアタイヤを降ろします。

スペアタイヤキャリアキャップとジャッキハンドルを図のように組み合わせて、ジャッキハンドルを左にまわします。

●スペアタイヤが車両の外側に出せるまで降ろします。

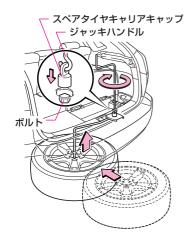
4 スペアタイヤを引き起こします。

5 スペアタイヤを取りはずします。

アンカープレートをはずして、スペアタイヤを取りはずします。

格納のしかた

1 アンカープレートをはめます。

ホイールの意匠側を上向きにして、ホイールの穴にスペアタイヤ格納具のアンカープレートをはめます。

2 **タイヤを格納します。**

タイヤを車両下側まで押します。
スペアタイヤキャリアキャップとジャッキハンドルを図のように組み合わせて、ジャッキハンドルをゆっくりと右にまわしてタイヤを格納します。

●タイヤが地面から離れたときに、アンカープレートがホイールの穴に確実にはまっていることを確認してください。

3 **タイヤが確実に固定されていることを確認します。**

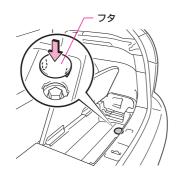
十分に巻き上げた後、“カチッ”と音がするまでジャッキハンドルを右に締め付けます。

●タイヤが確実に固定されていることを確認します。

4 **スペアタイヤキャリアのボルトのフタを取り付けます。**

5 **リヤデッキボードを閉めます。**

リヤデッキボードを“カチッ”と音がするまで押し込み、確実に閉めます。

6 **工具を格納して、フロントデッキボードを閉じます。**

タイヤが確実に固定されていることを確認してください。

- スペアタイヤを格納したあとは、タイヤが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。
- 必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.434で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
- スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしてください。
- 格納具からスペアタイヤを取りはずすときは、足の上などに落とさないようにゆっくりと降ろしてください。足などを挟みけがをするおそれがあります。
- スペアタイヤを格納するときは、アンカープレートがホイール穴に確実にはまっていることを確認してください。

応急用タイヤについて

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

警告 **応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。**

- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa ｛4.2kg/cm^2｝
- 車に搭載されている応急用タイヤはお客様の車専用です。他のタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、他の車に使用したり、他の車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意	応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直径が小さいので、次の事項に注意してください。

●応急用タイヤを装着しているときは、約100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急タイヤはできるだけ早く標準タイヤに交換してください。

●応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は標準タイヤ装着時に対し車高が変化します。同じ感覚で運転すると車をぶつけるおそれがあります。

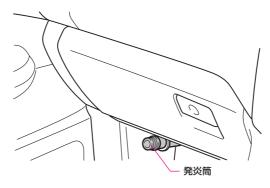
●応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側にあたったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪に装着してからタイヤチェーンを装着してください。

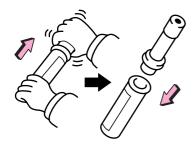
●応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ＡＢＳ
・ブレーキアシスト
・インテリジェントＡＦＳ
・ＧＰＳボイスナビゲーション
・バックガイドモニター
・フロント ＆ サイドモニター

また、フルタイム4WDシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

発炎筒の使い方

格納場所

助手席足元に備え付けてあります。

発炎筒の使い方

1 発炎筒を組み立てます。

本体をひねりながら取り出し、逆にして挿し込みます。

2 着火します。

キャップの頭部のすり薬でこすると着火します。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

発炎筒は正しく取り扱ってください。

●発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●発炎筒を使用中は、顔や体に向けたり、近付けたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

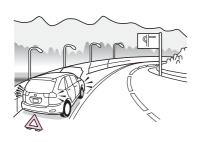
発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について

●発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
●発炎筒には有効期間があります。
本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

故障したときは

路上で故障したときは

非常点滅灯（P.250の「非常点滅灯の使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合は、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務付けられています）

緊急を要するときは発炎筒で合図します。（P.448の「発炎筒の使い方」参照）

動けなくなったときは

踏切で動けなくなったときは

シフトレバーを🅝にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

●エンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

道路で動けなくなったときは

シフトレバーを🅝にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

●エンジン スイッチを“ＳＴＡＲＴ”で保持して、緊急避難的に車を動かすことはできません。

●困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.70の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

タイヤ交換する前に

1 **平らな場所に移動します。**

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 **パーキングブレーキをしっかりかけます。**

3 **エンジンを停止します。**

シフトレバーをⓅにして、エンジンを停止します。

4 **車の存在を知らせます。**

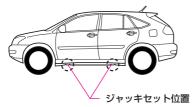
必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 **ジャッキ・工具を取り出します。****（P.440参照）**

6 **輪止めを用意します。**

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますので、トヨタ販売店にご相談ください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 **スペアタイヤを用意します。****（P.443参照）**

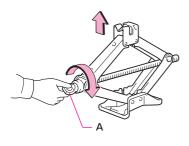
タイヤ交換のしかた

1 ジャッキを置きます。

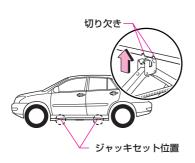
取りかえるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。
地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。

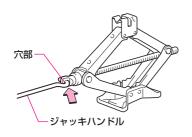
2 輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。（図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています）

3 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。

4 ジャッキを上げます。

ジャッキのAの部分を手で右にまわして、車体のジャッキセット位置まで上げます。

5 ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。

6 ジャッキハンドルを取り付けます。

ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に挿し込みます。

7 ジャッキアップします。

ジャッキハンドルを右にまわして、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

8 ナットを取りはずします。

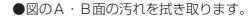
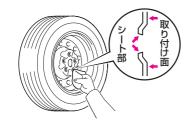
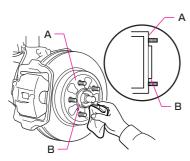
手でナットを左にまわして、取りはずします。

9 タイヤを取りはずします。

アルミホイールを直接地面に置くときは、傷が付かないように意匠面を上にして置いてください。

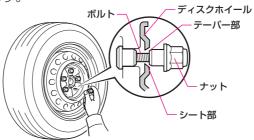
10 交換するタイヤを取り付けます。

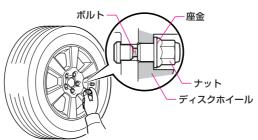
●タイヤを取り付けるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面の汚れを拭き取ってから取り付けてください。

●図のＡ・Ｂ面の汚れを拭き取ります。

11 ナットを仮締めします。

タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。
ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

●応急用タイヤに交換するとき

ナットのテーパー部がディスクホイール穴のシート部に軽くあたるまで仮締めします。

●アルミホイールに交換するとき

ナットの座金がディスクホイールにあたるまで仮締めします。

12 車体を降ろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。

ホイールナットレンチ

13 ナットを締め付けます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2～3度にわたり十分締め付けます。

●締め付けトルク：約103N·m
{1030kgf·cm}

14 センターオーナメントを取り付けます。

はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして、交換したタイヤに取り付けます。

●応急用タイヤにセンターオーナメントを取り付けることはできません。

15 工具・ジャッキ・タイヤを片付けます。

16 タイヤの空気圧を点検してください。（P.434参照）

⚠ 警告	パンクしたまま走行しないでください。

●パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ、ディスクホイール、サスペンションや車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

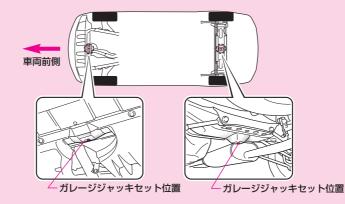
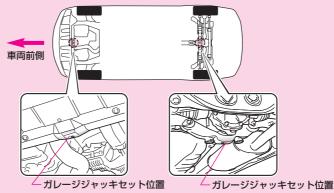
●ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、体が車の下敷きになり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告 ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。

●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
●タイヤを取り付けるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。
●ディスクホイール取り付けボルト、ナットのねじ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
つぶれや亀裂などの異常があると、ナットを締め付けても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
・ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めのかわりに、石などで代用できますが、タイヤを確実に固定できることを確認してください。
・ジャッキアップするときは、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
・人を乗せたままジャッキアップしないでください。
・ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
・ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
・車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
●ジャッキアップした車体を降ろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
●ディスクホイール取り付けナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取り付けボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締め付けトルク：約103N・m ｛1030kgf・cm｝
●新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

⚠ 警告　車に搭載されているジャッキ以外でジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

●車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。
下図のガレージジャッキセット位置にあててください。
ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用してください。

ＦＦ車

4WD車

・ガレージジャッキは、受け皿の形状がガレージジャッキセット位置に適したサイズの受け皿タイプを使用してください。

注意 **ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。**

- ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締め付けるときにホイールナットレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- センターオーナメントを取りはずす際は、十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にディスクホイール取り付けナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- ディスクホイール取り付けナットは、トヨタ純正アルミホイール専用品以外のものを使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。タイヤを取り付けるボルトが折れるおそれがあります。
- 傷、変形があるナット、ディスクホイールなどは使用しないでください。
- タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは

次のような状態が、バッテリーあがりです。

- ●スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ●ヘッドランプがいつもより暗い。
- ●ホーンの音が小さいまたは鳴らない。

処置のしかた

押しがけによる始動はできません。
救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。
なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 **ブースターケーブルをつなぎます。**

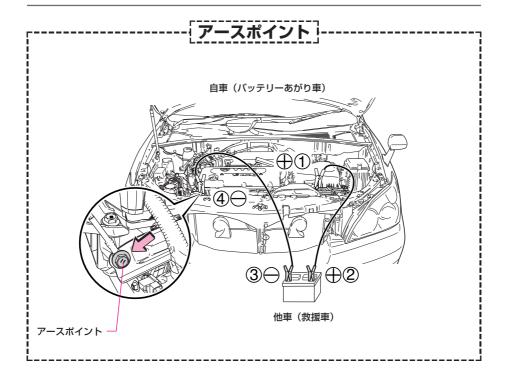
バッテリーの⊕端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。
①自車のバッテリーの⊕端子
②救援車のバッテリーの⊕端子
③救援車のバッテリーの⊖端子
④次ページの図で指示している箇所（アースを取る）

2 **バッテリーを充電します。**

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 **自車のエンジンをかけます。**

4 **ブースターケーブルをはずします。**

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンを停止したままランプを点灯したり、エアコン、オーディオなどを使用しないようにしてください。

●エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要な電装品の電源を切ってください。

警告　火気をバッテリーに近付けないでください。

●必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ・④の接続（前ページ参照）は、自車バッテリーの⊖端子につながないでください。
バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
- ・ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
接触させると火花が発生します。
- ・火気をバッテリーに近付けないでください。

●充電中はバッテリーに近付かないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

●ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締め付けてください。確実に締め付けないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。

注意　救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

●他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。

●バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知 識

初期設定について

バッテリーあがりの処置や、ヒューズ交換などの作業を行った場合、作業後に初期設定操作が必要な機能があります。詳しくは、P.438の「初期設定が必要な機能」を参照してください。

オートアラーム（盗難警報システム）について

オートアラームをセットしたあとに、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電・交換をする際は、オートアラームの警報および強制的な施錠が作動する場合がありますので、作業を行う前にオートアラームのシステム作動可能状態を解除してください。（P.148参照）

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは

次のような状態が、オーバーヒートです。
- ●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する。
- ●ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 車を停止させます。

車を安全な場所に停止させ、エアコンを使用している場合は、ＯＦＦにします。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合
ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

■ボンネットから蒸気が出ている場合
エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときは、エンジンを停止してトヨタ販売店に連絡してください。

4 エンジンを停止します。

水温計の針が下がってきたら、エンジンを停止します。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部（放熱部）が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。

6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

●冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

●移動途中で再び水温計の針が上昇してきたときは、エアコンの温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にしてください。ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。

警告　やけどなどしないように十分気を付けてください。

●ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。

●ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップ、エア抜きバルブを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップ、バルブを包みゆっくりと開けてください。

●エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどにふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水はエンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

他車にけん引してもらうときは

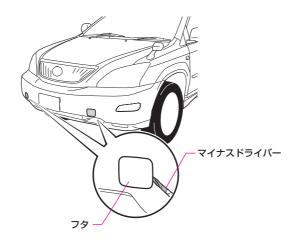
フロントに取り付けるけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。
けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店またはＪＡＦなどに依頼してください。

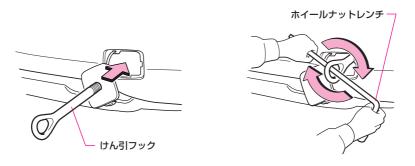
とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。
●エンジンがまわっているのに車が動かない
●異常な音がする

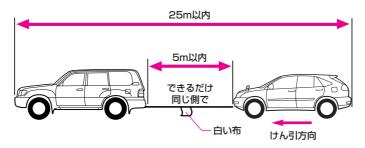
1 **けん引フック、ホイールナットレンチを用意します。**

（P.440の「ジャッキ、工具、スペアタイヤの格納場所」参照）

2 **けん引フック取り付け部のフタを取りはずします。**

薄刃のマイナスドライバーをフタとバンパーのすき間に挿し込んで、フタをはずします。
●バンパー傷付き防止のため、ドライバーの先端に薄手のテープなどを巻いて保護してください。

3 けん引フックを取り付けます。

ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを確実に取り付けます。

4 けん引フックにロープをかけます。

ボディに傷を付けないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて、前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ず付けてください。

5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ ON ”にします。

目次
警告
基本操作 早わかり
運転装置の 取り扱い
室内装備の 取り扱い
安全・快適装備 の解説と注意
車との上手な 付き合い方
メンテナンス
万一のとき
索引

6 発進します。

シフトレバーを🅝にして、パーキングブレーキを解除します。

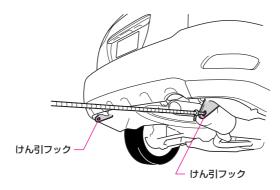
7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら

ホイールナットレンチを使用してけん引フックをはずして格納します。

●けん引フック取り付け部のフタを確実に取り付けます。

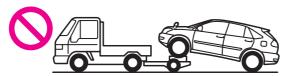
他車（故障車）をけん引するときは

●けん引フックは、一般路上で故障した他車（故障車）をやむを得ずロープによりけん引をするためのものです。

●自車より重い車のけん引はできません。
自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

けん引される車は慎重に運転してください。

●けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●キーを抜いたり、エンジン スイッチを“ＬＯＣＫ”にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、“ＬＯＣＫ”だとキーが抜けるおそれがあります。
●けん引する車は急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。
また、万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

長坂路を下るときは、車両積載車で運搬してください。

●長坂路を下るときは、車両積載車で運搬してください。
車両積載車で運搬しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
●4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼き付きを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。

●けん引速度約30km/h以下、けん引距離約80km以内で、前進方向でけん引してください。
この速度、距離をこえてのけん引または後進方向でのけん引をすると、トランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらをこえる場合は車両積載車などにより4輪とも持ち上げて運搬してください。
●スタック※脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
●ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷が付くおそれがあります。
●スタックしたときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やＪＡＦなどに依頼してください。
けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなった状態。

事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください

1 **続発事故を防止します。**

他の交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 **負傷者がいる場合は、応急手当を行います。**

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 **警察への届け出をします。**

4 **相手方の確認とメモ（氏名、住所、電話番号）を取ります。**

5 **ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。**

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトレバーをⓃに入れます。**

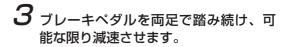
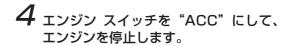
■シフトレバーがⓃに入った場合

3 **減速後、車を安全な道路脇に停めます。**

4 **エンジンを停止します。**

■シフトレバーがⓃに入らない場合

3 **ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。**

4 **エンジン スイッチを“ACC”にして、エンジンを停止します。**

5 **車を安全な道路脇に停めます。**

⚠ 警告	**走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、次のことをお守りください。**

●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。
エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
●走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、キーを絶対に抜かないでください。
キーを抜くとハンドルがロックされるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

五十音さくいん……………………………… 474

警告灯さくいん……………………………… 484

さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、色付き文字の項目をご覧ください。

あ

アームレスト
　フロントシート …………………………156
　リヤシート ………………………………162
アクセサリーソケット ……………………324
アジャスタブルシートベルトアンカー …176
雨の日の運転 ……………………………372
アンチロックブレーキシステム
　（ＡＢＳ）…………………………………363
アンテナ …………………………………296

い

イージークローザー
　(バックドアイージークローザー)………127
ＥＣＴ ＳＮＯＷ表示灯 …………………224
ＥＢＤの働き ……………………………366
ＥＬＲ機構付シートベルト ……………354
イグニッションスイッチ …………………200
ＩＳＯＦＩＸ対応
　チャイルドシート固定専用バー ………188
イラスト目次 ……………………………8～11
イルミネーテッド
　エントリーシステム ……………………336
インテリジェント ＡＦＳ ………………369
インナーミラーの調整 …………………195

う

ウインドゥウォッシャー
　ウォッシャー液の
　　噴射のしかた …………………………246
　ウォッシャー液注入口の位置 …………415
　ウォッシャータンク容量 ………………433
　冬の前の準備、点検 ……………………373
ウインドゥデフォッガー（曇り取り）
　の使い方 …………………………………248
ウインドゥロックスイッチの使い方 ……137
ウォーニングランプ（警告灯） …………226
動けなくなったときは ……………………451

運転する前に（寒冷時の取り扱い）………375
運転席ＳＲＳエアバッグ …………………340
運転席シートベルト非着用警告灯 ………236
運転席に座っての点検 ……………………424

え

エアコンガス（冷媒）の点検 ……………393
エアコン
　操作方法 …………………………………256
　手入れ ……………………………………393
エアフィルターの交換 ……………………393
ＡＦＳ ＯＦＦスイッチ……………………253
ＡＦＳ ＯＦＦ表示灯………………………225
ＡＢＳ、ブレーキアシスト
　ＥＢＤの働き ……………………………366
　ＡＢＳ、ブレーキアシストとは ………363
　ＡＢＳやブレーキアシストが
　　作動しているとき ……………………365
ＡＢＳ・ブレーキアシストについての
　注意…………………………………………61
ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯………228
ＳＲＳエアバッグ
　ＳＲＳエアバッグとは …………………340
　ＳＲＳエアバッグが作動するとき ……343
　ＳＲＳエアバッグ作動のしくみ ………342
ＳＲＳエアバッグ警告灯 …………………229
ＳＲＳエアバッグについての注意…………54
ＳＲＳカーテンシールドエアバッグ ……341
ＳＲＳサイドエアバッグ …………………341
ＳＲＳニーエアバッグ ……………………340
ＳＡＥ粘度（エンジンオイル）……………433
ＦＭサブアンテナ …………………………297
エマージェンシーレバー …………………126
ＭＤプレーヤーの使い方 …………………290
ＭＰ3を聞く ………………………………283
ＬＬＣ（冷却水）
　タンク容量、濃度 ………………………430
　冬の前の準備、点検 ……………………373
エンジン始動の手順 ………………………201

エンジンオイル
　オイル量 ……432
　注入口 ……415
　冬の前の準備、点検 ……373
　レベルゲージ位置 ……415
エンジン回転計（タコメーター）……219
エンジン警告灯 ……230
エンジン（イグニッション）スイッチ
　の使い方 ……200
エンジンのかけ方 ……201
エンジンルームから煙（水蒸気）
　が出ている ……464
エンジンルーム内ヒューズボックス ……400
エンジンルームの点検 ……415
エンストで始動できなくなったときは ……450

お

オイル類（メンテナンスデータ）……430
応急用タイヤについて ……446
オーディオの取り扱い
　アンテナ ……296
　MDプレーヤーの使い方 ……290
　MP3を聞く ……283
　CDプレーヤーの使い方 ……278
　使用上の留意点 ……303
　ステアリングスイッチの使い方 ……298
　WMAを聞く ……283
　電源・音量・音質調整 ……267
　ラジオの使い方 ……272
オートアラーム
　（盗難警報システム）……148、362
オートチルトアウェイ ＆
　リターン機能 ……193
オートドアロック機能の設定変更 ……118
オートマチック車についての注意 ……62
オートマチック車の運転のしかた
　走行のしかた ……212
　停車・駐車のしかた ……214
　発進のしかた ……210
オートマチックトランスアクスルフルード
　フルード量 ……430
オートマチックトランスミッション
　油温警告灯 ……235
オーバーヒートしたときは ……464
オーバーヒートについての注意 ……80
オーバーヘッドコンソール ……320
オープナー
　フューエルリッドオープナー ……143
　ボンネットオープナー ……146
お子さまを乗せるときの注意 ……38
お出かけ前の注意 ……15
オドメーター（積算距離計）……220

か

カーゴフック ……320
外気温度表示 ……335
外装の手入れ ……389
ガソリン（燃料）
　使用ガソリン、タンク容量 ……434
カップホルダー ……312
ガレージジャッキセット位置 ……79、459
環境に配慮した経済的な運転を
　するために ……382
環境保護のために ……385
寒冷時の取り扱い ……373
寒冷地用ワイパーブレード ……374

き

キー（ワイヤレスドアロックリモコン）
　キーナンバープレート ……111
　ドアの施錠・解錠のしかた ……113、116
　ワイヤレスドアロックリモコン
　　（キー）について ……110
キーOFF後作動機能 ……136、142
キーがまわせない ……200、207
キー閉じ込み防止機能 ……121
キー抜き忘れ防止チャイム ……121
キーのまわし方 ……200
キーレスエントリー
　（ワイヤレスドアロック）……113
キーキーと金属音がタイヤから聞こえる
　〈ブレーキパッドウェア
　　インジケーター〉……32
基準値（メンテナンスデータ）……428
キックダウン ……62
緊急停止のしかた ……472

く

空気圧（タイヤ）……………………………434
区間距離計（トリップメーター）…………220
曇り取りスイッチ（リヤウインドゥ
　デフォッガー）の使い方………………248
クラクション（ホーン）の使い方………252
クリープ現象…………………………………62
車の手入れ…………………………………388
車のまわりの点検…………………………421
グレード名称………………………………435
グローブボックス…………………………317

け

警告灯が点灯または点滅したままの
　ときは………………………………102、103
警音器（ホーン）…………………………252
計器類（メーター）………………………218
警告灯類（メーター）……………………226
経済的な運転………………………………382
化粧用ミラー（バニティミラー）…………306
けん引について……………………………467
けん引フック（格納場所）………………440

こ

工具の格納場所……………………………440
後退灯
　電球（バルブ）の交換…………………405
　ワット数…………………………………429
コートフック………………………………321
故障したときは……………………………450
子供専用シート
　シートベルトでの固定…………………187
　専用バーでの固定………………………188
　トップテザーアンカーでの固定………189
子供専用シートについて…………………178
子供専用シートについての注意……………45
小物入れ……………………………………322
コンソールボックス………………………318
コンビニフック……………………………323
コンライト（ヘッドランプ）……………238

さ

サイド方向指示灯
　操作方法（方向指示レバー）……………241
　電球（バルブ）の交換…………………411
　ワット数…………………………………429
サービスデータ
　（メンテナンスデータ）………………428
サンシェード………………………………141
サンバイザー………………………………306

し

ＣＤ・ＭＤ一体ＡＭ／ＦＭラジオ…………266
ＣＤプレーヤーの使い方…………………278
シーケンシャルシフトマチック付
　オートマチックトランスミッション…203
シーケンシャルシフトマチック表示灯…224
シートアレンジ
　インデックス……………………………164
　フラットシートのつくり方……………166
　リヤシート全席の前倒しのしかた……168
　リヤシート中央席のみの前倒しの
　　しかた…………………………………170
シートについての注意………………………41
シートの調整
　フロントシート…………………………154
　リヤシート………………………………160
シートベルト
　アジャスタブル
　　シートベルトアンカー………………176
　ＥＬＲ機構付シートベルト……………354
　着用のしかた……………………………175
　正しい着用………………………………172
　手入れ……………………………………391
　プリテンショナー ＆ フォースリミッター
　　付シートベルト………………………354
シートベルトについての注意………………48
シートベルト非着用警告灯………236、237
シガレットライター………………………316
事故が起きたときは………………………471
室内装備品の使い方………………………306

室内灯（ルームランプ）
　操作方法 ……………………………………308
　ワット数 ……………………………………429
シフトポジション表示灯……………………223
シフトレバーがⓅから動かせない ………207
シフトレバーの使い方
　シーケンシャルシフトマチック付オート
　　マチックトランスミッション ………203
　ＳＮＯＷスイッチ …………………………208
　Super ＥＣＴ ………………………………368
シフトレバー部照明 …………………………307
シフトレンジ表示 ……………………………224
シフトロックシステム ………………………207
シフト連動オートドアロック ………………118
シフト連動オートドアアンロック …………118
車速感応オートドアロック …………………118
ジャッキ
　格納位置 ……………………………………440
　ジャッキアップポイント
　　（セット位置）……………………………453
ジャッキアップについての注意……………77
ジャッキハンドル（格納場所） ……………440
車幅灯
　操作方法（ランプスイッチ）………………238
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
　ワット数 ……………………………………429
車幅灯表示灯 …………………………………224
車両型式 ………………………………………435
車両を緊急停止するには ……………………472
充電警告灯 ……………………………………234
衝撃感知ドアロック解除システム …………117
初期設定が必要な機能 ………………………438
助手席足元ヒューズボックス ………………402
助手席ＳＲＳエアバッグ ……………………340
助手席シートベルト非着用警告灯 …………237

す

水温計 …………………………………………220
水温計の針が赤いマークに入った …………464
スイッチの使い方 ……………………………238
Super ＥＣＴ
　Super ＥＣＴとは…………………………368
　登降坂変速制御システムの働き …………368
　フレックスロックアップ
　　システムの働き …………………………368
ステアリングスイッチ ………………………298
ストップランプ（制動灯）
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
スノータイヤ（冬用タイヤ）………………374
ＳＮＯＷスイッチ ……………………………208
スノーモード …………………………………208
スピードメーター ……………………………219
スペアタイヤ …………………………………443
スモールランプ（車幅灯）
　操作方法（ランプスイッチ）………………238
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
　ワット数 ……………………………………429

せ

制動灯（ストップランプ）
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
積算距離計（オドメーター）………………220
セキュリティ機能（ドアロック）…………117
セキュリティ表示灯 …………………………225
洗車 ……………………………………………389
前照灯（ヘッドランプ）
　操作方法（ランプスイッチ） ……………238
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
　ワット数 ……………………………………429

走行しての点検 ………………………………426
走行するときは（寒冷時の取り扱い）……377
走行するときの注意…………………………23
走行中、異常に気付いたら…………………30
走行できなくなったときは
　（けん引について）…………………………467
走行のしかた …………………………………212
速度計（スピードメーター）………………219

た

タイヤ
　空気圧 ……………………………………434
　スペアタイヤ ……………………………443
　タイヤサイズ ……………………………434
　タイヤチェーン …………………………374
　タイヤの点検 ………………………70、421
　タイヤローテーション
　　（タイヤ位置交換）……………………396
　冬用タイヤ ………………………………374
　ホイールサイズ …………………………434
タイヤについての注意…………………………70
タイヤを交換するときは …………………452
タコメーター（エンジン回転計）…………219
正しい運転姿勢（シート）…………………152
正しい着用（シートベルト）………………172
WMAを聞く ………………………………283

ち

チェーン（タイヤチェーン）………………374
チケットホルダー …………………………306
チルトステアリングレバー ………………194
チャイルドコンフォートガイド …………177
チャイルドシート
　シートベルトでの固定 …………………187
　専用バーでの固定 ………………………188
　トップテザーアンカーでの固定 ………189
チャイルドプロテクターの使い方 ………120
駐車するときは（寒冷時の取り扱い）……380
駐車灯（非常点滅灯）
　操作方法（非常点滅灯スイッチ）………250
　電球（バルブ）の交換 …………………405
　ワット数 …………………………………429
駐車のしかた ………………………………214
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
　操作方法（パーキングブレーキペダル）…216
　点検基準値 ………………………………428
駐停車するときの注意…………………………33

て

テールランプ（尾灯）
　操作方法（ランプスイッチ）……………238
　電球（バルブ）の交換 …………………412
　ワット数 …………………………………429
停車のしかた ………………………………214
ディスチャージヘッドランプ ……………356
ディファレンシャルオイル
　オイル量 …………………………………431
手入れ
　エアコンの手入れ ………………………393
　外装の手入れ ……………………………389
　内装の手入れ ……………………………391
　日頃の手入れ ……………………………388
デッキアンダートレイ ……………………328
デッキボード ………………………………329
電球（バルブ）
　交換要領 …………………………………405
　ワット数 …………………………………429
点検
　運転席に座っての点検 …………………424
　エンジンルームの点検 …………………415
　車のまわりの点検 ………………………421
　走行しての点検 …………………………426
　日常点検について ………………………414
点検基準値（メンテナンスデータ）………428
点検整備実施のお願い…………………………14
点検・手入れ時の注意…………………………68
電源・音量・音質調整 ……………………267
テンションリデューサー（ベルト圧迫感減少
　装置）機能付きシートベルトの働き …354
電動チルト & テレスコピック
　ステアリングスイッチ …………………193

と

ドアの施錠・解錠 ……………………………110
ドアカーテシランプ
　操作方法 ………………………………………311
　ワット数 ………………………………………429
ドアガラスの開閉 ……………………………135
ドアキー連動開閉機構 ………………………116
ドアポケット ……………………………………322
ドアミラーの調整 ……………………………196
ドアロックスイッチ …………………………117
ドアを開けたら「ポーン、ポーン」と
　音が鳴り続けた ……………………………121
登降坂変速制御システムの働き …………368
搭載工具 …………………………………………440
盗難防止システム
　エンジンイモビライザーシステム ……360
　オートアラーム
　　（盗難警報システム）…………148、362
時計 ………………………………………………334
トノカバー ………………………………………325
トランスアクスルフルード
　フルード量 ……………………………………430
トランスファーオイル
　オイル量 ………………………………………430
トランスミッション
　Super ＥＣＴ ………………………………368
トリップメーター（区間距離計）…………220

な

内外気切りかえスイッチ（空調）…………261
内装の手入れ …………………………………391

に

日常点検
　運転席に座っての点検 ……………………424
　エンジンルームの点検 ……………………415
　車のまわりの点検 …………………………421
　走行しての点検 ……………………………426
　日常点検について …………………………414

ね

燃料
　タンク容量 ……………………………………434
　燃料計 …………………………………………219
　燃料残量警告灯 ………………………………236
　燃料残量警告灯が点灯したときの
　　燃料の残量は ………………………………236
　燃料補給口（フューエルリッド）
　　の開閉 ………………………………………143
　燃料補給時の注意……………………………20

は

パーキングブレーキ
　操作方法（パーキングブレーキペダル）…216
　点検基準値 ……………………………………428
排気ガスに対する注意…………………………36
灰皿 ………………………………………………314
ハイビーム（ヘッドランプ上向き）
　操作方法（ランプスイッチ）……………240
　電球（バルブ）の交換 ……………………407
　ヘッドランプ上向き表示灯 ………………223
　ワット数 ………………………………………429
ハイマウントストップランプ
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
ハザードランプ（非常点滅灯）
　操作方法（非常点滅灯スイッチ）………250
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
　ワット数 ………………………………………429
挟み込み防止機構 ………134、136、141
発炎筒の使い方 ………………………………448
発進のしかた ……………………………………210
バックアップランプ（後退灯）
　電球（バルブ）の交換 ……………………405
　ワット数 ………………………………………429
バックガイドモニター
　……別冊「ＨＤＤナビゲーションシステム
　　　　取扱書」参照
バックドア
　初期設定 ………………………………………134
　操作方法 ………………………………………122

バックドアランプ
　操作方法……………………………………309
　ワット数……………………………………429
バックドアグリップ…………………………122
バックドア閉め忘れ防止ブザー……………133
バックドア連動巻き取り機能
　（トノカバー）……………………125、327
撥水機能付ガラス……………………………359
バッテリーがあがったときは………………461
バッテリーの点検……………………………416
バッテリーについての注意……………………75
パッドウェアインジケーター（ブレーキ
　パッドウェアインジケーター）………………32
バニティミラー（化粧用ミラー）
　操作方法……………………………………306
　ランプのワット数…………………………429
バルブ（電球）
　交換要領……………………………………405
　ワット数……………………………………429
パワーウインドゥが動かない………………137
パワーウインドゥ
　初期設定……………………………………137
　操作方法……………………………………135
パワーステアリングフルード
　フルード量…………………………………431
パワーバックドア
　自動開閉のしかた…………………………129
　初期設定……………………………………134
　バックドアイージークローザー…………127
パワーバックドア落下防止機構……………134
パワーバックドアリモコンスイッチ………131
番号灯
　操作方法（ランプスイッチ）………………238
　電球（バルブ）の交換……………………405
　ワット数……………………………………429
半ドア警告灯…………………………………236
半ドア警告ブザー
　ワイヤレスドアロック……………………115
　半ドア警告灯………………………………236
ハンドルが重くなった…………………………31
ハンドルの調整………………………………193
パンクしたときは……………………………452

ひ

日頃の手入れ…………………………………388
非常点滅灯
　操作方法（非常点滅灯スイッチ）…………250
　電球（バルブ）の交換……………………405
　ワット数……………………………………429
尾灯
　操作方法（ランプスイッチ）………………238
　電球（バルブ）の交換……………………412
　ワット数……………………………………429
ヒューズの点検、交換………………………399
ヒューズボックス
　エンジンルーム内ヒューズボックス……400
　助手席足元ヒューズボックス……………402
表示灯類（メーター）………………………221
日よけ（サンバイザー）……………………306
ピーピーピーと長い音のくり返し
　〈リバース（後退）ブザー〉………………203
ピーピーピーと短い音のくり返し
　〈バックドア閉め忘れ防止ブザー〉………133

ふ

Vリブドベルト（点検基準値）………………428
フォグランプの使い方
　フロントフォグランプ……………………242
　リヤフォグランプ…………………………243
フォースリミッター付シートベルト………354
吹き出し口の調整……………………………264
フック
　カーゴフック………………………………320
　けん引フック…………………………440、467
　コートフック………………………………321
　コンビニフック……………………………323
フューエルキャップの開閉…………………143
フューエルメーター（燃料計）……………219
フューエルリッド（燃料補給口）の
　開閉…………………………………………143

フューエルリッドオープナー……………143
冬の前の準備、点検………………………373
冬用タイヤ…………………………………374
フラットシートのつくり方………………166
プリテンショナー＆フォースリミッター付
　シートベルト……………………………354
プリテンショナー警告灯…………………229
フルタイム4WD …………………………367
ブレーキアシスト…………………………363
ブレーキ警告灯……………………………232
ブレーキペダル（点検基準値）……………428
ブレーキパッドウェアインジケーター……32
ブレーキフルード
　点検方法…………………………………416
　リザーバータンクの位置………………415
ブレーキを踏むと「キーキー」と
　音がする…………………………………32
フレックスロックアップシステムの
　働き………………………………………368
フロアマット………………………………338
フロント＆サイドモニター
　……別冊「HDDナビゲーションシステム
　　　　取扱書」参照
フロントシート
　シート調整のしかた……………………154
　ヘッドレスト調整のしかた……………157
フロントパーソナルランプ………………307
フロントフォグランプ
　操作方法（フォグランプスイッチ）……242
　電球（バルブ）の交換…………………410
　ワット数…………………………………429
フロントフォグランプ表示灯……………223
フロント方向指示灯
　操作方法（方向指示レバー）……………241
　電球（バルブ）の交換…………………409
　ワット数…………………………………429
フロントルームランプ
　操作方法…………………………………308
　ワット数…………………………………429
フロントワイパーデアイサーの
　使い方……………………………………249

ヘッドランプ
　操作方法（ランプスイッチ）……………238
　電球（バルブ）の交換…………………405
　ワット数…………………………………429
ヘッドランプ上向き表示灯………………223
ヘッドレストの調整
　フロントシート…………………………157
　リヤシート………………………………161
ベビーシート
　シートベルトでの固定…………………187
　専用バーでの固定………………………188
　トップテザーアンカーでの固定………189

ほ

ホイールサイズ……………………………434
ホイールナットレンチ（格納場所）……440
ホイール（タイヤ）の交換………………452
方向指示灯
　操作方法（方向指示レバー）……………241
　電球（バルブ）の交換…………………405
　ワット数…………………………………429
方向指示表示灯……………………………223
ホーンの使い方……………………………252
ポーンと1回音が鳴る
　〈マルチパネルムーンルーフ
　　閉め忘れ警告チャイム〉………………142
ポーン、ポーンと短い音のくり返し
　〈キー抜き忘れ防止チャイム〉…………121
補助確認装置………………………………199
ボンネットから煙（水蒸気）が
　出ている…………………………………464
ボンネットの開閉…………………………146
ボンネットオープナー……………………146

ま

マップランプ
　操作方法 ……………………………………307
　ワット数 ……………………………………429
マルチインフォメーション
　ディスプレイ ………………………………330
マルチパネルムーンルーフ
　操作方法 ……………………………………139
　閉め忘れ警告チャイム ……………………142
万一の事故のときの注意 ……………………81

み

ミラーの調整
　インナーミラー ……………………………195
　ドアミラー …………………………………196
　補助確認装置 ………………………………199
ミラーヒーターの使い方 ……………………198

む

ムーンルーフ
　（マルチパネルムーンルーフ）……………139

め

メーター照度調整ダイヤル …………………251
メーター類 ……………………………………218
メンテナンスデータ（点検基準値）…………428

ゆ

油圧警告灯 ……………………………………234
ユーザーカスタマイズ ………………………436
油脂類の容量と銘柄 …………………………430

よ

4WD車についての注意 ………………………65

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
　操作方法（ランプスイッチ）………………238
　バルブ交換 …………………………………405
　ワット数 ……………………………………429
ランプスイッチの使い方 ……………………238
ラゲージランプ
　操作方法 ……………………………………309
　ワット数 ……………………………………429
ラジエーター
　オーバーヒートしたときは ………………464
　ラジエーターキャップの
　　位置 ………………………………………415
　リザーバータンクの位置 …………………415
　冷却水濃度、容量 …………………………430
ラジオの使い方 ………………………………272
ラジオ用アンテナ ……………………………296
ランバーサポート ……………………………156

り

リクライニング調整のしかた
　フロントシート……154
　リヤシート……160
リバース（後退）ブザー……203
リモコンスイッチ
　（ワイヤレスドアロックリモコン）
　操作方法……113
　電池交換……397
リヤウインドゥデフォッガー
　（曇り取り）の使い方……248
リヤシート
　アームレストの使い方……162
　シート調整のしかた……160
　ヘッドレスト調整のしかた……161
リヤシートの前倒し
　全席の前倒し……168
　中央席のみの前倒し……170
リヤディファレンシャルオイル
　オイル量……431
リヤフォグランプ
　操作方法（フォグランプスイッチ）……243
　電球（バルブ）の交換……413
　ワット数……429
リヤフォグランプ表示灯……223
リヤ方向指示灯
　操作方法（方向指示レバー）……241
　電球（バルブ）の交換……405
　ワット数……429
リヤルームランプ……308
　ワット数……429

る

ルームミラー（インナーミラー）……195
ルームランプ（室内灯）
　操作方法……308
　ワット数……429

れ

冷却水
　オーバーヒートしたときは……464
　濃度、容量……430
　冬の前の準備、点検……373
　リザーバータンクの位置……415
レインクリアリングミラー……357

ロービーム（ヘッドランプ）
　操作方法（ランプスイッチ）……238
　電球（バルブ）の交換……405
　ワット数……429
路上で故障したときは……450
ロックレバー……119

わ

ワイパー ＆ ウォッシャースイッチ
　……244
ワイヤレスドアロックドアロックリモコン
　操作方法……113
　電池交換……397
　ワイヤレスドアロックリモコン
　　スイッチ連動開閉機構……115
ワックス……390
ワット数……429
輪止め……378、452

警告灯さくいん

ＡＢＳ ＆ ブレーキアシスト警告灯 P.228

油圧警告灯 P.234

ＳＲＳエアバッグ／プリテンショナー警告灯 P.229

A/T OIL TEMP

オートマチックトランスミッション油温警告灯 P.235

エンジン警告灯 P.230

燃料残量警告灯 P.236

ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯 P.231

半ドア警告灯 P.236

ブレーキ警告灯 P.232

運転席シートベルト非着用警告灯 P.236

充電警告灯 P.234

助手席シートベルト非着用警告灯 P.237

ハリアー

ア-51

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール 0800-700-7700

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社

http://toyota.jp

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●印刷 NA I -2010年 8 月19日 ●発行 -2010年 8 月26日 初版

M 48B24
01999－48B24